

官報

號外

明治四十四年三月二十一日

火曜日

印刷局

○第二十七回衆議院議事速記録第二十五號

明治四十四年三月二十日(月曜日)午前十時十九分開議

議事日程 第二十四號 明治四十四年三月二十日

午前十時開議

- 第一 商法中改正法律案外一件兩院協議會委員選舉ノ件
- 第二 新田神社昇格ノ建議案(武藤金吉君外二名提出)
- 第三 高野山國寶中古書畫古器物保存ニ關スル建議案(千田軍之助君提出)
- 第四 名勝地維持保存ニ關スル建議案(森國造君外二名提出)
- 第五 農政改良ニ關スル建議案(根岸龍太郎君提出)
- 第六 人工降雨試驗ニ關スル建議案(早川龍介君提出)
- 第七 前參議司法卿江藤新平表彰ニ關スル建議案(尾行雄君外六名提出)
- 第八 千葉縣立國藝專門學校ヲ文部省直轄ト爲スノ建議案(稻村辰次郎君外一名提出)
- 第九 高等學校増設ニ關スル建議案(宮古啓三郎君外二名提出)
- 第十 (特別報告第百五十四號)郡域變更ノ請願
- 第十一 (特別報告第百五十五號)縣社御昇格ノ請願
- 第十二 (特別報告第百五十七號)登記所位置變更ニ關スル請願
- 第十三 (特別報告第百五十九號)故北白川宮殿下宮社創建ノ請願
- 第十四 (特別報告第百六十號)日清銀行設立ノ請願
- 第十五 (特別報告第百六十一號)汽船「トロール」漁業取締ノ請願
- 第十六 (特別報告第百六十二號)漁業基本調査機關特設ノ請願
- 第十七 (特別報告第百六十三號)水產獎勵法制定ノ請願
- 第十八 (特別報告第百六十四號)水產會法制定ノ請願
- 第十九 (特別報告第百六十五號)兒島灣養貝業解放ノ請願

- 第二十 (特別報告第百六十六號)新炭原料用官林拂下價格低減ノ請願
- 第二十一 (特別報告第百六十七號)新炭原料ノ殖林方ノ請願
- 第二十二 (特別報告第百六十八號)郵便局設置ノ請願
- 第二十三 (特別報告第百六十九號)郵便局設置ノ請願
- 第二十四 (特別報告第百七十號)白石上山間鐵道速成ノ請願
- 第二十五 (特別報告第百七十二號)山陰山陽連絡線ノ請願
- 第二十六 (特別報告第百七十三號)出雲國田儀郵便局集配事務開始ノ請願
- 第二十七 (特別報告第百七十四號)漁港修築ノ請願
- 第二十八 (特別報告第百七十五號)舊琉球藩吏役俸處分法制定ノ請願
- 第二十九 (特別報告第百七十六號)地租過剩金下戻ノ請願
- 第三十 (特別報告第百七十七號)賣藥稅法改正ノ請願
- 第三十一 (特別報告第百七十八號)贈從四位森山新藏父子追錄ノ請願
- 第三十二 (特別報告第百七十九號)登記所増設速成ノ請願
- 第三十三 (特別報告第百八十號)登記取扱ノ請願
- 第三十四 (特別報告第百八十一號)七尾灣築港ニ關スル請願
- 第三十五 (特別報告第百八十二號)拙著平家音樂史全國中學以上ノ學校及圖書館ニ御配賦御供具ニ關スル請願
- 第三十六 (特別報告第百八十三號)北海道帝國大學設立ノ請願
- 第三十七 (特別報告第百八十四號)三濱避難漁港築堤ノ請願
- 第三十八 (特別報告第百八十五號)島根縣四見郵便局電信開始ノ請願
- 第三十九 (特別報告第百八十六號)郵便局集配事務開始ノ請願
- 第四十 (特別報告第百八十七號)鐵道停車場設置ノ請願

- 第四十一 (特別報告第百八十九號) 郵便局集配事務開始ノ請願 (委員長報告)
- 第四十二 (特別報告第百九十號) 九州中央鐵道敷設ノ請願 (委員長報告)
- 第四十三 (特別報告第百九十一號) 鐵道敷設ノ請願 (委員長報告)
- 第四十四 (特別報告第百九十二號) 郵便局設置ノ請願 (委員長報告)
- 第四十五 (特別報告第百九十三號) 按摩業ヲ盲人ノ專業ト爲スノ請願外十八件 (委員長報告)
- 第四十六 (特別報告第百九十四號) 民屬金下附ノ請願 (委員長報告)
- 第四十七 (特別報告第百九十五號) 七尾築港ノ請願 (委員長報告)
- 第四十八 (特別報告第百九十六號) 永代借地若クハ其地上ニアル建造物ヲ本邦人ノ所有ト爲シタル場合ニハ右物件ニ對スル免稅ノ請願 (委員長報告)
- 第四十九 (特別報告第百九十七號) 府縣界變更ノ請願 (委員長報告)
- 第五十 (特別報告第百九十八號) 地方裁判所支部開廳ノ請願外十八件 (委員長報告)
- 第五十一 (特別報告第百九十九號) 郵便局設置ノ請願 (委員長報告)
- 第五十二 (特別報告第二百號) 電信架設ノ請願 (委員長報告)
- 第五十三 (特別報告第二百一號) 朝鮮訴訟代理業者ニ關スル請願 (委員長報告)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)
一 去ル十八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

民事訴訟勸解法案

- | | | |
|-------------------|---------|----------|
| 塚田 啓太郎君 | 阿部 德三郎君 | 松田 吉三郎君 |
| 河上 英君 | 高木 益太郎君 | 藤代 市之輔君 |
| 森 肇君 | 矢島 浦太郎君 | 加瀬 禧逸君 |
| 南極探検事業國庫補助ニ關スル建議案 | 小久保 喜七君 | 吉植 庄一郎君 |
| 菊池 侃二君 | 川村 曄君 | 佐々木 安五郎君 |
| 三浦 盛德君 | 森 秀次君 | 加藤 恆忠君 |
| 高木 正年君 | 鷺田 土三郎君 | 高原 篤行君 |
| 小林 庄一郎君 | 手塚 正次君 | 村松 龜一郎君 |
| 丹尾 賴馬君 | 荒川 五郎君 | 佐藤 庫喜君 |
| 日野 國明君 | 荒川 五郎君 | 佐藤 庫喜君 |
| 國設模範製絲所創設ニ關スル建議案 | 伊東 祐賢君 | 大井 卜新君 |
| 森 國造君 | 木下 義之君 | 中島 祐八君 |
| 田中 龜之助君 | 平島 松尾君 | 丸山 孝一郎君 |
| 關田 嘉七郎君 | | |
| 郡城變更ニ關スル建議案 | | |
| 塚田 啓太郎君 | 春田 祐清君 | 山田 桃作君 |

- | | | |
|-----------------------------|----------|----------|
| 水間 此農夫君 | 有本 國藏君 | 福田 又一君 |
| 綾部 惣兵衛君 | 須藤 嘉吉君 | 關口 安太郎君 |
| 私設交通機關ニ對スル政府ノ方針ニ關スル建議案 | | |
| 戸水 寛人君 | 高橋 政右衛門君 | 小山田 信藏君 |
| 安川 保次郎君 | 大久保 弁太郎君 | 守屋 此助君 |
| 澤 來太郎君 | 牧野 平五郎君 | 神藤 才一君 |
| 官立精神病院設置ニ關スル建議案 | | |
| 町田 旦龍君 | 八木 逸郎君 | 青柳 信五郎君 |
| 森 茂生君 | 古 森 泰君 | 國井 庫君 |
| 長場 龍太郎君 | 山根 正次君 | 石田 平吉君 |
| 京都市立陶磁器試驗場ヲ農商務省直轄ト爲スノ建議案外一件 | | |
| 川崎 安之助君 | 宮古 啓三郎君 | 古賀 庸藏君 |
| 米田 鑲君 | 水野 正己君 | 榎 瀨 軍之佐君 |
| 阪本 彌一郎君 | 中安 信三郎君 | 濱岡 光哲君 |
| 又同日議長ニ於テ選定シタル兩院協議委員左ノ如シ | | |
| 行政裁判法中改正法律案 | | |
| 元田 肇君 | 菊池 侃二君 | 宮古 啓三郎君 |
| 翠川 鐵三君 | 齋藤 二郎君 | 卜部 喜太郎君 |
| 高木 益太郎君 | 佐野 春五君 | 阪本 彌一郎君 |
| 加瀬 禧逸君 | | |

- 一 委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ
治安警察法中改正法律案委員會
委員長 翠川 鐵三君 理事 高木 益太郎君

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)
領事館設置ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月七日
提出者 根本 正 贊成者 齋藤 二郎 外三十一人

領事館設置ニ關スル質問主意書
北米合衆國カリフォルニア州中ノ所謂南加州ハ面積廣大ニシテ氣候溫良產物亦饒多從テ人口ノ激増實ニ驚クヘキモノアリ本邦人ノ如キ移民制限ノ結果多少減少シタリト雖現ニ居住スルモノ尙且一萬二千三百餘人ヲ有ス去レハ各國相競フテ其ノロスアンゼルス市ニ領事館ヲ設置セルモノ英吉利、佛蘭西、獨逸、白耳義、エクエアル、ホンヂュラス、ニカラガ、伯露、伊太利、墨西哥ノ十箇國ヲ算ス然ルニ多數ノ居住民ヲ有スル我カ帝國ニ於テ獨リ領事館ヲ設ケナキハ果シテ如何一昨年度ニ於ケル諸證明等ノ取扱件數ヲ案スルモ四千三百餘件ノ多キニ上リ悉ク羅府日本人會ノ保證ヲ經テ桑港總領事館ニ出願スルノ不便ヲ來タセリ此ノ如キハ本邦居住民ニ對シ甚シキ怠慢不親切ト謂ハサルヘカラス政府ハ現狀ニ顧ミ同市ニ速ニ帝國領事館ヲ設置スルノ意思アラサル乎
右及質問候也

朝鮮總督府ノ施政ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

明治四十四年三月九日

提出者 大竹 貫一

賛成者 石橋 爲之助

外三十一人

朝鮮總督府ノ施政ニ關スル質問主意書

一 母國人ノ朝鮮移住ニ對シ總督府ハ果シテ如何ナル政策ヲ採リツアルカ其ノ方針ノ明示ヲ望ム

朝鮮併合ト共ニ總督府ハ直ニ飲食店、仲介業者、金貸業者、代書人、一種ノ企業者又ハ求職者等ニ對スル各取締規則ヲ續發セルヲ初メトシ或ハ會社令ヲ布キテ企業ヲ拘束シ或ハ鑛山、森林、未墾地等ノ出願ニ向テ不許可主義ヲ內定シ甚シキハ官吏ノ年末年始ノ贈答品ヲ禁シ又ハ歲暮賣出シ景品ノ制限ヲ爲ス等微細ノ點迄苛酷ノ干渉ヲ加ヘ爲メ人氣ヲ沮喪セシメ市場ヲ沈衰セシムルニ至レリ而シテ是等ノ干渉ト壓迫トハ特ニ母國人ヲ目標トセルモノニシテ今ヤ實際ニ於テ恆產若ハ定職ナキ母國人ハ全然其ノ移住ヲ禁遏セラレトスルノ狀況ニ在リ以上ハ實ニ彼地ニ於ケル一般民間ノ所說ニシテ近時總督府ノ施政ニ對シ我カ母國人カ多大ノ不平ヲ抱キツツアルハ誣ユヘカサル事實ナルカ如シ如是ハ曩ニ我カ移民ノ滿韓集中ヲ主張セシ政府ノ態度ニ顧ミテ頗ル矛盾ノ現象ト云フヘク却テ其ノ方針ヲ破壞スルモノト爲ササルヘカラス是レ果シテ當局者ノ眞意ナルカ

二 總督府ハ甚シク言論ヲ拘束シ苟モ總督府ニ關シテ云々スルモノハ其ノ事ノ如何ヲ問ハス殆ト絶對ニ禁壓セムトスルノ風アリト聞ク事實果シテ然ルヤ否ヤ若然リトモハ是レ何ノ必要ニ因ルカ其ノ理由ノ説明ヲ求ム

總督府ハ朝鮮併合ト共ニ新聞統一ヲ計リ一面民間新聞ノ買收ヲ行ヒ一面新聞、通信ノ新設ヲ許可セサルノ方針ヲ採ルノミナラス僅ニ殘存セル民間新聞若ハ通信等ニ對シテハ殆ト常識ヲ以テ準スヘカサル迄極端ノ干渉ヲ加ヘ苟モ言論ノ總督政治ニ及アラレハ忽チ發行停止等ノ處分ヲ敢テスル風アリ現ニ昨年末一通信カ市場蕭條ノ不景氣ヲ致シ其ノ原因ノ一トシテ官吏ノ年末年始ノ贈答品ヲ禁止シタルコトヲ以テセシニ忽チ發行停止ヲ命セラレタルカ如キ以テ其ノ一斑ヲ察スヘシ又近來ハ母國ヨリ輸送スル新聞紙ニ對シ併合當時釜山ニテ行ヒシト同一ノ程度ニ極メテ嚴酷ナル檢閲ヲ試シ苟モ總督政治ニ關シ云々スルモノハ一切其ノ輸入ヲ禁止スルノ目的ヲ以テ新ニ新聞紙取締規則ヲ制定シ將ニ之ヲ發布セムトスト傳ヘラレ甚シキハ新聞記者ニ免許制度ヲ布カムトスルノ内讀サヘ提出セラレタリト聞ク其ノ如何ニ苛酷ノ傾向ヲ示シツアルカハ推測ニ餘アルカ如シ若果シテ如是ノ事實アリトモハ當局者ハ何ノ必要アリテカ爾カク言論ノ壓迫ヲ試ミムトスルカ

三 朝鮮社會社令ハ彼地實業界ニ多大ノ不便ト惡影響トヲ與ヘツツアリト云フ真相果シテ如何

朝鮮社會社令發布ト共ニ官憲側ノ吹聴スル所ニテハ彼地實業社會ニ於テ同令ヲ歡迎セルカノ如クナルモ事實ハ全ク之ニ反シ今ヤ母國人ト朝鮮人トヲ問ハス苛酷ノ惡法トシテ之ヲ排シ爲メ社會事業ノ勃興ヲ阻害シ殊ニ朝鮮人間ニハ近來漸ク發達セムトセシ企業心ヲ挫折シ一般團體的企業ヲ避クルニ至リ其ノ經濟界ニ及ボス惡影響少々ニアラスト云フ現ニ昨今會社組織ヲ變シテ組合組織ト爲スモノ頻々

トシテ現ハルカ如キ亦該令ノ影響ニ外ナラサルニ似タリ而モ當局者ハ尙該令ノ必要ト信用トヲ自信シツツアリヤ

四 鑛山、森林、未墾地、漁區等ノ出願ニ對シ總督府ハ大體ニ利源閉鎖ノ方針ヲ採リ不許可主義ヲ內決シ居レトノ說專ラナリ果シテ如是ノ事實アリヤ否ヤ鑛山、森林、未墾地、漁區等ノ出願件數今ヤ數千件ニ達シ當局者ノ机上其ノ願書ノ山ヲ爲シツツアルニ拘ラス尙多クハ之カ解決ヲ與ヘサルカ上ニ其ノ有望ナル材料ハ大體之ヲ不許可ヲラシメムトスルノ内讀アリト聞ク殊ニ鑛山中鐵鑛ノ如キハ或ハ官營主義ヲ採ルマカ爲其ノ有望ナルモノハ一切之ヲ許可セサル方針ナリトノ說アリ當局者ハ果シテ如是方針ノ下ニ民間ニ對シ其ノ利源ヲ閉鎖セムトスルノ眞意ナルカ假ニ斯ル方針ヲ採ルトシテモ從來適法ノ手續ニ依リ提出シタル出願ニ對シ其ノ既往ニ溯リテ之ヲ奪ヒ去ルカ如キハ穩當ノ措置ナルヘキカ

五 朝鮮ニ於ケル外人側ノ我カ總督政治ニ對スル感情ハ果シテ好良ノ傾向アリヤ聞ク所ニ依レハ彼地ニ於ケル外人側ハ一般ニ我カ總督政治ニ對シテ民政ヲ假裝セル軍政ナリト稱シ特ニ憲兵制度ヲ惡ムコト蛇蝎ノ如シト云フ事情果シテ如何

六 總督府側ノ揚言ニ依レハ併合後朝鮮人ハ頗ル我カ總督政治ニ悅服セルカノ如クナルモ事實ハ全然之ニ反シ今ヤ朝鮮人ハ一般ニ多大ノ失望ヲ以テ我カ施政ヲ怨嗟シツツアリト聞ク真相果シテ如何

現ニ昨年末黃海、全南地方ニ蜂起セル暴徒ハ從來ノ草賊ト趣ヲ異ニシ當時當事者ハ例年未ノ鼠賊ノミト辯明セルニ拘ラス密ニ龍山駐屯軍ヲ殆ト全部ヲ動カシテ討伐ニ從事セシヤノ說アリ朝鮮人ハ之ヲ以テ總督政治ニ對スル不平者ノ煽動ニ出タルモノト認メツツアリ又近時朝鮮人中間島移住者ノ益増加スルハ獨リ生活上ノ必要ヨリ來ルモノニアラスシテ政治的不平ニ因スルモノ亦少カラサルカ如ク且彼等ノ所謂大官連ナル上流社會ニ於テモ亦我カ總督政治ノ武斷的壓迫ニ對シテ多大ノ反感ヲ抱キ心竊ニ他國ノ干渉ヲ希望スルノ風アリ今ヤ彼等ノ上下ヲ通シテ漸ク我カ政治ヲ嫌忌シ民心日々ニ離反スルノ傾向アリト傳ヘラル而モ當局者ハ今モ尙彼等ノ悅服ヲ信シ毫モ不良ノ傾向ナシト認メツツアリヤ

七 曩日朝鮮貴族ニ對スル授爵ノ御沙汰ニ關シ其ノ詮衡ニ不平ヲ抱ク者多ク爲ニ物議ヲ醸スニ至リシト聞ク事實果シテ如何

當時授爵ニ關スル詮衡ハ專ラ李完用、趙重應等二三氏ノ手ニ一任セラレシ爲其ノ結果頗ル公平ヲ缺キ均衡ヲ失シ朝鮮人間ニ多大ノ不平ト物議トヲ招キ彼ノ謹厚ナル元老金允植氏スラ尙且憤然トシテ一時辭退ノ意ヲ漏スニ至リ終ニ金聲根、尹用求、洪淳馨、金庚鎮、韓圭高、俞吉濬、李容元、趙鼎九、趙慶鎬等ノ人々ハ頂トシテ右ノ御沙汰ニ應セス殊ニ金庚鎮ハ爲ニ毒ヲ仰テ自殺ヲ遂ケ趙鼎九モ亦自殺ヲ謀ラムトセシト云フカ如キ不體裁ヲ曝露スルニ至レリト聞ク若如是ノ事實アラムニハ苟モ大命ニ對シ奉リ斯ル不體裁ヲ招致セシハ頗ル恐懼ノ至リニシテ當局者カ豫メ慎重ノ詮衡ヲ遂ケサリシ責ハ到底免ルヘカサルカ如シ

八 朝鮮ニ於ケル教育方針如何

朝鮮ニ於ケル教育事業ハ其ノ統治上一日モ忽ニスヘカサル緊要問題タリ然ルニ併合後ノ教育狀態ハ尙從來ノ儘ニシテ各學校ノ職制等ニ對シテモ未タ何等施設スル所アルヲ見ス其ノ教科書モ亦一定ノモノアルナシ從テ彼ノ外國宣教師等ノ設立セル各學校ハ地方ニ依リ依然トシテ從來ノ排日的教育ヲ使用シテ憚ラサルモノ多シト云フ事實果シテ然ルヤ否ヤ

九 朝鮮ノ統治上其ノ地方行政ハ最重要キヲ置カサルヘカラス而モ總督府ハ之ニ伴フ施設ヲ完備シツアリヤ
地方行政ニ重キヲ置クト共ニ地方官ノ權限ヲ擴張スヘシトハ當 初當局者モ亦公言セシ所ナルモ今日ノ事實ハ益中央集權ニ傾キ現ニ地方官ハ尙警察權ヲモ付與セラレ且其ノ人材選擇ノ上ニモ疑議スヘキモノ多キニ似タリ如是ニシテ果シテ地方行政ノ發達ヲ期スヘキカ
右及質問候也

市町村制ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月九日

提出者 大橋 頼模

贊成者 伊東 要藏
外三十八人

第一 市町村制ニ關スル質問主意書

改正町制第四條ニ據レハ町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス云々及第三十二條選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議申立ノ場合ニ於ケル町村會ノ決定ニ對シ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得トアリ現行法ニ於テハ前條ノ場合ハ郡參事會ニ於テ裁決シ其ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ得ヘキ規定ナルカ郡參事會ヲ廢止シ直ニ府縣參事會ニ提議スルコトニ改正シタル其ノ理由如何

第二 改正町制ニ據レハ從來郡參事會ニ於テ決定又ハ裁決セシ事項ハ其ノ權限ヲ府縣參事會ニ移シタルハ全然郡參事會ヲ不必要ト認メタルニ依ルカ

第三 改正町制第七條、市制第九條ニ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ終身公民權ヲ失ハシメリ其ノ罪質ノ如何ヲ問ハス公民權ヲ付與セザル理由如何

第四 改正町制第十五條、市制第十八條ニ市又ハ町村ニ對シ常ニ工事ノ請負、物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ市町村ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ市又ハ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セスト在ルハ左ノ場合ニ於ケル被選舉權ヲ有スルヤ否
(一)市又ハ町村ニ於テ道路改良若ハ耕地整理、學校役場ヲ建築スルニ際シ公入札又ハ指名入札ノ結果請負ヲ命セラレタルトキ現ニ市會又ハ町村會議員ノ職ニ在ル者其ノ資格ヲ失フヤ否
(二)常ニ工事請負云々トアルハ平素市役所又ハ町村役場ヘ出入セル所謂用達商人ヲ指示スルモノニシテ偶々市又ハ町村ノ道路橋樑耕地整理建築請負ヲ爲スモ市若ハ町村ニ對シ主トシテ其ノ請負ヲ爲ス者ニ非ラサル限リハ議員ノ資格ニ關係ナキヤ
(三)市又ハ町村役場ニ對シ常ニ通帳ヲ以テ筆墨用紙薪炭油ヲ供給スル者ハ被選舉權アリヤ否
(四)市又ハ町村役場ニ對シ電燈、瓦斯ヲ供給スル者及其ノ法人ノ役員ハ被選舉權アリヤ否
(五)前項若被選舉權ナシトセハ電燈、瓦斯ノ供給者及其ノ法人タル役員ハ議員ノ資格ヲ保有スル爲市又ハ町村役場ヨリ電燈又ハ瓦斯點燈ヲ申込ミタルトキ其ノ要求ヲ拒絕セハ如何

(一)市又ハ町村役場ノ公金出納ヲ囑託セラレタル銀行ノ取締及監查役ハ總テ被選舉權ナキヤ

第五 市又ハ町村ノ營造物管理ヲ囑託セラレ又ハ財產保管ヲ囑託セラレタルトキ市又ハ町村ヨリ一定ノ報酬手當ヲ受クル者ハ被選舉權ナキヤ

第六 改正町制第三百二十條前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サントスルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシトアル其ノ所謂協議ト稱スルハ組合内各町村會ノ決議ヲ要スルモノナル乎果シテ然ラハ後二十箇町村カ一部ノ事務ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ成立シタル後更ニ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ共同事務ノ變更ヲ爲サントスルトキ組合町村ノ内九箇町村ハ同意決議セシモ一町村カ否決シタルトキハ協議成立セサルモノトシテ同條末項ニ基キ府縣參事會ノ決定ヲ待ツノ外途ナキヤ

第七 事務ノ一部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設テ改正町制第三百二十二條第二項ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ受クヘキモノニ非ラサルカ

第八 市稅特別稅トシテ家屋割稅ヲ賦課スルトキハ戶數割稅ヲ併課スルコトヲ得サルヤ

第九 市内ニ住所ヲ有スルモ土地家屋ヲ有セス特別稅トシテ家屋稅ノミヲ賦課スルトキハ全然市稅ノ分擔ヲ爲サス此ノ場合ハ市稅トシテ戶數割稅若ハ居住稅ヲ賦課スルコトハ差支ヘナキヤ

第十 市内ニ住所ヲ有セス又土地家屋ヲ所有セス雖一定ノ場所ニ滞在シ行商卸小賣業ヲ營ム者ハ市制第一百九條ニ依リ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲スモノト見做シ市稅ノ標準率ニ基ケル營業割稅ヲ納ムルノ義務アリヤ否

右及質問候也
外交ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十一日

提出者 佐々木安五郎

贊成者 高木益太郎
外二十九人

外交ニ關スル質問主意書
一 小村外相カ帝國外交ノ方針トシテ公示セル東洋ノ平和ヲ維持シ帝國ノ安固ヲ確保シ併セテ帝國ノ利權ヲ擁護ス云々トハ外交ノ目的ト云フヘキモノニシテ方針ト稱スヘキモノニ非ス政府ハ外交ノ目的ト方針ト間違ヘ居ルモノノ如シ依リテ改メテ其ノ方針ヲ問フ

二 當局ノ外交事項ハ國內ニ秘密ヲ頑守シテ國外ニ露出ラ防カス内外ヲ顛倒セルノ嫌ヒアリ斯ノ如クニシテ外交秘密ト云フハ國民ヲ疎外シテ徒ニ疑懼不安ヲ抱カシムルニ過キス政府ハ將來モ猶此ノ態度ヲ持續セムト欲スルカ

三 外相ノ言明セル國交ノ親善若ハ敦厚ハ當局自ラ認メタル各國ノ排日熱ト併行シテ相悖ラサル性質ノモノナリヤ如何

四 大和民族ノ發展トハ滿韓集中ノ如キ縮小策ノ別名ナリヤ而モ滿韓集中ノ言明アリタル後滿韓在任ノ同胞ハ却テ母國ニ退嬰セムトスル者多キヲ加ヘタルノ觀アリ之ヲ猶發展ト稱シ得ヘキヤ若然ラステ言ハハ當局ノ執リ來レル集中ノ方法及其ノ結果トシテ現ハレタル集中増率ヲ具體的ニ示サレタシ

五 外交ノ本義ハ國勢ノ發展ヲ期スルニ在ルハ言フ待タルモ國勢ノ發展ハ危險思
想ヲ誘致スルコト内務大臣所說ノ如シトスレハ外相ハ如何ニシテ此ノ危險ヲ妨遏
シテ而モ能ク其ノ本義ヲ貫徹セムトスルカ此ノ點ニ付テ外相ハ内務大臣ト根本的
觀察ヲ一ニスルヤ否ヤ

六 日英博覽會ノ結果ニ對シテハ農商務大臣ト外相ト其ノ所見ヲ異ニセルカ如シ
知ラス孰レヲ正當トシテ受取ルヘキヤ

七 外交上任意ノ屈辱ハ屈辱トスルニ足ラサルカ若任意ノ屈辱モ猶屈辱ナリトセハ
日米條約第二條但書削除ハ即チ此ノ義ニ該當セサヤ外相ノ之ニ對スル見解如何

八 政府ハ輿論ノ後援及識者ノ斡旋等凡テ國民の外交ヲ無視スル傾ナキヤ

九 清國遊歷者中彼國暴民ノ毒手ニ罹リ慘禍ニ陷リタル能美寬及中西正樹等ニ
對スル當局ノ措置ヲ問フ

十 清國ニ於ケル外交ノ不振ハ如何ニシテ之ヲ恢復スヘキカ政府ノ畫策如何
右及質問候也

朝鮮ノ關稅ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十三日
提出者 早速 整爾
贊成者 花井 卓藏
外三十人

朝鮮ノ關稅ニ關スル再質問主意書
一 朝鮮從來ノ關稅率維持カ「諸外國人ノ朝鮮ニ於テ有スル所ノ經濟的利益ニ不
利ノ影響ヲ及ボスヲ避クル」ノ目的ニ出テタリトセハ帝國政府ハ諸外國人ノ利益ノ
爲ニ我カ關稅自主權ヲ犧牲ニスルニ甘ムスルモノナルカ

二 我カ關稅定率法ヲ朝鮮ニ實施セハ諸外國人ノ經濟的利益ニ對シ如何ナル程度
ニ於テ不利ノ影響ヲ及ボスヘキヤ

三 内地朝鮮間ノ貿易關係ニ變改ヲ加フルヲ非トセサルハ如何ナル事實上ノ判斷ニ
基クモノナリヤ

四 内地朝鮮トノ間ニ移出入稅ヲ設クルハ相互ノ産業發展ヲ沮害スル所以ナリト
信セサルカ

五 政府ハ今後十年ノ間ハ如何ナル場合ニ於テモ此ノ關稅並移出入稅ヲ改廢セサル
ノ精神ナルカ

右及再質問候也

朝鮮穀物移入稅ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十一日
提出者 大内 暢三
贊成者 藏原 惟郭
外三十五人

朝鮮穀物移入稅ニ關スル質問主意書
朝鮮ニ於ケル輸出及移出品ハ農產物ニシテ就中穀物ヲ以テ輸移出貿易ノ重要品
ト爲シ常ニ全輸移出額ノ七割内外ヲ占メ毎年米穀ノ輸移出額少クモ九百萬
圓乃至一千二百萬圓ヲ下ラス依テ以テ購買力ヲ増進シ其ノ一箇年ノ輸移入額三

千七百萬圓乃至四千萬圓ノ間ニ在リ而モ其ノ輸移入品ノ十分ノ八内外ハ悉ク之
ヲ母國製產品ニ仰キ亦輸移出ノ穀物ハ殆ト其ノ全部ヲ母國ニ移出セリ因テ朝鮮ニ
於ケル穀物輸移出ノ増減ハ直ニ以テ朝鮮人ノ購買力如何ニ關シ延テ母國製產品
ノ朝鮮移出ニ大ナル影響ヲ及シ相互ノ不利殆ト計ルヘカラスサレハ現行法ニ依ルトキ
ハ朝鮮ニ於ケル一般農民ノ收入ヲ減シ其ノ發達ヲ阻害スルノミナラス朝鮮ニ於ケル
農業ノ進歩發達ヲ圖ラムトシテ常ニ多大ノ經費ヲ投シ幾多ノ獎勵的方法ヲ講シツ
アル主旨ニ矛盾スルモノト認ム政府ノ所見如何

右質問ハ其ノ趣旨辯明ヲ爲サルニ付直ニ答辯有之度候也
普通選舉法案ニ對シ貴族院ニ於ケル政府委員ノ言明ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十四日
提出者 高柳覺太郎
贊成者 犬養 毅
外三十人

普通選舉法案ニ對シ貴族院ニ於ケル政府委員ノ言明ニ關スル質問主意書
一 本月十二日貴族院會議ニ於テ政府委員ハ普通選舉法案ニ對シ普通選舉ヲ以
テ極メテ危險ナル思想ニ基クモノトシ君主國ニ其ノ基礎ヲ有セスト斷シ且多數ナル
下流社會カ少數ナル上流社會ヲ壓倒スルノ結果ヲ來スモノト言明セラレタリ政府
ハ果シテ斯ノ如キ所見ヲ有スルヤ

一 政府ハ右言明ニ對シ責任アルモノト信ス此ノ重大ナル問題ニ關シ政府ハ衆議院
會議ニ於テ何等辯明スル所ナク偶貴族院ニ於テ斯ル不當ノ言議ヲ弄ス其ノ理由
如何
右及質問候也
教科書改定ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十五日
提出者 村松恆一郎
贊成者 佐々木安五郎
外三十人

教科書改定ニ關スル質問主意書
一 政府ハ南朝ノ正統ナルヲ認メ教科書改正ニ著手シタル如シ然レニ同一ノ委員ニシ
テ先キニハ兩朝並立說ヲ主張シ今又繼テ南朝正統說ニ一致シタルハ如何ナル理
由ニ基クヤ

一 政府ハ南朝ノ正統ナルヲ認ムルニ至リシハ如何ナル事實上ノ根據ニ基キ且如何ナ
ル理由ニ依リヤ詳細ニ之ヲ明示セムコトヲ望ム

一 政府既ニ其ノ非ヲ認メテ教科書ノ改正ニ著手シタル以上過去一年間忠奸正邪
ノ別ヲ紊リ國民思想ノ動搖ヲ惹起シ國體ノ基礎ヲ危クセムトシタルニ對シ内閣ハ
何故速ニ處決シテ其ノ責任ヲ明カニセサルカ

右及質問候也
殉難者ヲ靖國神社ヘ合祀セムトスル請願ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十五日
提出者 島田 三郎
贊成者 村松恆一郎
外三十四人

官報號外 明治四十四年三月二十一日 衆議院議事速記第二十五號 五七一

殉難者ヲ靖國神社へ合祀セムトスル請願ニ關スル質問主意書

明治四十二年三月十三日本院ニ於テ可決シ政府ニ送付シタル特別報告第二十
四號殉國志士表彰追録ノ請願書即チ文久二年四月伏見驛旅舎寺田屋事變ノ
殉難者及元治元年七月長藩人禁闕闖入事變ニ際シ幕府及鹿兒島會津桑名
彦根福井五藩ノ戰亡者ノ靈ヲ靖國神社へ合祀ノ請願既ニ二周年ヲ經過スルモ政
府ハ未タ何等ノ發令ヲ爲サス其ノ理由如何抑明治四十二年三月十三日本院ニ於
テ採擇ノ決議ヲ爲シタル伏見寺田屋事變殉難者トハ

寺田屋旅舎闖死者

大阪薩藩邸自刃者

道島五郎兵衛
永田佐一郎

ノ二人ニシテ右寺田屋事變トハ鹿兒島藩士數十名諸藩脱走ノ士ト相謀リ討幕攘
夷ノ議ヲ決シ島津久光(當時和泉郡稱ス)ノ上京ヲ機トシ時ノ關白九條尚忠所司
代酒井忠義ヲ襲殺シ事ヲ京都ニ舉ゲムト企テタリ久光途上之ヲ聞キ千方鎖撫シ四
月六日入京議奏中山忠能嵯峨實愛ニ面シテ尊王ノ趣旨ヲ上陳シタルニ兩議奏即
日參内久光ノ陳疏ヲ上奏シタルニ嘉納セラレ久光ニ左ノ勅詔ヲ賜ヒテ更メテ浪士
ノ鎖撫ヲ命セラレタリ

浪士共蜂起不穩企有之候處島津和泉取押候旨先以叙感思食候別而於御膝
元不容易儀於發起者實ニ被惱宸襟候事ニ候間和泉當地滞在鎮靜有之候様
思食候事

久光此ノ勅詔ヲ奉シ藩ノ激徒ヲ諭シ後命ヲ待タシメトセシモ彼等陽ニ命ヲ奉シ
陰ニ其ノ目的ヲ遂ケムト欲シ大阪ヲ發シテ伏見ニ集リ將ニ事ヲ起サムトス久光ハ飽
迄鎮撫ノ勅命ヲ畏ミ藩士奈良原喜八郎(今ノ男爵奈良原繁)等一行九人ヲ遣
シ其ノ暴舉無カラムコトヲ説諭セシメタルモ激徒聽カス抗論ノ末終ニ格闘ニ及ビ激
徒中有馬新七等九人斬殺セラレタリ時ニ鎮撫使ノ一人闕死セシモノ即チ前記ノ道
島五郎兵衛ニシテ是レ明ニ勅旨ニ遵ヒ主命ヲ承ケテ鎮撫ノ事ニ從ヒ其ノ職務ニ
殉シタル者ナリ

此ノ月二十五日朝廷久光鎮撫ノ功ヲ賞シ且左ノ勅詔ヲ賜ハリタリ

浮浪之徒蠻夷之儀より彼是蜂起之趣去る十六日内々言上被惱宸襟候處鎮
靜之儀御請有之被安叙慮候處又々一昨夜以來猛暴之形勢と聞召候元來右
之徒爲皇國赤心報國之志を以て投身命候段御感之御事に候得共攘夷一件
に付ては實に自先年深被惱宸襟候處何分國中一致之儀第一と被思召候に
付尙厚被回叙慮候御事に候然處方今血氣之壯士等不用理解暴論を爲主奉
勅命を待すして猥に亂妨々間敷儀に及段候は忠憤却而違勅之筋に相當リ
不埒之至に候右等違背之輩は早く嚴に可加制止候儀に被思食候事

久光厚ク朝旨ヲ畏ミ又深ク道島ノ殉難ヲ憫ミ其ノ忠死ヲ賞シ藩主島津忠義ハ彼ノ
遺族ヲ祿シタリ

永田佐一郎ハ久光扈從ノ一人ニシテ什長ノ職ニ居リシカ其ノ部下有馬新七等カ藩
命ニ服セシテ事ヲ舉ケムトシ主命ヲ徒爾ナラシメタルコトヲ慨シ郎内ニ自殺セリ彼ハ
有馬等勤王ノ志ニ同情シ又其ノ行爲ノ暴動ニ終リシコトヲ嘆シ且自己ノ職任ヲ全
クスル能ハサルコトヲ慚謝シテ此ニ至リシモノ是レ道島五郎兵衛ノ如ク主命實行ノ爲
ニ職ニ殉シタルニアラスト雖間接ニ寺田屋事件ニ斃レタルモノナリ故ニ藩主ハ深ク永
田ノ衷情ヲ憫ミ厚ク遺族ヲ恤ミタリ

二人ノ死ハ全ク勅詔ヲ畏ミ主命ヲ重シ一ハ激徒ノ刀下ニ斃レ一ハ自刃シタルモ

ノタルニ拘ラス其ノ功歴ハ全ク沒了セラル當時勅旨ヲ奉セス藩艦ヲ被リタル有馬等
一列ハ明治二十四年贈位ノ恩命ヲ被リ其ノ靈ハ靖國神社ニ合祀セラレ之ニ反シ
テ道島等ハ今ニ至ルモ何等ノ追典ニ與ラス故ニ此ノ二人ヲ靖國神社ニ合祀セラレタ
シト是レ請願ノ大旨ナリ
元治元年七月十九日長藩ノ士及他脫藩ノ士カ禁門ヲ砲撃シタル變ニ際シ奉勅防
戰シテ死シタル者左ノ如シ

幕府士人

加藤兵右衛門 岸 省 三

野村勘兵衛 宮内 彦二 野村藤七郎 森 喜藤太

赤井兵之助 松下 矢七郎 濱田 藤太郎

中澤 鐵之助 有賀權左衛門 楠 藤之進 小野田午太夫

窪田 伴治 佐藤 清之助 吉田 鶴太郎 柴 辰之助

荒井 源五郎 千里 市之助 増田 八助 鹿 目 悅藏

藤林 源八 佐藤 九右衛門 馬場 八郎 山際 九太夫

赤井 重兵衛 西村 久之助 篠田 岩五郎 小原 治八

高橋 猪三郎 鈴木 竹治 佐藤 啓藏 遠山 豐之助

菅 源 吾 鈴木 馬之助 鈴木 德四郎 勝右衛門 善 治

平兵衛 桑名藩士 赤松 茂重威 伊 藤 繁 仙太郎

須藤 勝司 彦根藩士 宇津木三四郎 加藤 増次郎 山口 西右衛門

柏原 左京 都築彌次右衛門 山本善右衛門 武田次郎右衛門

西郷 正之助 清 介 福井藩士 山口藤太左衛門 黑川 榮太郎

津田 彌六太 淺井 常次郎 山口藤太左衛門 黑川 榮太郎

柴田常右衛門 文太夫 平三郎

元治元年七月長藩及他脫藩ノ士願意アリト稱シ宮門ニ迫リテ發炮シ皇居附近
ニ戰血ヲ濃キ禁闕ニ彈痕ヲ留メタルノ行爲ハ假令其ノ衷情及主張ハ如何ナリトス
モ兵器ヲ携ヘテ洛中ニ闖入シ守衛ヲ衝テ禁門ニ迫リタルノ一事ハ大義名分上寸毫モ
寬假スヘカラス故ニ幕府及諸藩ノ兵ハ錦旗ノ下ニ防戰シテ遂ニ之ヲ擊退シタルナリ
此ノ侵入ノ徒ニシテ或ハ君側ヲ清ムルト稱シ或ハ訴冤ノ名ヲ藉ルモ朝廷ヲ強要シテ
自家ノ願意ヲ貫カムトセシハ朝憲ヲ蔑如シ奉リタル行動ナルコト顯然タルヲ以テ當時
薩藩ノ兵事ヲ掌リシ西郷隆盛伊知地正治等ハ慨然論スラク王綱紐ヲ解キシハ名分
ヲ蔑如シ大義ヲ守持セザリシニ依レリ朝威如何ニ衰ヘタリト雖兵力ヲ以テ朝憲ヲ紊ラ
トスルモノハ斷シテ假借スヘカラス今日長藩ノ訴願ハ其ノ心事同情スヘキモノアリトス
ルモ兵威強要ノ一事ヲ見ルニ於テ最早説諭ヲ用井ルノ限ニアラスト以テ長人ヲ諭スヘ
キトノ上命ヲ受ケザリキ七月十七日鹿兒島藩吉井友實土州藩乾市郎平久留米藩
大塚敬介連署シテ書ヲ朝廷ニ上リ長藩屯集ノ士ヲ嚴ニ處置セムコトヲ乞ヒタリ其ノ
文ニ曰ク

長門宰相父子之儀去年八月以來勅勘候未其藩臣歎願トハ申ナカラ多人數兵器ヲ相携近畿所々へ屯集奉要天朝候姿無紛候處寬大之御仁恕ヲ以テ再應理非分明之被爲在御沙汰候得共今以抗言不引拂段甚如何ニ奉存候警申立候筋條理有之共決シテ此儘御許容被爲在候儀萬々有御座問敷ト奉存候へ共自然御廟議ニモ被爲在候テハ堂々タル天朝之御威光ヲ廢替實以御大事之御場合ニ奉存候方今夷難相迫リ不容易時際一旦朝權地ニ墜候テハ後日何ヲ以テ皇威振興可仕哉甚不可然儀ニ付速ニ斷然御處置被爲在候儀伏テ奉懇願候不肖我々禁裡御警衛儀モ全ク朝威不廢替樣盡力仕候武門ノ當然何分難默止奉存候ニ付三藩在京之重役共一同申談奉歎願候事

然レトモ長人悍然論命ニ應ヒサリシカ廟議或ハ其ノ猛暴ノ爲ニ動搖セムコトヲ患ヒ西郷隆盛ハ守護職會津ノ藩士ト會議セシ席ニ於テ主トシテ朝威蔑如ノ不軌ヲ聲ヲ掃蕩ノ義ヲ唱ヘ又關白近衛忠照ノ諮問ニ對ヘテ擊攘ノ已ムヘカサルヲ陳ヘ以テ廟議ノ決ヲ速ニセリ當時各藩ノ防禦ニ努ムルコトナカリセハ長人ノ強要其ノ目的ヲ達シ武人兵威ヲ掃ミテ朝命ヲ矯制シ海内ノ人心服セシテ亂階之ヨリ生シ攘夷ノ氣炎一時ニ燃エ外患或ハ之ニ乘セムモ亦測ラレス幸ニ防禦功ヲ奏シテ朝威仍テ地ニ墜チサルヲ得タリ爾後ノ結果ハ征長ノ舉ト爲リ福原、益田、國司三老臣ノ處刑ト爲リ以テ第一回ノ征舉ヲ終リシテ之ヲ朝廷ニ報奏シタリ是レ史上ノ實蹟ニシテ名分上是非ノ疑ヲ其ノ間ニ挿ムノ餘地アルコト無シ故ニ朝廷各藩主三京師清掃ノ賞賜アリ其ノ勅詔ニ曰ク

今度長藩之士及暴舉候處人數出張(或ル藩ニハ速ニ出張)凶徒ヲ追退之段歟感不斜候依之御劔一腰(或藩ニハ移鞍一具)賜之候事

是レ元治元年九月五日ノ勅書ニシテ此ノ禁門侵入ノ事變ニ關シテハ如何ナル論理ヲ以テスルモ侵入者ハ暴人ニシテ禁衛ノ士ハ官軍タリ故ニ官軍ノ戰死者ハ爾後定ムル所ノ制度ニ於テ其ノ靈ヲ靖國神社ニ合祀セラレサルヘカラス然ルニ前記寺田屋事變ニ於テモ又元治甲子ノ戰亂ニ於テモ一般ノ例ト相反シ當時ノ暴人ハ其ノ心事ヲ取リ其ノ形迹ヲ拾テ追襲セラレ又合祀セラルニ拘ラス其ノ志モ其ノ進退モ共ニ純然タル奉勅殉難ノ士ニシテ却テ追録セラレス名分潰亂位置顛倒スルカ如キハ何ノ謂レナルヲ知ラス現ニ褒賞ノ勅書ハ島津公爵等ノ諸家ニ保存セラレ又信スヘキ文書ニ公刊セラレテ世ノ確證スル所ナリ假令一時ノ情實ニ湮晦セララルカ如キモ炳焉タル勅書ノ旨ト天下ノ公論トハ斷シテ之ヲ埋没シテルヲ容ルサス此ノ事第二十五回議會ニ於テ貴衆兩院ノ議ニ上リ其ノ請願採擇セラレテ一箇年後ノ今日ニ至ルモ未ダ何等ノ發令アラス是レ本質問ヲ提出シテ政府ノ答辯ヲ求ムル所以ナリ

右及質問候也
南滿洲鐵道經營ノ現狀ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十六日

提出者 鈴木 力
贊成者 石田 仁太郎
外二十九人

南滿洲鐵道經營ノ現狀ニ關スル質問主意書
一南滿洲鐵道株式會社ノ資本ト外債トノ關係及財産目錄ノ件
一南滿洲鐵道經營ノ方針奇奇怪怪途途安瀾ノ件
一南滿洲鐵道及三井物產會社ノ滿洲利權壟斷ノ怖ルヘキ危險ノ件

右ハ各條俱ニ本員細目(三十一箇目)ヲ列舉シ逐一事實ニ證據シテ說明演說可致ニ付南滿洲鐵道監督ノ政府責任當局者ニ於テ臨席聽取ノ上各細目ニ應ヒ具サニ答辯ヲ與ヘラレムコトヲ望ム

右及質問候也
稅務官吏ノ不法行為ニ對スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十六日

提出者 手塚 正次
贊成者 森 國造
外三十八人

稅務官吏ノ不法行為ニ對スル質問主意書
一近來全國一般ニ互リ稅務官吏ノ苛索誅求壓制橫暴ノ行為ニ對シ政府ハ之カ監督矯正ニ付如何ナル方法ヲ講シ又如何ナル手段ヲ執リツツアリヤ
二今回甲府市ニ於ケル稅務官吏ノ暴行ニ對シテハ政府ハ如何ナル處置ヲ執ルカ
三稅務官吏ノ不法行為ハ單ニ其ノ稅務吏ノ責任ニ歸スヘキノミナラス政府當局モ亦其ノ責任ヲ負フヘキハ勿論ナリト信ス政府ノ所見如何
右及質問候也

國民ノ宗教ニ對スル政府ノ方針ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十七日

提出者 高柳 覺太郎
贊成者 森田 勇次郎
外三十一人

國民ノ宗教ニ對スル政府ノ方針ニ關スル質問主意書
一明治政府ハ國民ノ宗教ト沒交渉ナルカ如シ現政府ノ方針亦斯ノ如キ乎
一國民ノ道德ヲ振興シ健全ナル思想ヲ涵養スルハ教育ノ外宗教ノ力ニ待ツモノ最大ナリト信ス政府ノ之ニ對スル經綸如何
右及質問候也

馬匹改良ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
明治四十四年三月十八日

提出者 澤 來太郎
贊成者 佐々木 安五郎
外三十人

馬匹改良ニ關スル再質問主意書
一厩毛月毛河原毛ノ馬匹ヲ競馬ニ出場セシメサルハ是等馬匹ノ生産改良上獎勵スヘキモノニ非サルヲ以テ該毛色ノ新馬ニ對シ出場ヲ許サル次第ナリト答辯ナリシモ獨リ新馬ノミノ出場ヲ禁シテ何故ニ舊馬ノ出場ヲ禁セサルカトノ質問ニ對シテハ何等ノ答辯ナシ果シテ是等馬匹ノ生産ハ馬匹改良上獎勵スヘキモノニ非ストセハ何ヲ新舊ノ別アラムヤ然ルニ單リ舊馬ニ限リ獎勵シツツアルハ何故ソヤ且本年春季開催ノ競馬ニモ從來ノ如ク是等毛色ノ舊馬ヲ矢張り出場セシメ以テ獎勵スル方針ナルカ又種馬ニ前記毛色ヲ禁シタルコトナシト答辯セシカ是等馬匹ノ生産ハ獎勵スヘキモノニ非スト明言スル以上ハ即チ是等毛色ノ馬匹ノ生産ハ必要ナシト意味ナレハ其ノ實際ニ於テハ禁シタルト同一ナラスシテ何ソヤ

一藤枝競馬俱樂部ニ於テ鹽毛ノ新馬ヲ出場セシメタルハ俱樂部ノ誤解ニ出タルモ
ノナルヲ以テ馬政局ヨリ同俱樂部ニ對シ注意ヲ加ヘタリト答辯ナリシモ競馬開
催ノ當時現ニ馬政局ヨリ監督官臨檢シナカラザラ不問ニ附シ去リタルノミナラス
賞金ヲ交付シタルハ即チ是等馬匹ノ生産ヲ獎勵シタルモノニ非スシテ何ヲヤ
又同一毛色ノ馬匹ニシテ藤枝ニ於テハ出場競走セシメ且賞金ヲ交付シナカラ松
戸ニ於テハ斷然出場ヲ禁止シタルカ如キ同一公認競馬ニ對シニ様ノ方針ヲ執リ
シハ如何
右及再質問候追テ答辯ハ文書ヲ以テセラレ度候也

曆法改正調査ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

明治四十四年三月十八日

提出者 早川 龍介

贊成者 千田 軍之助 外三十八人

曆法改正調査ニ關スル質問主意書

一第二十六回議會ニ於テ我カ國ノ曆本ハ國體及神祇祭典等並文學ニ關スルニ依
リ先ヅ以テ政府ハ專門家ニ調査セシムルコトニ爲リ居レリ其ノ進行如何
一第二十六回議會委員會ニ於テ寺尾博士ハ曆法改正ニ關シ取調フヘキ旨言明
セラレタリ然ルニ昨四十二年四月二十三日東京帝國大學理科大學ニ於ケル日
本文學會總會ノ講演中誹毀侮辱シタリトノ事ヲ聞ク其ノ事實如何
右及質問候也

議會々期切迫スルヲ以テ質問書ノ主旨演述スヘキモ徒ラニ時ヲ費スノ恐アリ依
テ左ノ記事ヲ速記録ニ掲載アラント願フ

諸君本員ハ第二十六議會ニ於テ曆法改正ニ關スル建議書ヲ提出シ院議ノ容ル、
所ナリ特別委員會ニ移サレタリ特別委員會ニ於テ文部次官其他局長等ニ質問ヲ
ナシ政府ハ相當ノ手續ヲ以テ取調フヘキ旨言明セリ依テ此件ハ質問書第一項記
載ノ如クナルヲ以テ別ニ演說ノ必要ナキモ第二項ニ就テ一言ヲ要スルモノアリ別儀ニ
アラス寺尾博士ハ第二十六議會ノ特別委員會ニ出席シテ申サレタルコトハ載セテ筆
記ニアリ然ルニ昨四十二年四月二十三日東京帝國大學理科大學ニ於ケル日本天
文學總會ノ講演ニテ國會議員ハ愚ナリト公言シ衆議院ヲ侮辱セラレタリ聞ク學士
ニ似合シカラサル言動ナルヲ以テ其實否ヲ慥メントセシモ講演筆記等ナキニ依リ其事
實ヲ得ズ依テ不得止講演ノ翌日發刊ノ東京朝日新聞ノ一説ヲ讀ミマス(前略中陽
曆ト大陰曆及太陽曆ノ優劣論ナルモノヲ讀ムトキハ唯噴飯ニ値スルノミナリ斯ル改
良案ニ耳ヲ傾ケザラ採用セント決斷スルニ至リタルハ不思議ト云フモ愚ニテ近來ノ珍
聞ナリ云々)議員ハ元ヨリ天文學者ニアラサルカ故ニ寺尾氏ノ出席ヲ乞フテ之ヲ謹
聽シタリ然ルニ委員會ニ於テハ體裁ヨキコトヲ演ヘ置キ月餘ヲ隔テタル講演ニ於テ如
此言ヲ以テ議員ヲ侮辱スルカ如キハ官路ニ食ヲ受クル學者ニ似合シカラズコトナリ然
レトモ其證據トスルトコロハ新聞ノ記事ナリ此ニ於テ政府ニ質問スル要點ハ寺尾氏カ
斯ノ如キ言ヲ放ツテ演述セラレシヤ將タ新聞ノ記事カ虛偽ナリシヤ答辯アラントヲ乞
フ

○議長(長谷場純孝君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、商法中改正法律案外
一件兩院協議會委員選舉ノ件ヲ議題ト致シマス

第一 商法中改正法律案外一件兩院協議會委員選舉ノ件
○菅原傳君 協議員十名ハ議長ノ指名ニ依テ決セラレコトヲ望ミマス
(贊成ト呼ブ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議アリマセスカ
(異議ナシ異議ナシノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ協議員十名ハ議長指名ト云フコトニ決定
致シマス、日程第二、新田神社昇格ノ建議案ヲ議題ト致シマス、提出者武藤金吉君

第二 新田神社昇格ノ建議案 武藤金吉君外二名提出

新田神社昇格ノ建議案

群馬縣新田郡金山新田神社ハ建武中興ノ元勳タル贈正一位左近衛中將新田
義貞卿ヲ祀レルモノニシテ明治六年八月其ノ末裔新田俊純及同地方有志者等此
ノ地ヲ以テ同卿ノ舊蹟ト爲シ官ニ請ヒテ創建セシモノニ係リ同七年十二月社號ヲ新
田神社ト定メ縣社ニ列セラレ以テ今日ニ至レリ

新田義貞卿統源氏ノ四子承ク坂東ノ名族トシテ門葉上野國新田郡ニ繁衍ス建
武中興ニ護良親王ノ令旨ヲ奉シテ義兵ヲ郡内世良田ニ舉ゲ百年執政ノ鎌倉府
ヲ滅ホシ次テ中興ノ大業ヲ翼贊シ海内再ヒ亂レ南北朝ノ分ルルニ及ムテ龍種ヲ北
陸ニ奉シテ遂ニ王事ニ越前ニ號ル其ノ誠忠義烈炳トシテ日月、如シ其ノ長子贈從
三位越後守義顯朝臣ハ尊良親王ニ從ヒテ金崎城ニ戰死シ弟贈從三位刑部卿脇
屋義助朝臣ハ卿ト同シク大義ヲ唱ヘ終始征戰ヲ共ニシ卿懿範ノ後ハ北陸ノ敵軍
掃討ニ力メ後村上天皇即位セラレルニ及ヒ特ニ優詔ヲ賜ヒ託スルニ軍國ノ事ヲ以テ
セラル後伊豫ニ向ヒ四國ニ於ケル南朝ノ軍事ヲ督シテ國府ニ歿ス義貞卿ノ次子贈
從三位左近衛將監義興朝臣三子贈從三位武藏守左兵衛佐義宗朝臣並義助朝
臣ノ子從五位上式部大輔義治朝臣モ亦坂東ニ據リテ屢北軍ニ抗シ以テ東國ニ於
ケル南廷ノ重キヲ爲セリ其ノ子孫世々忠烈ヲ承ケ傳レテ復タ興リ然モ本宗ハ遂ニ絶
ユルニ至ル其ノ一族門葉相率テ王事ニ勤メシ精忠ハ伊勢ノ北畠氏、河内ノ楠氏ト
相並ムテ萬世臣子ノ範ニ爲タリ

明治ノ昭世往昔王事ニ勤メシ功臣ノ勳績ヲ表彰セラレ建武中興及南朝勤王ノ功
臣ノ靈亦官社ニ列セラレ奉幣ノ榮典ニ與ルモノ少カラズ義貞卿モ亦其ノ選ニ入リ現
ニ越前縣島神社ニ祀ラレテ官幣ニ列ス然ルニ義顯、義興、義宗、義助及義治五朝
臣ノ靈ニ至テハ未タ此ノ恩典ニ浴スルヲ得ス就中義顯朝臣ハ明治二十年四月官幣
中社金崎宮攝社掛神社ニ祀ラレシモ是レ固ヨリ攝社ニシテ未タ官幣ノ榮ヲ受クル
ノ列ニ入ラス義興朝臣ハ武藏矢口ニ於テ村民ノ祭祀ヲ受クルアルモ固ヨリ一小祠ニ
過ギス其ノ他ニ至テハ未タ一社ノ祀ナク一幣ノ奉ラルモノアルヲ聽カス或曰ク義
貞卿ノ 皇恩ニ浴セルハ既ニ以テ他ヲ代表スルニ足ル今ニ至テ悉ク子弟門族ヲ官社
ニ列スルノ要アラムヤト然レトモ楠正成卿ハ父子別社ニ祀ラレ一ハ湊川神社ニ於テ
一ハ四條畷神社ニ於テ官幣ニ與リ北畠親房卿父子並一族ハ一ハ安倍野神社ニ於テ
一ハ靈山神社ニ於テ各官幣ニ列セラレルニ非サヤ而シテ其ノ勳功ニ於テ此等諸氏
ノ人々ト徑庭ナキ新田氏ノ一門ノミ獨リ此ノ事ナキハ遺憾ニ堪ヘサルナリ 皇恩天
日ノ如ク四被通徹セサルナシ然モ尙時ニ岩角ノ小蔭ヲ生スルナキニアラス又盛世ノ一
缺典ト謂ハサルナキヲ得マヤ

新田郡ノ地タル義重朝臣以來新田氏ノ本據ニシテ又實ニ義貞卿ノ始メテ義旗ヲ樹
テシ所ナリ其ノ後義興、義宗、義治三朝臣亦此ノ所ニ據リテ大ニ坂東ニ於ケル南軍
ノ重キヲ爲セリ宗族既ニ竭キシ後モ尙其支族タル岩松、由良等ノ諸氏此ノ地ニ在リテ
興廢シ後亦岩松氏ノ如キハ江戸幕府ノ優遇ヲ受ケ聯綿シテ明治ニ至リ男爵ニ列
セラレテ新田氏ニ復シ祖先ノ祀ヲ絶タス又元弘建武ノ昔新田ノ宗家ニ從ヒテ東西ニ
奮戰セシ支族大館、堀口、江田、岩松、由良、脇屋、大島等ノ諸氏苗字ノ地名今
尙幾多郡内ニ存シ點々指摘スルヲ得ヘク足一タヒ此ノ地ヲ踏ムモノ轉々往昔ヲ回
想シテ名族勤王ノ跡ヲ欣仰スルノ念禁シ難キモノナクムハ非ス乃チ今ニ當リテ義貞卿
竝五朝臣ノ靈ヲ此ノ新田氏本實ノ地ニ合祀シテ官幣ニ列セシメラルハ當ニ昭代ノ
缺典ヲ補フヲ得ルノミナラス其ノ良感化ノ關東平原ニ派及スルモノ實ニ多大ナラサ
ヤ

金山ノ地モト新田氏ノ支族岩松氏ノ居城ニシテ新田氏モ亦此ノ要害ニ據レリト云
ヒ傳フ文明年中ニ至リ岩松氏ノ族修メテ之ニ據リ新田氏ノ本系ト稱スル由良氏又
次テ之ニ居リ以テ天正年間小田原落城ニ及ヘリ

此ノ地カ果シテ義貞卿直接ノ遺蹟ナルヤハ未タ必スシモ速斷スヘカラサルモ一ニ新田
山ト稱シ現ニ新田郡衙ハ此ニ設置セラレ金山ノ頂上既ニ新田神社ノ建設セララル
リ然ラハ則チ義顯以下五朝臣ノ靈ヲ之ニ合祀シテ官幣ニ列セラルヲ得ハ新祠ヲ創
設スルノ要ナク一ハ以テ 聖恩未祀ノ忠靈ニ及ヒ一ハ以テ古名臣ノ遺烈ヲ其ノ本
實ノ地ニ於テ欣仰スルヲ得上下公私一舉ニシテ兩得ノ果ヲ致サム依リテ速ニ新田神
社ヲ昇格セラレムコトヲ望ム

(武藤金吉君登壇)

○武藤金吉君 簡單ニ提出ノ理由ヲ說明致シマス、新田神社昇格ノ建議ノ趣意ハ
群馬縣新田郡金山新田神社デアリマス、是ハ皆サシモ御承知ノ通り建武中興ノ元勳
タル新田義貞卿ヲ祀テアル處デアリマス、明治六年ニ此祠ガ出來マシテ、同七年ニ縣
社ニ列セラレテアリマス、デ新田義貞ノ神社ハ越前ノ藤島ニ藤島神社ガアルノデアリマ
ス、然ルニ此群馬縣ノ新田郡ハ新田氏ノ世々此ニ家シテ處デアリマシテ、ノミナラズ此
建武中興ノ際ニ護良親王ノ令旨ヲ奉シテ義兵ヲ舉ゲマシタノハ、此新田郡デアリマス、
尙其以後ニ及ヒマシテ其弟其子ハ此處ニ居リマシテ、王事ニ勤メタルデアリマス、其精
忠義烈ノ點ニ至リマシタナラバ、伊勢ノ北畠氏、河内ノ楠氏ト何ゾ擇ブトコロハ無イ
デアリマス、詳細ノコトハ御手許ニ同テ居リマス建議書ニ書イテゴザイマスルカラ、唯今
此處デ詳細ノコトハ省キマスガ、楠氏ニ於キマシテハヤリ父子共ニ湊川神社四條囃
神社ノ二ツノ神社ニ祀ラレテアリマス、又北畠氏ニ於キマシテモ同様ニ二社ノ父子共ニゴ
ザイマス、獨リ此新田氏ニ於キマシテハ斯様ニ弟義助又義顯、義興、義宗、義治共ニ
王事ニ盡シテアリマス、ケレドモ未ダ藤島神社アルノミデアリマス、同楠氏ニ致シマシテモ、
北畠氏ニ致シマシテモ、父子共ニ祀ラレテアリマシテ、年々奉幣ヲ賜ヒ、靈ヲ祀ラレテア
ルノデアリマス、獨リ此新田氏ニ於キマシテハ藤島神社アルノミデアリマシテ、其子孫等
ハ祀ラレテゴザイマセヌ、是等ハ誠ニ昭代ノ上ニ遺憾トスルところデアリマシテ、願クハ此
金山ノ新田神社ヲ同ク官幣ニ祀ラレテ、サウシテ北畠氏楠氏ト同様ノ取扱ヲ得タイト
云フノガ、本建議書ノ趣旨デアリマス、餘リ長クナリマシテハ却テ恐縮デアリマスカラ詳
細ハ建議書ニ譲リマシテ、願クハ此金山ノ新田神社ヲ昇格サレマシテ、サウシテ義貞以
下五朝臣ノ靈ヲ之ニ合祀ヲ致シマシテ、官幣ニ列セラレテ戴キタイ、サウシテ未ダ聖恩ノ

及バザルトコロノ忠靈ニ對シマシテ、又古名臣ノ遺烈ヲ此本實ノ地ニ於キマシテ、表彰ヲ
シテ戴キマシテ、サウシテ活キタル教訓ト致シマシテ、吾々ハ欣仰ヲ致シタイト思フノデアリ
マス、願クハ建議書ヲ御覽下サリマシテ、即決ニ可決アラントラ滿場ノ諸君ニ御願致
マス(拍手起ル)

○根岸皓太郎君 即決可決ヲ希望致シマス

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 此新田神社昇格ノ建議ハ即時可決ヲ望ムト云フ動議ガ
アツテ、ソレニ贊成者モアリマスカラ採決ヲ致シマス、本建議案ヲ可決スルニ同意ノ諸君
ハ起立

起立者 多數

○議長(長谷場純孝君) 多數、本建議案ハ是ニテ可決致シマス、日程第三、高野
山國寶中古書畫古器物保存ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——提出者千田軍之
助君

第三 高野山國寶中古書畫古器物保存ニ關スル建議案

(千田軍之助君提出)

高野山國寶中古書畫古器物保存ニ關スル建議案
全國ニ存在スル國寶中其ノ數ノ最多キハ高野山、京都及奈良ニシテ京都及奈良ニ
於ケル國寶ハ各博物館ノ設置シテ之ニ藏容シテ臺モ散逸燒失ノ虞ナシト雖獨リ高野山
ニ存在スル殆ト二百點ノ多數ノ國寶ハ金剛峯寺始メ各寺院ニ散在セルヲ以テ一朝
祝融ノ災ニ罹ルトキハ寒心スヘキ結果ヲ生スルコト明ニシテ既ニ過去數十年間高
野山ニ於テ國寶ニ屬スヘキモノニシテ火災ノ爲ニ燒失セルモノ幾百點ノ多キニ上レリ
政府ハ既ニ國寶ト指定セル以上ハ之ヲ永久ニ保存スルノ途ヲ講セサルヘカラス依リテ
速ニ高野山ニ國寶館若ハ博物館ヲ設置シ散在セル國寶ヲ之ニ集藏シテ一ハ國粹ノ
光輝ヲ永久ニ傳ヘ一ハ美術思想ヲ發達ヲ助クル爲公衆ニ觀覽セシムルノ設備ヲ爲サ
レムコトヲ望ム

右建議ス

(千田軍之助君登壇)

○千田軍之助君 御手許ニ配付サレテアリマス、高野山國寶中古書畫
古器物保存ニ關スル建議ニ付キマシテ、極メテ簡單ニ一言致シタイト存シマス、諸君モ
御承知ノ通り高野山ハ我國ニ於ケル一大靈場タルノミナラズ、世界ノ上ニ於キマシテモ
確ニ有數ノ一大靈場タル地位ヲ保持テ居ルノデアリマス、此高野山ハ古來無數ノ國寶
タルベキ古書畫古器物ヲ有シテ居ルノデアリマス、所ガ高野山ハ度々火災ノアル處デア
リマシテ、此火災ノタメニ國寶タルベキ古書畫古器物ノ過半ヲ燒失致シタルノデアリマス、
然レドモ尙今日ニ於テ國寶ト指定サレテアル古書畫古器物ハ二百點ノ多キニ達シ
テ居ルノデアリマス、然レドモ此二百點ノ古書畫古器物ハ高野山ノ金剛峯寺初メ各寺
院ニ散在シテ居ルノデアリマス、故ニ今後復火災ガアリマシタキハ、忽チ之ヲ燒失ス
ルノ虞ガアルノデアリマス、政府ハ既ニ國寶ト指定致シマシタ以上ハ之ヲ永久ニ保存スル
ノ途ヲ講ズルノハ當然ノ責務デアラウト考ヘマス、因テ高野山ニ國寶館若ハ博物館ヲ設
置シテ散在セル國寶ヲ之ニ收藏シテ一ハ國粹ノ光輝ヲ永久ニ傳ヘ一ハ美術思想ヲ發
達ヲ助クルガタメニ公衆ニ觀覽セシムルノ途ヲ開キマシタキハ、文明進歩ノ上ニ妙カラ
サル裨益ヲ與フルト考ヘルノデアリマス、即チ本案ヲ提出致シマシタ所以デアリマス、ドウ

カ諸君ニ於キマシテモ満場一致ノ御賛成アツテ、即決可決アラシコトヲ切望スル次第デアリマス(拍手起ル)

○矢島中君 本案ハ即決可決セラレンコトヲ望ミマス

(賛成々々ノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 本建議案ヲ容レルト云フ方ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(長谷場純孝君) 多數、本建議案ハ可決確定シマス、日程第四、名勝地維持保存ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——提出者森國造君

第四 名勝地維持保存ニ關スル建議案(森國造君外二名提出)

名勝地維持保存ニ關スル建議案

一富士山ノ風光世界ニ冠タルハ何人モ認識スル所而シテ岳北ノ湖水及大森林ハ之ニ無量ノ風致ヲ添ヘ以テ其ノ風景ヲ一層雄大ナラシム然ルニ近來是等森林ヲ荒類セシメ且湖水ヲ利用シ其ノ中腹又ハ湖底ヲ穿テ電力ヲ起サントシ既ニ許可ヲ與ヘ若ハ出願中ノモノアリト聞ク右ハ秀麗ナル富士山ノ風光ヲ根本ニ破壊スルモノナリニ付政府ハ速ニ適當ノ處置ヲ取リ以テ名勝地維持保存ノ實ヲ全カラシムコトヲ望ム

右建議案

○手塚正次君 森君ハ委員會ア差支デアリマスカラ、私ヨリ提出ノ理由ヲ述ベマス

○議長(長谷場純孝君) 手塚君

○手塚正次君 本案提出ノ理由ハ理由書ニ明記シテゴザイマスカラ、茲ニ會期切迫ノ折極力簡明ニ申上ゲマセウ、唯政府ハ是等類似ノ建議若ハ請願ハ毎議會毎ニ通過若ハ請願ヲ採擇シテアルニモ拘ハラズ、是等ニ向ヒマシテハ何等ノ施設方案ヲメグラザルガタメニ、知ラズ識ラズノ間ニ於テ破壊シツ、アリハセヌカラ憂ヘルノデアリマス、本案ノ如キモ亦然リデ、富士山ノ風光ノ世界ニ冠タルコトハ何人モ認識スル所而シテ岳北ノ湖水及大森林ハ今將ニ諸種ノ營利事業等ノタメニ破壊セラレントシツ、アルノデアリマス、政府ハ速ニ是等ニ對スル計畫ヲ立デマシテ、以テ名勝地維持保存ノ實ヲ完カラシメンコトヲ望ムデアリマス、是レ提出者タル本員等ノ要求ノミナラズ、實ニ世界ノ要求デアリマス、而シテ本案ハ一昨日ノ史蹟及天然物保存ニ關スル建議案ト同一趣意デアリマスカラ、此建議案ノ委員ハ九名デアリマス、是ト同一ノ委員ニ付託サレンコトヲ希望スルノデアリマス

○八木逸郎君 提出者ニ伺ヒタイデスガ、私カラ出シタ名所舊蹟古墳墓保護ニ關スル建議案ト多少違フタコロガアルデゴザイマセウカ、ナケレバ同一ノ事柄ニ屬シマスガ

○手塚正次君 御答致シマス、少シ違フテ居リマス、本建議案ハ主意ハ同一デアリマスガ、單ニ富士山ノ風景ヲ維持スルコト云フコトニナッテ居リマス、併ナガラ史蹟及天然物記念保存ニ關スル建議案ハ日本全國ヲ指シテアルノデアリマス

○八木逸郎君 天然物保存ノ方デハナイノデス

○手塚正次君 同様ノモノデアリマスナラ、同様ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

(即決ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 採決ヲ致シマス、本建議案ヲ容レルト云フ方ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(長谷場純孝君) 多數、本建議案ハ是ニテ可決致シマス、此際御報告ヲ致シマス、兩院協議會委員ノ氏名ヲ御報告シマス、商法中改正法律案外一件兩院協議會委員鳩山和夫君、元田肇君、長島繁太郎君、鵜澤總明君、小川平吉君、松田源治君、片岡直溫君、守屋此助君、森肇君、花井卓藏君此十名ノ諸君ハ直ニ兩院協議室ニ御參集ノ上正副議長ノ選舉ヲ行ハレンコトヲ望ミマス——日程第五、農政改良ニ關スル建議案、提出者根岸晴太郎君

第五 農政改良ニ關スル建議案(根岸晴太郎君提出)

農政改良ニ關スル建議案

農政改良ニ關スル建議案

農民ノ衰頹ハ一年ニ甚シキヲ加フ而シテ其ノ原因ハ農政上其ノ當ヲ得サルモノアルヨリ起ルコトト認ム依リテ之カ改良救済アラムコトヲ望ム

右建議案

(根岸晴太郎君登壇)

○根岸晴太郎君 諸君、私ハ本案ヲ提出致シマシ理由ヲ簡明ニ説明ヲ致シマス、今ヤ世界列強ノ有様ヲ見マスルノニ口仁義ヲ唱ヘ、表ニ平和ヲ裝ウテ居リマスルケレドモ、其内面ハ實ニ武力一點張デゴザイマス、今日ノ平和ハ武裝的ノ平和デアリマシテ軍備ノコトハ一日モ忽ニスベカラザルコトハ論ヲ俟タナイコトデアラウト思ヒマス、ソレデ軍備ト農業ト云フコトハ大關係ヲ持テ居ルノデアリマス、彼ノ陸軍ノ如キハ農民カラ出身ノ兵士ガ體格モ良ク、腕力モ強ク、足モ丈夫デ、實戰ニ臨ンデハ戰鬪力ガ強イト云フコトハ出征シタ將校ノ證明スルコトデゴザイマス、徵兵適齡者ニハ農民ノ方ガ合格歩合ガ多イト云フコトハ事實爭ハレナイコトデアリマス、戰時ニ於テ必要ナル車馬ノ如キ、糧秣ノ如キ、多クハ農民カラ徵發セシメバナラズデゴザイマス、ソレ故ニ農業ノ盛ナル國ハ兵力ガ強ク農業ノ盛ナラザル國ハ兵力ガ弱イト云フコトハ、今日世界ノ定論デゴザイマス、故ニ我國ニ於キマシテハ農國ノ基礎ナリト云フコトハ當ニ農會等ノ祝文語トシテ輕視スベキモノデナク、爲政者ノ採シテ以テ用ユベキコトノ事柄デアルト思ヒマス、然ルニ我國今日ノ有様ハ如何デアルカト申シマスレバ、農民ハ一年ニ疲弊シテ參リマシテ、其戸數ハ一般ノ戸數ト比較シテ見マスルト割合ガ段々減シテ來ルデアリマス、近ク五年間ノ調査ヲ致シテ見マスルト、三十八年ニハ、百分比例シテ見マスルト農業者ノ戸數ガ六十五戸アリマシタ、三十九年ニハソレガ減シテ六十二戸ニナリ、四十年ニハ辛ウシテ同數ヲ維持致シテ居リマシタケレドモ、四十一年ニ至ッテハ更ニ減シテ六十戸トナッテ居リマス、四十二年ニハ又減シテ五十九戸トナッテ、斯様二年々段々減シテ來ル、更ニ其農業者中小作ト自作トノ割合ヲ見マスルト云フコト、自作者ハ割合ガ減シテ、自作者ノ割合ガ殖ムコトデアリマス、之ヲ以テ見マシテモ農業者ガ如何ニ衰頹シテ傾イテ居ルカト云フコトガ分ルデアリマス、誠ニ國家ノタメニモ農業界ノタメニモ憂フベキ次第デアルト思ヒマス、ソレデ此ノ如キ現狀ヲ呈スルモノハ如何ナル原因デアルカト申シマスレバ、我國ニ於テ最モ重シクベキ大部分ヲ占メテ居ルコロノ農業者ニ對シテ其待遇ガ薄ク、不當ノ法律ガ多クアリマシテソレガ原因トナッテ、此ノ如ク段々衰頹ヲ來スモノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、因テ其重ナルモノニ對シテ本建議案ヲ提出シタ理由ト致サウト思ヒマス、其第一ハ農業資金融通機關ノ不足デゴザイマス、中央ニ勸業銀行アリ、各府縣ニ農工銀行ガゴザイマスルケレドモ、一縣一箇所ノ銀行デアッテハ到底農業者一般ノ需用ヲ充スコトハ出來ナイノミナラズ、此銀行ノ貸出方ヲ見マスルト云フコト、ナカ

ナカ手敷が掛ル、養蠶ノ時期或ハ肥料ヲ施ス時期等ニ際シテ、急ニ入用ノコトが生ジマシテモ、ナカノ借入手續二月日ヲ要スルニ依ッテ間ニ合ハヌデアリマス、ソレ故ニサウ云フ場合ニハ已ムラ得ズ他ノ普通ノ所カラ高イ利子ヲ以テ借入レルコトニナッテ居ルデアリマス、ソレノミナラズ此農工銀行勸業銀行等ノ貸出方法ハ勸業銀行ニ於テハ一萬圓以下ハ貸サヌ、農工銀行ニ於テハ二百圓未満ノ小口ハ融通セヌト云フヤウナ内規ニシテアリマス、ソレ以下ノ細農者小口ノ擔保ヲ持ッテ居ル者ハ此特種銀行ノ恩典ニ少シモ與カルコトが出来ヌト云フコトニナッテ居ルデアリマス、故ニ細民ハ非常ノ感レナ状態ニナッテ居ルデアリマス、ソレ今日我國ノ經濟状態ハ中央デハ五朱ノ公債ガ四朱ニ借換が出来ル、尙資金ヲ懷イテ投資ノ途ガナイノ苦シシテ居ル有様デアルケレドモ、地方ノ農村ニ至リマスル資金ハ益々缺乏シテ利子ハ甚ダ高イデアリマス、最近ノ調査ニ依リマスレバ農民ノ負債ハ五億八千五百五十六万八千七百八十九圓、其中稍ノ利子ノ廉イ勸業銀行、拓殖銀行、農工銀行等カラ貸出シタルモノ、總高ハ僅ニ六千九百四十九万五千二百五十圓デアリマス、其他ハ皆高イ利子ヲ借リテ居ルデアリマス、故ニ此廉イ利子ノ分ト高イ利子ノ分ト平均致シマシテモ、尙年利ガ一割四分四厘ト云フ驚クベキ高イ利子ニナッテ居ルデアリマス、此ノ如キ高イ利子ヲ仕拂ッテ居ッテハ細イ利益ノ農業者ガ疲弊セザラント欲スルモ到底得ベカラザルハ明カナル事柄デアラウト思ヒマス、故ニ今日ノ經濟状態ヲ人身ニ譬ヘテ評スルナラバ、農民タル手足ハ段段血ノ氣ガ薄クナッテ衰ヘテ、頭ノ方ニ集リ過ギテ、腦充血ノ状態ヲ現シテ居ルモノデアルト言ハナレバナリマセヌ、サウ云フ有様デゴザイマスカラシテ、ドウカ此農業者ニ對シテモ金融機關ヲモウ一層擴張増加シ、金融ノ圓滑ニシテ金利ヲ引下ゲ、且細農者ニ對シテモ小口ノ貸出ヲナスト云フコトニシテ、大ニ是ガ救済改良ノ途ヲ講ゼラレント希シマス、第二ニハ登錄稅法ノ一部ヲ廢止スルコトデゴザイマス、凡ソ稅法トシテ貧民者ニ限リテ取ルコト云フ稅位惡ルモノハアルマイト思フデアゴザイマス、而シテ其結果ガ偏頗ニ陷ルト云フニ至ッテハ一層惡稅デアルト言ハナレバナリマセヌ、所ガ此登錄稅法ノ一部ハ確ニサウ云フコトニナッテ居ルデアリマス、其譯ハ土地ノ質入書入ニ付テハ借主ガ皆此登錄稅ヲ負擔シテ居ルデアリマス、ソレ土地ハ農民ノ唯一ノ財產デアリマシテ、因テ以テ生活シテ行クコトヲモテデゴザイマス、ソレ故ニ農民以外此土地ヲ持ッテ居ルコトノ者ハ土地ヲ抵當シテ借金ヲスルト云フヤウナ貧民ハ少イデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラシテ此土地ノ質入書入ニ對シテ登錄稅ヲ拂フト云フ者ハ多クハ農民デゴザイマス、ソレデアリマスカラ借金ヲスルヤウナ貧民ニハカリ課スルコトノ稅デアルガ上ニ、農民ニ偏スルコトノ一層惡稅デアルノデゴザイマス、ソレ此登錄稅法ガアルメニ貸借上貧民ハ如何ニ困難ヲ感ジッ、アルカト申シマスレバ、僅ニ二十圓カ二十圓ヲ借入レルメニ土地ヲ抵當シテ暮ノ多忙ナ時期等ニ際シマスレバ、登記所ノ事務ガ非常ニ煩雜シテ居ッテ、ナカノ一日ヤ二日ニ登記ガ濟マナイ、十日モ掛ッテ漸ク登記ガ出來テ、借入ガ濟シタト云フヤウナ聽クモ氣ノ毒ナル事柄ガ澤山デゴザイマシテ、サウ云フコトガ珍シクナイデアリマス、故ニ之ヲ改正致シマシテ地券ヲ交付スルノハ、或ハ稅務署ノ簿本制度ヲ改正シテ簿本ニ依ルトカ、何レカ其一方ヲ以テ直ニ質入書入ヲナスコトニシテ金融上ノ敏捷ニナシ得ラレルヤウノコトニシテ、借金ヲスルト云フヤウナ貧民カラバカリ取ルヤウナ稅金ハ廢セラレント希望スルデアリマス、第三ハ府縣稅ノ徵收法デゴザイマス、府縣稅ノ徵收法ニ付テ地租ノ附加稅ニ限リテ徵收費用ノ交付ガナイノデゴザイマス、丁度國稅徵收法ニ付テ地租ノ交付金ガナイノ同様デアッテ、最モ偏頗極マル現行法ニナッテ居ルノデゴザイマス、御參考ノタメニ其勅令ヲ申シマスレバ明治三十

三年勅令第八十一號第一條ノ第一項ニ於テ「市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スル義務ヲ負フ」デアリマシテ、第二項ニ於テ「前項府縣稅ノ徵收ニ關シテハ地租ノ附加稅ヲ除クノ外徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシ」トアリマス、斯様ニアリマシテ最モ手敷ト費用ト多ク要スル地租ノ附加稅ニ限リテ交付シナイト云フコトニナッテ居ルノデゴザイマス、尙其詳細ノ理由ハ國稅徵收法改正案ノキニ述ベデアリマシテ、諸君ガ既ニ御承知ノコトデゴザイマスカラ、是ハ略シマスケレドモ、免ニ角是モ農ヲ主トシテ居ルコトノ場所ニ對シテハ打撃ヲ與ヘ、アルノデゴザイマスカラ、此勅令モ速ニ改正セラレテ、他ノ府縣稅同様ニ百分ノ四ヲ均一ニ交付スルコトニ改メラレント希望スル譯デアリマス、以上述べ來タルコトノ理由ニ依ッテ、本案ヲ提出シタル次第デゴザイマスカラ、ドウカ滿場諸君御賛成アラント希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ認メマスカラ、本案ハ可決致シマス

○武藤金吉君 本案ハ議長指名九名ノ委員……

○議長(長谷場純孝君) モウ採決致シマシタ——日程第六、人工降雨試驗ニ關スル建議案、委員長早川龍介君

第六 人工降雨試驗ニ關スル建議案(早川龍介君 (委員長報告) 提出)

〔早川龍介君登壇〕

○早川龍介君 極メテ簡單ニ報告ヲ致シマス、本案ハ三月十三日ニ委員會ヲ開キマシテ委員長理事ノ選舉ヲ致シテ、併セテ會議ニ移リマシタ、次ニ三月十七日ニ第二ノ會議ヲ開キマシテ滿場一致ヲ以テ決シマシタ、唯茲ニ簡單ニ一言申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ハ、農商務省ト文部省ト兩方ノ政府委員ガ寄リテ應答致シマシタノデゴザイマス、御承知ノ通り此問題ハ提出者私ト雖モ確實ニ之ヲ實行サレルト云フコトヲ確信致シテ居ルノデハゴザイマセヌケレドモ、農民ノタメニハ早急ノ時分ニ兩ノナイト云フコトハ實ニ悲シイコトデアル、然ルニ現今追々戰爭等ニヨリマシテ農民ノ負擔ハ益々多クナリマシテ、一方ニハ大ニ農民ノタメニ盡スト云フヤウナ人事デ甚ダ薄イヤウニ考ヘルデアル、ソレデ古ク御覽ニナリマスレバ天皇親カラ壇ヲ築イテ農民ノタメニ兩ヲ御祈リ申シタト云フコトモデゴザイマス、故ニ此事柄ガ若シ實際ニ行ハレルヤウニナリマシタナラバ、實ニ農家ノ幸福此上モナイコトデアルト信ジマスル故ニ、政府ニ於テ此試驗ヲ著々遂ゲラレテ此實行ノ實ヲ擧ゲテ實ヒタイト云フノガ、本案ノ趣旨デゴザイマス、ケレドモ本年此會期切迫ノ今日ニ至リ、更ニ調査費等ヲ要求致シタル譯ニハ參ラヌカラ、文部當局ニ於テ專門學者ニ命ジテ出來得ルダケノ調査ヲ先ツ進メルト云フコトニナリマシテ、委員會ハソレニ一任シテ滿場一致ヲ以テ決定致シマシタ、ドウゾ全會一致ヲ以テ御決議アラント希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 委員長ノ報告ニ對シテ別ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガアリマセヌカラ委員長ノ報告通り決シマス、日程第七、前參議司法卿江藤新平表彰ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、委員長川原茂輔君

第七 前參議司法卿江藤新平表彰ニ關スル建議 (委員長報告)

(川原茂輔君登壇)

○川原茂輔君 諸君、本案ハ委員會ヲ開キマスコト屢、開キマシテ、御手許ニ配付シテアリマス通リ原案ノ末項ニ「相當ノ」ト云フ三字ヲ削リマシテ、「功臣ヲ待ツ所以ノ道ナリト信ス」ト下ニ「ルヲ以テ閣臣ハ輔弼ノ責ニ顧ミ相當ノ處置ヲ取ラレムコトヲ望ム」ト云フ文字ヲ加ヘルト云フコトニ決シタデアリマス、聊此修正ヲ致シマシタコト竝ニ委員會ハ滿場一致ヲ以テ本案ニ贊成致シマシタ理由ヲ單簡ニ説明シヤウト思ヒマス、御承知ノ如ク西郷隆盛、江藤新平此兩人共ニ明治維新ノ功臣デアリマス、一ハ武勳ニ於テシ、一ハ文勳ニ於テシ、而シテ一ハ七年ニ於テ一ハ十年ニ於テ王師ニ抵抗シテ賊名ヲ被ツタ云フコトモ同一デアリマス、然ルニ西郷隆盛ハ御承知ノ如ク憲法發布ト共ニ贈位ノ恩命ニ浴シ、子孫ハ即チ侯爵ヲ授ケマシテ居ルト云フ次第デアリマス、江藤新平ハ征韓論ノ主唱者デアッテ、今日ニ於テ朝鮮ヲ合邦セラレタコトニ場合ニ方リマシテハ、此機會ニ於テ特ニ表彰シテ戴キタイト云フ趣意モアルデアリマス、等シク維新ノ功臣デアレバ、文勳武勳トシテ敢テ軒輊スルコトハナク信ズルデアリマス、西郷ハ城山ニ於テ自刃シ、江藤ハ佐賀ニ於テ刑ニ處セラレ、等シク是レ征討ノ令出テ、賊軍トナッタコト云フコトハ同ジコトデアッテ、一ハ表彰シ、一ハ表彰シナイト云フ理由ハナクアルコト云フ意見デアリマス、近時說ヲナスモノアリ、西郷ハ自刃セリ、江藤ハ刑ニ處セラレタコト云フ故ヲ以テ、維新ノ功臣タルニ違ヒナイケレドモ、之ヲ表彰スル能ハザル所以ナリト云フ說ヲナス人ガアルサウデアリマス、然ルニ此說ノ間違アルコト云フコト一ノ事例ヲ委員會ハ述ベタデアリマスガ、ソレハ御承知ノ通り元治甲子長州ノ家老福原、益田、國司其人ハ久坂玄瑞、具木和泉等ト兵ヲ率テ禁闕ヲ侵シタコト云フコトガアッタデアリマス、其禁闕ヲ侵シタル罪ニ依ッテ、遂ニ梟首セラレタコト云フコトデアリマス、然ルニ後年ニ至リ即チ維新ノ功臣ナリトシテ位ヲ贈ラレタコト云フ先例ガアルデアリマス、然ラバ江藤ハ即チ刑ニ處セラレタメニ表彰スル能ハザルナリト云フ議論ハ此事例ニ於テ確ニ打消シ得ベキモノト信ズルデアリマス、又大赦ハ死者ニ及バズト云フ說ヲナス人ガアルサウデアリマス、併ナガラ大赦若ハ天恩ト云フモノハ、苟モ之ヲ狹義ニ解釋スベキモノデアナイト云フコトヲ信ズルデアリマス、委員會ニ於テハ大赦ハ即チ死者ニ及ブト云フ解釋ヲ滿場一致ヲ以テ取ツタデアリマス、大赦ト云フモノハ是マデノ事ヲ忘レテシマツテ、元ノ白紙ニナルト云フ意味ガサウデアリマスガ、憲法發布ノ年ニ於テ大赦ヲ仰出サレ、其後又大赦ヲ御發布ニナリマシタガ、憲法發布當時ノ大赦ニ於テ西郷ニ贈位ノ場合ト共ニ江藤ノ其罪ト云フモノモ消滅シテ居ルト云フ解釋ヲ委員會ハ取ツタデアリマス、天恩枯骨ニ及ブナド云フコトハ、是ハ文章ニ書キ能ク口ニ言フコトデアリマスガ、天恩ノ枯骨ニ及ブト云フコトハ即チ死者ニ及ブト云フ意味ニ外ラヌト信ズルデアリマス、生キテ居ルモノニ向ッテ枯骨ト云ヘル道理ハアリマセヌ、即チ天恩ノ枯骨ニ及ブト云フハ死者ニ及ブト云フ意味デアリマスガ、大赦モ從テ死者ニ及ブト云フ解釋ヲ滿場一致ヲ取リマシタ次第デアリマス、其他種々ナル御演說モアリマシタガ、會期切迫ノ場合デアリマスガ速記録ニ於テ御承知下サレマシテ、本案ハ滿場一致ヲ以テ御贊成アラント望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 委員長ノ報告通り御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハアリマセヌカラ委員長ノ報告通り本建議案ハ確定致シマス、日程第八、第九ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニヨリ、併セテ委員長ヨリ報告ヲ致シマス、委員長宮古啓三郎君

第八 千葉縣立園藝專門學校ヲ文部省直轄トナスノ建議案(稻村辰次郎君外一名提出) (委員長報告)

第九 高等學校増設ニ關スル建議案(宮古啓三郎君外二名提出) (委員長報告)

(宮古啓三郎君登壇)

○宮古啓三郎君 千葉縣立園藝專門學校ヲ文部省直轄トナスノ建議案ニ對シマス委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此案ハ目下千葉縣ニ於テ園藝專門學校ト云フモノヲ經營シ、アルノデゴザイマスガ、是ガ設備十分ニシテ完全ノ發達ヲ圖リタイト云フタメニハ一縣下ケケテハ到底之ニ堪ヘルトガ出來ナイノデアアル、而シテ又是等ノコトハ國家經營トスルノガ相當デアルカラシテ、ドウウ政府ノ事業トシテ經營シテ貰ヒタイ、因テ四十五年度ヨリ文部省直轄トシテ之ヲ經營セラレシコトヲ望ムト云フ趣意デアリマス、政府ニ於キマシテハ此趣旨ニ付テハ贊成デアルデアアルガ、併ナガラ目下調査中ニ屬シテ居ルカラシテ贊成反對ノ意見ハ表明致サヌガ、併ナガラ此案ガ通過シタ以上ハ十分ニ攻究シテ、成ベク目的ヲ達スルコトニシタイト云フコトデアリマス、委員會ニ於テハ滿場一致ヲ決シテ致シマシタカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、モウ一ツノ高等學校増設ニ關スル建議案ノ方ハ是ハ今日高等教育ヲ受ケタイト云フ者ガ高等學校ニ入學ヲ志願致シマシテモ學校ガ足ラナイタメニ、多クノ者ハ入ルコトガ出來ナイ、其多クノ者ガ今日路頭ニ迷フヤウナ有様ニナツテ居ルデアリマスカラシテ、速ニ高等學校ヲ増設シタイト云フノ趣意デアリマス、委員會ニ於キマシテハ政府ニ向ッテ政府ガ計畫シ、アルトコロノ學制改革案ト云フモノハ如何ナルモノデアルカト云フコトヲ十分ニ質問ヲ致シマシタ、政府ニ於テハ目下樞密院ニ於テ審議中ノコトデアアルカラシテ、確定スルコトハ出來ナイノデアアルガ、併ナガラ今日ヨリモツト學校ヲ殖ヤシテ成ベク此案ノ趣旨ノ貫徹ノ出來ルヤウナ風ニスル積リデアアル、其他詳シイコトヲ言ウテ居リマスガ、是ハ速記録ヲ御承知ヲ願ヒマス、要スルニ此案ノ趣意ニ於キマシテハ、勿論反對ノコトハナイノデアッテ、委員會ニ於キマシテハ十分ニ其學制改革案ニ對スル希望ヲ述ベテ、滿場一致ヲ以テ可決致シマシタカラ此段御報告ヲ致シマス

○議長(長谷場純孝君) 委員長報告ニ對シテ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ、日程第八、千葉縣立園藝專門學校ヲ文部省直轄トナスノ建議案、日程第九、高等學校増設ニ關スル建議案、共ニ委員長ノ報告通り確定致シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ、拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 御諮ヲ致シマス、諸君ヨリ御提出ノ質問趣意書ハ既ニ其都度政府ニ轉送シ、政府ヨリ答辯書モ送附セラレタル分モアリマスガ、會期モ既ニ切迫シテ參リマシタカラ、右様ノモノモ尙多數アリマスケレドモ、此際質問ノ趣意辯明ハ省略スルコトニ致シタイ思ヒマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○早川龍介君 チョット私ハ御願ヲ致シテ置キマスガ、無論切迫シテ居リマスデ、演說等ハ致サヌ覺悟ヲ簡單ニ演說筆記ヲ御手許ヘ差出シテ置キマシタ、デ之ヲドウツ速記録ニ御掲載アラント希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) ソレハ宜シウゴザイマス

○守屋此助君 私ハ自分ノデハゴザイマセヌカ、衆議院カラ多數ノ諸君ガ熱心ニ御尋

ニナデモ政府ハ免角答辯スルコトヲ等閑ニスル弊ガアリマスカラ、ドウカ早速政府へ御
交渉アテ、明日ノ十時マデニ必ズ一切ノ御答辯ヲ爲スヤウニ御催促ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) ツレハ議長ハ既ニモウ再三二一日マデニ必ズ答辯書ヲ出
シテ貰ヒタイト云フコトヲ交渉シテアリマスガ、尙交渉シマセウ——本議會ノ會期ハ明後
二十二日ヲ以テ了リマスガ、二十二日ハ春季皇靈祭ニ相當シマスカラ、旁ノ議事ハ明
日ヲ以テ終リスルコトニ致シタイト思ヒマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 本日ハ唯今ヨリ暫ク休憩ヲ致シマシテ午後二時半頃ヨリ
又開會致シマス
午前十一時六分休憩

午後一時三十八分開議

○議長(長谷場純孝君) 午前ノ會議ニ引續キマシテ、會議ヲ開キマス、報告ヲ致シ
マス

(書記朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

決議案

提出者 犬養 毅君

大石 正己君

河野 廣中君

決議案

提出者 犬養 毅君

大石 正己君

河野 廣中君

國家公共ニ對スル篤志者ノ表彰ニ關スル建議案

提出者 早川 龍介君

一高木益太郎君ヨリ淺野セメント合資會社粉害事件ニ關スル質問主意書ヲ提出
セラレタリ

兩院協議會議長副議長左ノ通り當選セラレタリ

行政裁判法中改正法律案

議長 元田 肇君

副議長 菊池 侃二君

商法中改正法律案外一件

議長 鳩山 和夫君

副議長 長島 馨太郎君

一政府ヨリ左ノ質問書ニ對シ答辯書ヲ送付セラレタリ

領事館設置ニ關スル質問主意書(小村外務大臣)

淡水產漁業獎勵ニ關スル質問主意書(大浦農商務大臣)

小坂鑛山鑛煙毒豫防方法及被害救済ニ關スル質問主意書(大浦農商務大
臣)

朝鮮ノ關稅ニ關スル再質問主意書(小村外務大臣)

荒川、中川、多摩川河身改修豫備ニ關スル質問主意書(平田內務大臣)

生活必需品價格騰貴ノ傾向ニ關スル質問主意書(桂大藏大臣大浦農商務
大臣)

(左ノ答辯書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

衆議院議員根本正君提出領事館設置ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
也

明治四十四年三月二十日

衆議院議長長谷場純孝殿

內閣總理大臣侯爵桂太郎

(別紙)

衆議院議員根本正君提出領事館設置ニ關スル質問ニ對スル答辯書

政府ハ國家財政ノ許ス限リ成ルヘク速ニロスアンゼルス市帝國領事館ヲ設置
スルノ意向ナリ

右及答辯候也

明治四十四年三月二十日

外務大臣伯爵小村壽太郎

衆議院議員吉田虎之助君提出淡水產漁業獎勵ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯
書差進候也

明治四十四年三月二十日

內閣總理大臣侯爵桂太郎

(別紙)

衆議院議員吉田虎之助君提出淡水產漁業獎勵ニ關スル質問ニ對スル
答辯書

一淡水漁業中有利ナルモノニ付テハ今モ尙講習講話指導傳習等ノ方法ニ依リ之
ヲ獎勵スルコトヲ怠ラス 質問ノ所謂獎勵費カ明治四十四年度豫算中水產試
驗場講習所補助費ノ意ナリトモ右費目ハ淡水漁業獎勵ノ爲ニ支出スルニ
ラシテ水產講習所又ハ試驗場ニ於ケル講習費試驗費ノ補助ニ充ツルモノナル
ヲ以テ假令此費目ヲ減シタリト雖トモ淡水漁業ノ獎勵ニ影響スル所アルコトナシ

一淡水漁業ニ關スル講習又ハ試驗場ニ於ケル講習所又ハ水產試驗所ヲシテ
之ヲ施行セシメ居レトモ尙淡水漁業ノ試驗場ヲ設置スルノ必要アリト認ムルヲ
以テ今後財政ノ許ス時期ニ於テ其施設ヲ爲サントス

一魚梯設置ノ要否ハ各般ノ場合ニ付考量スヘキモノナルヲ以テ洗ヒ堰又ハ堰堤ノ
設ケアル箇所ト雖モ一概ニ魚梯設置ノ必要アリト斷定スルコトヲ得ス

右及答辯候也

明治四十四年三月二十日

農商務大臣男爵大浦兼武

衆議院議員荒谷桂吉君提出小坂鑛山鑛煙毒豫防方法及被害救済ニ關スル
質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十四年三月二十日

內閣總理大臣侯爵桂太郎

衆議院議長長谷場純孝殿

內閣總理大臣侯爵桂太郎

(別紙)

衆議院議員荒谷桂吉君提出小坂鑛山鑛煙毒豫防方法及被害救済ニ
關スル質問ニ對シ別紙答辯書

一鑛毒調查會ニ於テ昨年中實施シタル鑛煙毒豫防ニ付テハ調査除害方法施設
ノ實況及其成績ニシテ小坂鑛山ニ關係アルモノ別冊記載ノ通

一明治四十二年ニ於ケル小坂鑛山鑛煙毒被害森林耕作地ノ段別及被害ノ度合
ハ之ヲ前年ニ比較シ大ナル相違ナシ但シ其實數ハ尙調査ヲ要スル廉アルヲ以
テ明示シ難シ

一被害地ニ設置セル試驗地ハ四十二年ニ於テハ五箇所ナリシモ四十三年二箇

所ナリシ

也

也

明治四十四年三月二十日

衆議院議長長谷場純孝殿

內閣總理大臣侯爵桂太郎

所ヲ増設シ目下七箇所トナレリ而シテ各試驗地ニ於テ施行セル試驗ノ項目ハ種類試驗肥料用量試驗過燐酸石灰加用試驗及石灰ノ加用試驗ノ四種ニシテ試驗面積ハ約三段歩ナリ又稻作期中ニ襲來セル硫煙ノ回數及其濃度ノ大要ヲ記錄シ又必要ニ應ジ空氣中ノ亞硫酸瓦斯ノ分析定量ヲ行ヘリ其成績ニ付無害地ト比較シテ被害ノ度合ハ尙調査ヲ要ス

一、坂島煙害事件ニ關シテハ礦業者ト被害地人民トノ交渉事項中其多クハ相互ノ交譲ニ依リ妥協成立スルニ至リシモ當事者間ノ商議ニ依リ協定ノ望ナキ事項ニ付テハ雙方ノ要請ニ基キ本大臣ニ於テ便宜ノヲ裁定セリ然レトモ是レ固ヨリ異例ニ屬スル特別ノ處置ニシテ政府ハ務メテ當事者間ノ妥協ニ依リ圓滿ノ解決ヲ見ルニ至ランコトヲ期ス

一、前項答辯ノ趣旨ニ依リ自ラ明瞭ナルニ付特ニ辯明セス

右及答辯候也

明治四十四年三月二十日

農商務大臣男爵大浦兼武

(別冊)

第一 鑛煙調査ノ方法及成績

鑛煙ノ豫防方法ヲ研究スルニハ先ツ鑛煙ノ量及成分ヲ測定セサルヘカラス而シテ從來ノ鑛煙測定法ハ精確ヲ期シ難キヲ以テ種々研究ノ結果「ピット」管ヲ用フルノ可ナルコトヲ認メ種々苦心ヲ重ネテ該機械ノ常用係數ヲ檢定シタリ又從來施行シタル亞硫酸硫煙等ノ定量法ニハ多少缺點アルコトヲ發見シタリ以テ前後數回ノ試驗ヲ經テ漸ク之ヲ改正スルコトヲ得タリ而シテ此等ノ調査研究ニ使用スル機械ノ如キ悉ク之ヲ新調スルノ必要アリ且本邦ニ於テ製作スル能ハサルモノハ之ヲ外國ヨリ購入セサルヲ得ス且本邦品ト雖モ亦其製作ニ日子ヲ要スルコト多ク之ヲ爲メ往々進行ヲ阻止セラルノ不便ヲ來スコトアルハ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ此等ノ機械中最モ普通ニ用ヒタルモノハ鑛煙量測定用トシテ「ピット」管及「ケエニッヒ」氏示差壓力計トシ「瓦斯分析用」トシテ「ライヒ」氏瓶及「ブルサット」氏瓦斯分析裝置ナリトス其他「ダブルイ」氏通風計「サルコ」氏自記測風「ルシヤテリエ」氏高度熱量計「ミクロコノメーター」氏「ミニラ」氏堰板瓦斯比重測定鑛等ナリトス

今此等ノ機械ヲ用ヒ鑛煙ノ量及成分ヲ檢定シタル方法ヲ左ニ略述スヘシ

一、鑛煙ノ測定法

鑛煙ノ測定ニハ主トシテ「ピット」管ト「ケエニッヒ」氏示差壓力計ヲ用ヒタリ而シテ「ピット」管ハ使用ニ先チ豫メ機械ノ常用係數ヲ檢定スルノ必要アルヲ以テ四十二年四月四坂島製鍊所ニ於テ長サ九百六十尺直徑三尺一寸餘ノ鐵管ヲ敷設シ之ヲ鑛煙爐ノ煙道ニ連絡シテ以テ此裝置ニ宛テタリ而テ此煙道ハ一ノ火床ヲ設ケ石炭ヲ燃燒シテ以テ鐵管内ニ氣流ヲ生セシメ火藥ノ煙色ニ由テ該氣流ノ速度ヲ測定シ此結果ヲ一定ノ公式ニ應用シ以テ「ピット」管ノ常用係數ヲ算出シタリ

是ノ如クニシテ常用係數ヲ檢定シタル「ピット」管ハ總計三十五箇ニシテ其檢定ハ四十二年五月ニ始リ七月ニ終レリ今ヤ此機械ハ小坂鑛山ノミナラス他ノ諸鑛山ノ調査ニ使用シ便利ヲ感スルコト多シ而テ之ヲ用ヒテ鑛煙量ヲ測定スルニハ先ツ其感受スル所ノ壓力ヲ「ケエニッヒ」氏示差壓力計ニ傳ヘテ觀測ニ便ナラシムルヲ法トシ當時別ニ測定シタル大氣ノ壓力煙ノ溫度及比重等ト共ニ此數字ヲ用ヒテ一ノ公式ニ由リ煙ノ速度ヲ算出シ之ニ煙道ノ斷面積ヲ乘シモノトス

又「ピット」管ニ代フルニ「フレッチャー」氏測風器「ミューラー」氏堰板等ヲ用ヒテ鑛煙量ヲ測定セントシタルコトアリシモ廣ク應用スルコトヲ得サル場合アルヲ以テ平時ニ在テハ之ヲ使用セス

鑛煙ハ種々ノ瓦斯及云微ナル煙塵ヲ含ミ且其濃淡速度冷熱ノ變化不定ナルヲ以テ精巧ノ機械ト雖トモ一面ノ觀測ニ由テ直ニ其真相ヲ知ルヲ得ス故ニ可成多數ノ觀測ヲナシ以テ機械及作業上ノ誤差ヲ減殺シ之ニ由テ代表的平均ヲ得ンコトヲ務メタリ

二、煙ノ分析法

鑛煙ノ成分ヲ檢定スルニハ亞硫酸炭酸ノ場合ニハ「ライヒ」氏法ヲ用ヒ又鑛煙ノ完全分析ヲ行フノ目的ヲ以テ亞硫酸炭酸一酸化炭素酸素等ヲ測定スル場合ニハ「ブルサット」法ニ由レリ

鑛煙中ノ硫酸ハ通常其量極メテ少ク且亞硫酸瓦斯ノ酸化シテ硫酸トナルコトアルカ爲メニ其定量ノ結果ニ錯誤ヲ來スコトアリ依テ從來ノ方法ヲ改良センカ爲メ數箇月ニ互リ種々研究ヲナシ漸クニシテ比較的精確ト認ムヘキ方法ヲ案出スルコトヲ得タルヲ以テ今日ハ一般ニ此法ヲ用ヒ居レリ

三、煙塵ノ檢定法

煙道内ニ於ケル煙ノ速度溫度濃淡等ハ常ニ變化スルノミナラス煙塵ノ分布スル狀態亦均一ヲ缺カ故ニ煙塵ノ檢定ヲナスニ當リ平均ノ試料ヲ得ルコト能ハス煙塵中粗大ナル粉粒ヲ含メルモノハ殊ニ然ルヲ以テ其微小ナルモノニ限リ檢定ヲナスコトハ適當ナル方法ヲ得ルニ苦心シタリ近來漸ク一種ノ裝置ヲ得之ヲ試用シタルニ其結果預ル良好ナリ今後ハ之ニ由テ以テ精確ナル結果ヲ舉クルコトヲ得ヘシト信ス

鑛煙調査會ニ於テハ小坂鑛山鑛煙ノ發生狀況ニ付キ四十二年中既ニ調査ヲ施行シ以テ除害法研究ノ基礎トナサンセリ然レトモ前述ノ如ク當時ノ調査方法及器械ハ未タ完備セシ日數亦不足ナリシヲ以テ其成績確實ナラサルノ虞アリ依テ四十二年中モ亦之ヲ繼續シタリ左ニ述フルハ即其成績ナリ

小坂鑛山ハ鑛煙爐七坐、粉鑛燒結爐二坐回燒爐八坐鍊鐵爐一坐反射爐五坐ヲ備ヘ一日二十七萬貫餘ノ鑛石ヲ製鍊シテ粗銅トナシ粗銅ハ更ニ電氣精銅法ニヨリ電氣銅トス而テ今同回燒爐以下ノ各爐ヲ廢シテ之ニ代フルニ「ベッセマー」爐二坐ヲ用フルノ計畫ヲ建テ其建築工事ハ昨年末既ニ竣成シタリ

既往五箇年間ニ於ケル製鍊鑛量ト最近ノ分析ニ係ル鑛石ノ平均成分左ノ如シ

既往五箇年間ニ於ケル製鍊鑛量

既往五箇年間ニ於ケル製鍊鑛量	明治三十九年	九五、一三三、八五三	實
	同四十年	一〇二、四〇九、〇四七	
	同四十一年	九五、二二九、〇一七	
	同四十二年	九四、二〇二、四五七	
	同四十三年上半年期	四四、六五二、一七五	
明治四十三年上半年期中製鍊ニ付シタル主要鑛石ノ成分(百分率)次ノ如シ			
成分鑛種	黑鑛(塊)	黃鑛(塊)	硅鑛(塊)
鐵	一、四四	二、二九	一、五一
銅	一、三〇	五、二五	二、九一
鉛	二、六三	五、五六	一、二八
亞鉛	一、〇四	八、三二	一、一
錫	九、七二	一、七六	四、九
砒	五、〇八	五、八八	四、一〇
砒	五、〇八	五、八八	四、一〇
硫酸重土	三、四二	二、七	一、四
硫酸重土	三、四二	二、七	一、四
左ノ揚	四、四二	三、二	四、五
ノ量及成分ナリ	四、四二	三、二	四、五

他鑛山ノ鑛石

標準狀態ニ於ケル毎分ノ煙量	立方尺	第一大煙突	鑽石百貫ニ對シ
毎秒流通速度	攝氏	一〇七、三四一	五九、四八三
溫度	攝氏	一、二四	一、五七
煙中亞硫酸ノ量	毎分立方尺	三、二七四	一、八一四
浮游煙塵ノ量	毎分貫	六、〇七六	三、三六七

煙ノ成分	炭酸瓦斯	一六、八五
分率	一酸化炭素	〇、二四

前表ニ據テ察スルニ熔鑛ノ際鑽石中ノ硫黃ノ煙ニ含マレテ大氣中ニ飛散スルモノハ九割一分七厘ナリ而シテ熔鑛爐及其他ノ爐ヲ包括シ製鍊所全體ニ於ケル硫黃ノ變遷狀態ヲ四十二年上半期ノ報告ニ據テ概算スレハ一分間ノ處理量ハ二百六貫六百勿其硫黃五十一貫四百勿ナリトス而シテ拾鑛中ニ入ル所ノ硫黃ハ四貫〇八十七勿ナルヲ以テ殘餘四十七貫餘ハ氣體及煙塵トナリテ大氣中ニ飛散スルモノト做シ得ヘシ此量ハ鑽石中ニ含メル硫黃ノ九割二分ニ相當シ鑽石百貫ニ付二十二貫九百勿ノ割ナリトス

第一大煙突ニ於ケル浮游煙塵ノ量ハ鑽石百貫ニ對シ三貫三百六十七勿ニシテ成分左ノ如シ

煙塵成分百分率	硫黃總量	鉛	鐵	亞鉛	銅
游離硫黃	一、五〇	四、二〇	六、〇〇	一、三二	一、三二
化合硫黃	四、一〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

鑽石中ノ硫黃量	鑽石百貫ニ付	煙中ノ硫黃量	鑽石百貫ニ對シ
產出鐵及鐵中ノ硫黃量	二、五三九二	對スル百分率	對スル百分率
煙中ノ硫黃量	二、二二二	八、三三	一〇〇、〇〇
亞硫酸中ノ硫黃量	二、二八〇	九一、六七	一〇〇、〇〇
浮游煙塵中ノ硫黃量	一、九一〇三	七五、八九	八三、〇一
其他	一、四三二	五、六四	六、一二
	二、七四六	一〇、一四	一〇、八七

第二 除害方法施設ノ實況及其成績
煙害ノ豫防方法ハ從來歐米諸國ノ解決ニ苦ミタル難問題ニシテ去四十二年獨逸撤運政府ノ廣ク世界ニ募集シタル豫防方法ノ如キモ今ニ至ル迄實用ニ適スル新案ヲ提出セザルモノナシ又近來鐵鑛ニ關スル文書ノ公ニセザル、コト頗ル多ク此趨勢ヲ以テモハ今後學藝ノ進步ニ從ヒ冶金學ハ電氣機械製造化學等ト益々相密接シ此等諸學ノ力ニ依リテ以テ根本ノ煙害ヲ除去シ得ヘキ新法ヲ發明スルノ時アルヘシ從テ我國ニ於テモ煙塵ニ關シテハ試料ノ採取分析ノ方法空氣中ニ擴散スル性質空氣中ニ於ケル微量ヲ檢定スル方法等普通ニ豫防法ノ調査ト關係セル必要問題ヲ始メトシ前記根本ノ除害方法ヲ大成シ得ヘキ學術的研究ハ當然之ヲ施行セザルヘカラス此等ノ研究ハ既ニ多少成績ヲ見ルヘキモノナキニアラスト雖モ未タ之ヲ實地ニ應用スルノ時機ニ達セザルノミナラス研究ノ事項ハ一二年ニシテ能ク終結スヘキモノナラサルヲ

以テ尙ホ之ヲ繼續スルノ必要アリ但シ今日ノ急ニ應スルノ處置トシテハ鑛毒調査會ハ調査著手ノ始ヨリ最モ簡單ニシテ且其效果ヲ速知シ得ヘキ方法ニ由ルコトニ決シ亞硫酸硫酸及煙塵ノ處理スルノ方法ヲ各別ニ調査スルノ方針ヲ執リタリ而シテ三者處理ノ方法トシテ大體ニ左ノ考案ニ依リ試驗ヲ舉行スルコトセリ
一、亞硫酸ニ對シテハ鑛石中ニ含メル硫黃分ノ無益ノ燃燒ヲナスコトヲ避ケ以テ其發生量ヲ少クスルカ爲メ爐ノ高サヲ大ニシ且煙頂ニ外氣ノ竄入ヲ防止スルノ裝置ヲ設クルコト
二、止ヲ得シテ發生シタル亞硫酸ハ煙ニ空氣ヲ混和シ以テ酸氣ヲ稀釋シタル後空

中ニ擴散セシムルコト
三、硫酸ハ「フライタツ」塔ニ通シテ以テ之ヲ除去スルコト
四、煙塵ハ諸鑛山ノ除害裝置不完全ナルモノ多キヲ以テ收塵ノ方法裝置ニ關シテハ諸鑛山固有ノ狀況ヲ考查ニ調査研究ヲナスコト
上述ノ試驗ハ四十二年中ニ施行シタルモノナルモ凡テ四十二年ヨリ繼續セルモノニ係リ主トシテ四坂島及小坂ノ二箇所ニ於テセル外參考ノ爲メニ尾尾、尾去澤、日立ノ三鑛山ニ就テモ研究ヲナシタリ

左ニ掲クルハ前記ノ各事項ニ付施行シタル試驗成績ノ大要ナリ
一、亞硫酸ノ減少法
鑛石ノ硫黃分中亞硫酸トナリテ煙ニ入ルモノハ甚タ多キ故ニ此亞硫酸トナルモノノ量ヲ可及的減少スルノ手段ハ即チ煙害ノ豫防法中極メテ有效ナルモノト云フ可シ鑛毒調査會ハ鑛石ノ高サヲ增大シ且煙頂ヨリ外氣ノ竄入スルヲ防キ以テ硫黃ノ無益ノ燃燒スルヲ避クルノ考案ヲ立テ四十二年中小坂ニ於テ其實驗ヲ開始シタリシモ當時試驗ノ準備未タ整ハス日數亦不足ナリシヲ以テ得ル所ノ成績充分ニ確實ナラサルノ憾アリ依テ更ニ四十二年ニ涉リテ之ヲ繼續シ前後一箇年ノ間治ク必要ノ事項ヲ調査シ鑛煙ノ分析ノミヲ數フルモ百九十九回ノ多數ヲ算シ同年六月末ニ至リ一應之ヲ終結セリ

本試驗ノ用ニ供シタル熔鑛爐ハ從來同山ニ於テ使用シタル鍊鐵爐ニシテ其羽口水準ヨリ煙道底面迄ノ高サ八尺羽口水準ニ於ケル斷面積四十七三平方尺ヲ有スルモノナリ羽口ハ直徑五寸ノモノ十二箇ヲ有シ專屬ノ電動機ヲ以テ運轉セル「ル」ツニ番形扇風器及其送風管ニ由テ四十托ノ風壓ヲ送り一晝夜鑛石一万五千貫ヲ製鍊シ得而テ煙頂ノ裝入口ハ鐵板ノ蓋ヲ充分ニシ且ッ裝入積ノ高サヲ増シテ以テ外氣ノ竄入ヲ防止シ鑛煙ハ特ニ長百六十二尺ノ鐵製煙道ニ導キ冷水ヲ用ヒテ煙道ノ外圍ヨリ之ヲ冷却セリ

此爐ヲ用ヒテ試驗ヲナスニ當テハ種々ニ裝入材料ヲ變化シ材料ト產出物トハ一々精確ニ秤量シ同時ニ試料ヲ採取シテ完全分析ニ付シタリ此他一日二回宛煙頂及煙道ニ於テ煙ノ容量溫度成分煙塵含有量等ヲ檢定シ諸般ノ狀況ノ鑛煙ニ及ボス影響ヲ研究セリ左ニ示スハ爐内ニ於テ煙頂ヨリ深サ五尺ノ處及爐外ニ於テ百五十尺ヲ隔テタル煙道ニ就キ試驗シタル成績百八十六回中最モ確實ト做スヘキモノ七十四回ヲ撰シ之ヲ平均シタルモノナリ

標準狀態ニ於ケル煙量	立方尺	一分ニ付	鑽石百貫ニ付
亞硫酸ノ量	一、九七六、四	一、七九〇、二	一、三九八
浮游煙塵ノ量	一、五四、三六	二、八七五	二、六〇四
煙道内沈定ノ煙塵量	〇、〇五四	二、三七一	二、三、五八〇
鑛煙中ノ硫黃總量	二、三七一	二、三、五八〇	二、三、五八〇
鑛石中ノ硫黃	二、六〇四	二、三、五八〇	二、三、五八〇

鉅鍍中ノ硫黃 實 〇、二三三
煙ノ溫度 攝氏 一六六、八
煙ノ流通速度 每秒尺 一〇、〇

煙頂ノ硫黃 亞硫酸瓦斯 一三、四八
容量 炭酸瓦斯 五、四〇
百分率 一酸化炭素 〇、一二
分 水 〇、一七
酸素 〇、三八

煙道ノ硫黃 亞硫酸瓦斯 七、八一
容量 炭酸瓦斯 二、九一
百分率 一酸化炭素 〇、一二
分 水 〇、一七
酸素 〇、三八

但前表ハ一分間ニ鑛石十一貫四十匁ヲ處理シタルモノトシテ計算ス
上表ニ據レハ鑛石百貫ヨリ生スル煙ノ量ハ一萬七千九百立方尺ニシテ內亞硫酸
ノ量ハ二千三百九十八立方尺ナリ而テ煙道內ノ煙ニ含メル亞硫酸ハ百分ノ七、八一
ナリトス
左ニ鍊鍍爐ヲ用ヒテ煙頂密閉ノ試驗ヲ舉行セル際處理鑛石ニ含メル硫黃ノ變遷狀
態ノ計算ヲ示シ以テ參考ニ便ス
鑛石中ノ硫黃 一〇〇、〇〇
鉅鍍及煙道內採集煙塵中硫黃 九、二五

煙突 亞硫酸中硫黃 五七、〇二
逃散 浮游煙塵中ノ硫黃總量 三、四七
スル其他 三〇、二六 三三、五五 九五、八外氣吸入ノ爲
硫黃小計 九〇、七五 一〇〇、〇〇

上述ノ試驗成績ハ爐頂ヲ開放セル場合ノ成績ト比較スルニ非サレハ充分ニ其效果
ヲ認定スルヲ得ス而テ其開放試驗ハ同一ノ爐ニ就テ施行スルヲ適當トスレトモ試驗
ニ供シタル爐ハ煙道改造ノ結果通風不十分ナリ終ニ之ヲ果スコトヲ得サリキ
然ルニ幸ニシテ鑛山ニ於テモ操業上各爐ニ付テ可及的外氣ノ吸入ヲ避クルコトヲ
注意スルニ至リタルカ故ニ偶々以テ其成績ヲ從前爐頂ヲ開放シタル時ノ成績ト比較
スルコトヲ得タリ今試ニ此兩者ヲ比較スルニ近來ノ操業法ニ於テハ鑛石百貫ニ對ス
ル煙量ハ前述ノ如ク五萬九千四百八十三立方尺其亞硫酸ノ量ハ千八百四十四立方
尺ナリ然ルニ爐頂ヲ充分ニ開放シタル場合ハ四十一年中熔鑛爐ニ就テ調査シタル
成績ニ由テ算スレハ鑛石百貫ニ對スル煙量十一萬一千四百八十六立方尺其亞硫酸
酸ニ千八百四十二立方尺ナリ故ニ前者ハ後者ニ比シ煙量ヲ約五割餘ニ亞硫酸ヲ
約六割餘ニ減シ結局約二割半ノ脫硫率ヲ示セルモノト謂フヘシ爐頂ニ於ケル外氣
ノ遮斷不十分ナル時ト雖モ既ニ是ノ如ク脫硫效果ノ著明ナルヲ見レハ遮斷完全ナ
ル場合ニ其效果ノ更ニ大ナルヲ勿論ナリ今前記鍊鍍爐ニ於ケル試驗成績ヲ四十一
年中ニ熔鑛爐ニ就テ調査シタルモノニ比較スルニ前者ノ煙量ハ減シテ後者ノ約一割
半トナリ前者ノ亞硫酸ハ減シテ後者ノ約五割トナリ大略五割ノ脫硫效率ヲ示セリ
外氣吸入防止ノ除害上顯著ナル效果アルコト是ノ如シ左ニ兩者ノ成績ヲ掲ゲ以テ比
較ノ便ニ供ス

鑛石百貫ニ對スル煙量 立方尺 四十一年中調査 鍊鍍爐試 割 合
一、一四八六 一七、九〇二 一六、〇六%

煙中含有ノ亞硫酸量 立方尺 一、八四三 一、三九八 四九、一七%

但表中鑛石百貫ニ對スル煙量ハ一分間ニ處理シタル鑛石ヲ熔鑛爐ニアッテハ百八
十三貫七百匁鍊鍍爐ニアッテハ十一貫四十匁トシテ計算セリ
前表ニ於テ鍊鍍爐試驗ノ成績ヲ四十一年中調査ノ熔鑛爐成績ニ比較シ前掲
ル所ノ煙量十萬七千三百四十一立方尺ノ場合ニ於ケル成績ニ對照セザリシハ此煙
量ニ對スル成績ハ前述ノ如ク既ニ吸入外氣ノ幾分ヲ防遏セルモノニ係リ純然タル開
放試驗ノ結果ト認ムヘカサルカ故ナリ之ヲ要スルニ本試驗ハ充分ニ外氣ノ吸入ヲ
防遏セントシタルニ拘ラス尙多少ノ外氣ヲ爐頂ヨリ吸入シ且爐頂ノ溫度高キカ爲メ
ニ幾分ノ游離硫黃ヲ燃焼セシムルニ至レリ然レトモ脫硫ノ效果ハ尙前述ノ如ク
高キヲ以テ觀レハ若シ爐頂ニ於ケル煙ノ溫度ヲ硫黃ノ燃焼點即攝氏二百六十度以
下ニ降ラシムルモノトキハ縱令外氣ノ侵入スルアルモ能ク顯著ナル成績ヲ擧ゲ得ヘシト信
ス而テ爐頂ノ溫度ヲ低クスルノ法ハ爐ノ高サヲ增加スルヲ以テ最モ簡便ナリトス蓋シ
爐內ノ熔解帶ニ於ケル溫度約一千五百度ニ近キモ僅ニ八尺ノ厚サアル裝入物ヲ通過
シタル煙ハ四百度前後(袖口ノ溫度ハ二百三十度乃至五百五十度ナリ)ニ降ルヲ
以テ見レハ此法ノ容易ナルハ推知スルニ難カラス今同小坂及四坂島ニ於テ築成シタル
新爐ハ其高サ十五尺ニシテ其小坂ニ於ケル試驗ニ於テハ風壓四十托ヲ用フレ
ハ以テ大ニ煙ノ溫度ヲ低下セシメ且游離硫黃ノ爲メニ爐頂ノ閉塞セラル、カ如キ障
害アルヲ見ス但四十一年ノ成績ハ「ルビンソン」測風器ヲ用ヒ觀測シタルモノニ係リ今
回「ピット」管用ヒタル場合トハ精粗ノ差アルヘキカ故ニ此比較ハ未タ以テ確實ノモ
ト謂フヲ得ス尙詳細ノ成績ニ至テハ他日實驗ヲ經テ之ヲ報告スヘシ

骸炭ヲ熔鑛爐ニ裝入スル場合ニ其亞硫酸ヲ還元スルノ事實ハ既ニ世ニ知ラル、所ナ
レハ前述ノ手段ヲ助クル一案トシテ小坂ニ於テ裝入鑛石ノ百分ノ五ニ相當セル骸
炭ヲ用ヒ以テ實驗ヲ試ミ爐內裝入物ノ表面下五尺ノ所ヨリ採取シタル煙ヲ檢スルニ
亞硫酸百分ノ八、九ニ含有セリ之ヲ前述試驗ノ場合ニ於ケル十二、四八ニ比較
スレハ爐內ニ於テ亞硫酸ヲ還元セラレタルコトヲ推量スルニ足ルモノアリ而テ此煙ハ之
ニ混入セル外氣ノ量ヨリ推算スレハ煙道內ニ於テ亞硫酸百分ノ六、二ヲ含ム可キモ
ナルニ拘ラス實際百分ノ四、三四ヲ含ムヲ見ルニ是レ恐ラクハ爐頂附近ニ於テ更ニ亞
硫酸ヲ還元セラレタルニ由ルモノナルヘシ是ノ如クシテ單ニ爐頂ニ於テ外氣ノ吸入ヲ
防遏スル場合ニハ鑛石中ノ硫黃ト亞硫酸トナレル硫黃トノ比ハ百五十、七、〇二ナ
ルニ此實驗ノ場合ニハ其比百四十、一、八八ニ減シ著シク良好ナル結果ヲ擧グルコ
トヲ得タリ而テ又今同新築熔鑛爐ニ鑛石量ノ百分ノ五ノ石炭ヲ裝入セル結果ハ爐
頂ノ煙中亞硫酸瓦斯ノ含有量ヲシテ百分ノ四、〇二五ニ下ラシメ更ニ好成績ヲ擧
グルコトヲ得タリ但此數字ハ僅ニ三四回ノ實驗ニ由ツテ得タルモノナルヲ以テ今般新
設ノ熔鑛爐ニ就テ研究ヲ重ニ其成績ヲ確實ニスルノ必要アリ

二、噴煙ノ稀釋法
空氣ヲ鑛煙ニ混和シ以テ其亞硫酸ノ濃度ヲ稀薄ナラシメンカ爲メ取リタル方法ハ一
種ノ空氣放射器ニシテ四十一一年四月其製作ヲ終リ六月一日之ヲ四坂島ニ據付タリ
此機械ノ設計ニ據レハ鑛煙量ノ三倍ニ相當セル空氣ヲ煽風器ニ由テ送入シ此空氣
ノ有スル壓力ヲ假リニ周圍ニ於テ別ニ鑛煙量ノ二倍ニ相當セル空氣ヲ器內ニ誘導
吸入セシメ之ト同時ニ毎分鑛煙一千〇六十立方呎ヲ誘導吸入セシメ以テ鑛煙中
ノ亞硫酸ヲ稀釋シ其濃度ヲシテ七分ノ一二達セシムルモノトス然ルニ此機械ハ數回ノ
改良ヲ加ヘタル後漸クニシテ略七分ノ一二達セシムルモノトス然ルニ此機械ハ數回ノ
分量ハ煙量ノ二、六倍ニ達シ之ニ反シテ吸入空氣ハ二、一倍ニ過キス從テ現在ノ裝
置ハ動力ヲ要スルコト多キヲ以テ之カ改造ヲ要ス

今單ニ煽風器ヲ用フルトシ假リニ熔鑛爐ヨリ發生スル鑛煙毎分十萬立方尺其亞硫酸

酸含量百分の一、四ヲ稀釋シテ煙量ヲ七十立方尺トナシ亞硫酸ヲ千分二トナ
スモノトシ之ニ要スル動力ヲ算出センニ水壓十三耗ヲ以テ空氣六十立方尺ヲ送
入スルニ要スル理論的動力ハ四十九馬力ナリ故ニ其效率ヲ二分の一トスレハ所要
動力ハ九十八馬力ヲ以テ足レリトス

稀釋法ヲ實行スルニ當テハ空氣ト亞硫酸トノ混和ヲ十分ニスルカタメ特別ノ手段ヲ
要スルコトハ外國ニ於テ此法ヲ唱導セル專門家ノ主張スル所ナルモ今回ノ試驗ニ依
レハ兩者ノ混合極メテ完全ニシテ毫モ憂慮スルニ足ラサルコトヲ認メタリ

三、硫酸ノ除却法

煙中ノ硫酸ヲ除却センカ爲メニ試用シタル方法ハ濃硫酸ヲ用ヒテ硫酸ヲ洗滌シ以テ
煙中ノ硫酸ヲ脱取セシムルモノニシテ之ト同時ニ幾分ノ煙塵ヲモ濾過洗滌シ殘餘ノ
亞硫酸ハ空氣ヲ混和シテ之ヲ稀釋シ大氣中ニ放散セシメントセリ此試驗ニ使用シタル
ルフライタツハ塔ハ直徑六尺高サ五十尺ノ鉛板製圓筒ニシテ此内ニ乾炭ヲ充填シ
硫酸ハ塔底ヨリ入リテ乾炭ノ間隙ニ沿ヒ上昇シ塔頂ヨリ排出セラレ塔頂ヨリハ濃
硫酸ヲ滴下シテ斷ヘス乾炭ヲ潤潤セシメ以テ硫酸ヲ洗滌スル裝置ナリ此塔ハ去四十
二年八月竣工シ先ツ濃硫酸ノ代リニ清水ヲ用ヒテ豫備試驗ニ著手シタリシカ其後
數回構造ヲ改良シ四十二年一月末ニ至リ始メテ濃硫酸ヲ使用シ正式ノ試驗ヲ施
行スルニ至レリ爾來四月末ニ至ル迄舉行シタル試驗ノ結果ヲ通覽スルニ硫酸ノ脱
取率ハ甲號試驗度數二十三回ノ平均百分ノ九十二、四乙號試驗度數二十四回
ノ平均百分ノ九十七、八ニシテ頗ル好結果ナルノミナラス亞硫酸ノ脱取率亦前者ハ
百分ノ十九、七後者ハ百分ノ十一、一ニ居リ煙塵ノ脱取率ハ百分ノ五十九、七
ニ達セリ其一分間塔内ヲ通過スル煙量ハ三百二十六立方尺ニシテ使用硫酸ノ每
分、四、一二三冠ナリ是ノ如ク其效率ノ十分ナルニ拘ハラス塔ノ入口出口トナリ於テ
煙ノ靜壓力ヲ測定スルニ前者ハ平均十三耗後者ハ平均十九耗ノ水壓ヲ示シ即塔内
ノ抵抗高ク動力ヲ要スルコト多キノ證ナリトス又煙ノ通過時間久シキニ互レハ塔内
ノ間隙ハ漸次煙塵ノ爲メニ填塞セラレ大ニ其流通ヲ阻害ス從テ數塔内ノ掃除ヲナス
ノ煩勞アリ故ニ此裝置ノ操業ヲ圓滑ニセント欲セハ豫メ煙中ノ煙塵ヲ充分ニ除去ス
ルヲ要シ其際同時ニ煙中ノ硫酸分亦自ラ脱離シ得ヘキ故ニ畢竟此裝置ノ必要ヲ
感セサルニ至レリ加之本試驗ヲ舉行スルニ至リタルハモト小坂嶺山ノ煙中ニ含メル硫
酸ノ量ハ之ヲ多量ナリト謂フヲ得ザリシモ四坂島ノ煙中ニハ多量ヲ含有セリト認メタ
ルニ由ルモノナリ然ルニ其後精確ナル測定ヲ行フニ及テ四坂島ノ煙モ亦其量豫想外
ニ少ク即チ焙鐵爐ノ煙ハ一立方尺中僅ニ硫酸〇、四瓦燒鐵爐ノ煙ハ一、五瓦ヲ含
有スルニ過キサルヲ發見セリ從テ此裝置ノ必要ハ益々輕減セラレタルヲ以テ終ニ本試
驗ヲ中止スルニ至レリ

四、煙塵ノ處理法

鐵煙中ノ煙塵ヲ除去スルカ爲メニ施行シタル實驗ヲ說明スルニハ煙塵ヲ粗塵微塵ノ二
種ニ分ツテ便トス其粗塵(英語ダ)ナルモノハ煙中ニ浮遊セル稍粗大ノ塵埃ニシテ大抵
ハ爐ノ裝入物ト同一ノ物質ヨリ成リ往々多少變化ヲ受ケタルモノヲ交フ微塵(英語フ)
ハ手指ニ觸ル、モ殆ント之ヲ感セサルカ如キ極微ノ物體ニシテ爐内ニ於ケル化學的變
化ノ產物タル游離硫黃金屬化合物主トス鐵毒調查會ニ於テハ始メ粗塵ヲ除去ス
ルノ目的ヲ以テ四坂島ニ於テ一ノ試驗裝置ヲ設ケ四十二年末マデ之ヲ使用シタリ
此裝置ハ幅三尺八寸餘長サ四尺二寸高サ四尺ニシテ下部ニ深サ一尺七寸餘ノ漏
斗口ヲ有スル鐵板製ノ箱二十箇ヲ連ネタルモノニシテ十八寸鐵管ヲ以テ之ヲ錯雜
道ニ接續シ扇風器ニ由リテ毎分千二百立方尺以下ノ煙ヲ通シ向此箱内ニハフロ
イデン(垂直板)又ハ「ロエシ」等ノ裝置ヲ施シ煙塵ヲ沈定ヲ助ケタリ
此裝置ヲ用ヒテ施行シタル試驗ノ成績ヲ見ルニ鐵煙一立方尺中僅ニ硫酸〇、四瓦燒鐵爐ノ煙ハ一、五瓦ヲ含

〇、三九乃至〇、方八瓦ニシテ第一室ヨリ以後急ニ各室ノ沈積量ヲ減セルモ第十
室ヨリ以後ハ前室ト後室トノ間ニ大差アルヲ見ス從テ此裝置ノ粗塵ヲ收集スル作用
ハ專ラ第十室ニ至ルマデノ間ニ行ハル、モノタルコトヲ知ルヘシ元來粗塵ハ煙道内ニ
於ケル煙ノ速度ヲ減シテ其大部分ヲ沈定シ得ルモノナルコトハ各國專門家ノ定説ニ
シテ其速度トシテハ少キハ毎分五十尺ヲ可トシ多キハ四百尺マデヲ限度トセルモ
アル等各其說ヲ異ニスルモ小坂嶺山ニ於テハ第一大火煙突附屬大煙道ハ千八百六十
尺ノ速度ヲ有スルノ事實ニ由テ推考スレバ第二大火煙突附屬大煙道ハ千八百六十
尺ノ速度ヲ有スルノカ頗ル足ラサルモノハ疑ナシ從テ煙道内ノ煙ノ速度ヲ減セル
カ爲メニ適宜ノ設備ヲナサシムルカ爲メニ適宜ノ設備ヲナサシムルハ即煙害ヲ豫防ス
ルノ一方法ナリト認ム

前述ノ試驗裝置ニ附屬セル扇風器ハ毎分僅ニ千二百立方尺ノ煙ヲ送入シ得ルニ
過キサルノミナラス煙量ヲ増減シテ以テ其速度ヲ變化シ得ヘキ設備ヲ缺キタリ故ニ今
回毎分一万立方尺以上ノ煙ヲ送入シ得ヘキ扇風器ヲ備ヘ之ニ由テ更ニ精確ナル實
驗ヲナスコト、セリ而テ此改良工事ハ今ヤ既ニ落成シタルヲ以テ遠カラズ試驗ニ著手
スルコトヲ得ヘシ

四坂島ニ於テハ前述ノ如ク粗塵ヲ除去スルノ試驗ヲ行ヒタルノミナラス尙微塵ヲ除
去スルノ方法ニ付テモ二種ノ試驗ヲナセリ即布濾法及砂濾法ニシテ其方法ハ大略
次ニ述フルカ如シ

布濾法ハ酸化亞鉛石灰等ヲ以テ豫メ鐵煙中ノ硫酸ヲ中和セシメ以テ煙ノ布質ヲ腐
蝕スルノ害ヲ除キテ之ヲ布囊ニ入ラシメ煙ヲ濾過シ其微塵ヲ脫離セシムルノ法ナリ今
回此試驗ニ用ヒタル裝置ハ幅八尺長九尺五寸高十六尺ノ煉瓦室ヨリ成リ鐵板ヲ
以テ室内ヲ上下二室ニ分ツ其上部ハ高十三尺下部ハ二尺トシ上部ニ布囊二十箇
ヲ懸垂ス而テ豫メ硫酸ヲ除去シタル鐵煙ニシテ温度最高攝氏百十八度最低二十
五度ノモノヲ毎分五百十六乃至九百二十五立方尺(平均七百立方尺)ツ、送入
シ「ベネチ」氏ノ振動裝置ヲ付シテ五時四十分乃至七時間一度ノ割合ヲ以テ
囊ヲ振動セシメタリ然ルニ鐵煙ノ色ハ囊ノ振動ヲ終リテ煙ヲ通シタル初メニ於テハ稍
灰白色ヲ帶ビ次テ囊室入氣管及排氣管ノ壓力ノ差水壓大約十一、二耗ニ至レハ稍
薄キ白色トナリ約二十五耗ニ達スレハ全然無色トナル其茲ニ至ル迄ニ要スル時間約
一時間半乃至一時間ニシテ入氣管ト排氣管トノ壓力ノ差即煙ヲシテ囊室ヲ通過セ
シムルニ要スル壓力ハ最高七十三耗ニ達ス但此試驗裝置ハ一立方尺ノ煙ニ對シ
囊ノ濾過面積〇、五乃至〇、九平均〇、六六平方呎ヲ具フルニ過キサルヲ以テ

米國ニ行ハル、實例ニ比シ濾過面積甚シク少キニ拘ハラス尙如上ノ成績ヲ擧ゲ得タ
ルハ注意スヘキ事實ナリトス此試驗ニ試用シタル囊ハ始メ大阪毛斯倫會社及播州
加古川町日本毛織會社ヲシテ特製セシメタル未晒「モスリン」及未晒「フランネル」ナ
リシカ其後米國ニ於テ實際ニ使用セラル、毛布ノ標品ヲ得ルニ及ビ布質ニ改良スヘ
キ點アルコトヲ覺リタリ今後此等ノ改良ヲ加ヘテ實驗ヲ經ルキハ其結果更ニ見ルベ
キモノアルヲ疑ハス

此試驗ノ際煙ヲ囊室ニ導クニ先チ其硫酸ヲ除去スルカ爲メニハ硫化亞鉛若クハ生石
灰ヲ用ヒタリ酸化亞鉛ハ鐵製暖爐ヲ假用シ其内ニ閃亞鉛礦ト乾炭トヲ二ト一トノ
割合ニ混合裝入シ之ヲ燃焼シテ發生セシメ又生石灰ハ細トナシテ用ヒ執レモ鐵煙
吸出用扇風器ノ前ナル鐵管煙道ニ吸入サル、如クシテ是ノ如クニ試驗ヲナセシ結果
ヲ見ルニ一立方尺ニ付、〇、四瓦ノ硫酸ヲ含メル煙ハ酸化亞鉛若クハ生石灰ヲ吸入
シタル後何レモ全ク硫酸ノ存在ヲ認メサルニ至レリ但此現在四坂島ノ焙鐵爐ヨリ發
生スル煙量ヲ假リニ毎分十萬立方尺トシテ其中ノ硫酸ヲ中和スルニ要スル閃亞鉛
礦ノ量ヲ推算スルニ一日約七噸宛ニシテ生石灰ヲ以テスレハ一日約二噸六分ヲ

要スヘシ生石灰ヲ用フル場合ハ姑ク措キ閃亞鉛礦ヲ用フルモノトスレハ縱令煙塵中ヨリ硫酸亞鉛ヲ回收スルノ途アリトスルモ經費ノ稍多額ニ上ルヘキハ明白ナリ從テ中和劑ニ關スル問題ハ今後布濾法ノ實行上充分ノ研究ヲ要スルモノナリ

前述ノ布濾法ハ鑛山ノ狀況如何ニ由リテハ之ヲ適用シ得ヘキモ未タ廣ク普通ノ製鍊所ニ應用スル能ハサルノ缺點アリ故ニ別ニ砂濾法ナル一種ノ方法ヲ工風ヲ去十一月下旬漸ク假裝置ヲ竣成シ爾來數回ノ試驗ヲ行ヒタリ此裝置ハ總高サ五尺二寸餘縱橫共二三尺ノ煉瓦製塔トシ塔内ニハ金網アリ上ニ細砂ヲ載セ其下ニ鎔鑛爐煙道ニ沈積シタル中粒ノ粗塵ヲ數ケリ而シテ此塔内ニ煙ヲ吸入スルトキハ最大六十二粒ノ壓力ヲ費ヤシテ以テ煙ヲ濾過シ其粗塵及微塵ヲ略々完全ニ除去スルコトヲ得然レトモ此裝置ニ在テハ煙ノ濾過時間甚タ短ク其效率低キヲ免カレサルヲ以テ更ニ其構造ヲ改良スルニ決シ今ヤ既ニ其工ヲ竣ヘタリ故ニ詳細ノ報告ハ之ヲ今後試驗ノ結果ニ讓ル

衆議院議員早速整爾君提出朝鮮ノ關稅ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十四年三月二十日

内閣總理大臣侯爵桂太郎

衆議院議長長谷場純孝殿

(別紙)

衆議院議員早速整爾君提出朝鮮ノ關稅ニ關スル再質問ニ對スル答辯書

一、質問第一項ニ關シ諸外國人ノ朝鮮ニ於テ有スルコロノ經濟的利益ニ不利ノ影響ヲ及ボスヲ避クルノ目的ヲ以テ朝鮮從來ノ關稅率ヲ維持スルコトニ決定シタルハ帝國政府ニ於テ之ヲ得策ト認メタルニ依ル

二、質問第二項ニ關シ若シ關稅率ヲ變更スルコトハ是カタメ諸外國人ノ被ルヘキ經濟的不利益ノ程度ハ朝鮮ト諸外國間貿易額ニ依リ推知スルコトヲ得ヘシ

三、質問第三項及第四項ニ關シテハ帝國政府ハ内地朝鮮間貿易關係ハ暫ク從來ノ通りトナスヲ得策ト認メタルニ依ル

四、質問第五項ニ關シ帝國政府ハ曩キ三列國ニ對シ爲シタル宣言ノ精神ヲ維持スヘシ右及答辯候也

明治四十四年三月二十日

外務大臣伯爵小村壽太郎

衆議院議員高木正年君提出荒川中川多摩川河身改修豫備ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十四年三月二十日

内閣總理大臣侯爵桂太郎

衆議院議長長谷場純孝殿

(別紙)

衆議院議員高木正年君提出荒川中川多摩川河身改修豫備ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、荒川筋ノ堤外地ニ於ケル各種ノ施設物ニシテ治水上障害アリト認ムルモノハ法令ノ規定ニ依リ相當措置セントスル見込ナリ

一、中川ノ流末ハ荒川改修工事ニ伴ヒ其一部トシテ河身變更工事ヲ施行シ流水ノ疏通ヲ良好ナラシメントスル計畫ナリ

一、多摩川ノ改修ハ政府ニ於テモ其必要ヲ認ムルコトヲナリ雖モ國ニ於テ第一期ニ改修スヘキ河川ハ衆議院議員大橋賴清君ノ提出ニ係ル治水政策ニ關スル質問ニ對シ答辯シタル如ク諸般ノ關係ニ鑑ミ之ヲ選定シタルモノナルヲ以テ今日ニ於テハ

本川ヲ第一期ニ線上サル見込ナリ

一、多摩川上流ニ於ケル埋立其他諸般ノ施設ニ關シテハ政府ハ毎ニ慎重ナル注意ヲ加ヘ治水上支障ヲ來スヘキモノハ之ヲ許可セサル方針ヲ採リ居レリ

明治四十四年三月二十日

内務大臣法學博士男爵平田東助

衆議院議員田川大吉郎君外一名提出生活必需品價格騰貴ノ傾向ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十四年三月二十日

内閣總理大臣侯爵桂太郎

衆議院議長長谷場純孝殿

(別紙)

衆議院議員田川大吉郎君外一名提出生活必需品價格騰貴ノ傾向ニ關スル質問ニ對スル答辯書

政府ハ生活必需品ノ價格騰貴ノ趨勢ヲ節制スルカタメ生産及販賣ノ方法及亦組織ニ關スル改善ヲ圖ルニ努メ之ニ關スル各般ノ施設ヲナセリト雖モ尙ホ將來モ常ニ調査研究ヲ怠ラス必要ノ措置ヲ執ランコトヲ期ス而シテ一面ニ於テハ如上ノ目的ニ資スルカタメ資金ノ充實ト金利ノ低下ヲ圖リ其他兌換券ノ發行關稅ノ制定ニ關シテモ十分ノ注意ヲ加ヘ以テ物價騰貴ノ趨勢ヲシテ一般社會ノ發達ト調和セシムルコトヲ期シ居レリ

無配偶者ノ増加ハ物價騰貴ノミニ原因スルモノト認メス又犯罪者ノ増加ハ政府ニ於テ之ヲ認メス

右及答辯候也

明治四十四年三月二十日

大藏大臣侯爵桂太郎

農商務大臣男爵大浦兼武

淺野「セメント」合資會社粉害事件ニ關スル質問主意書

「粉末」ヲ飛散セシメ深川區ハ勿論日本橋區京橋區本所區ノ居住民中ニ直接損害ヲ蒙ル者少カラズ故ニ該工場ノ存立ハ東京市ノ公益ヲ害スルヲ以テ速ニ之カ作業ヲ禁止スヘキ必要アルモノト認ム政府ノ所見如何

二、右飛散ノ粉末ハ工場附近數十町内ノ家庭庭園ニ降下シ其ノ住民ハ之カ爲常ニ不快ナル臭氣ト瀾濁セル空氣トヲ呼吸スルヲ以テ病氣ノ素因ヲ作ルコト多シ現ニ東京各區ニ亘リテ比較上深川區ノ如キハ特ニ呼吸器病ニ罹ル者最多ク結核血膜炎流産死因不明ノ者等亦少カラズ其傳染病ニ浸サレタルトキハ容易ニ快癒セサル等ノ事實ハ統計的報告(高橋秀臣氏調査)ニ於テ爭フヘカラサルモノアリ又工業衛生學者ノ說ニ依ルモ「セメント」工場ヨリ噴出スル白雲石灰ヲ吸入スル者ハ呼吸器粘膜炎及肺臟内部ニ其ノ粉末ノ蓄積ヲ見ル殊ニ其結核肺組織ノ水脈管ニ於テ然リトスニ依リテ發スル症狀ハ通例慢性氣管炎加答兒ニシテ次テ肺氣腫ト爲ル且其ノ粉末吸入カ原因ト爲リテ遂ニ肺結核ヲ惹起スニ至ル況ヤ今回ノ粉末

明治四十四年三月二十日

贊成者 河野 廣中

外三十一人

提出者 高木益太郎

中ニハ生石灰ヲ含有スルヲ以テ其ノ害毒ノ程度幾許ナルヲ知ラス其ノ他成分ノ混
シタル米穀ヲ常食セハ則チ消化器ノ疾患ヲ惹起スヘク又眼珠粘膜ニ入レハ結膜
炎其ノ他ノ病症ノ原因ト爲ルハ疑ナシト斷定セリ此ノ點ニ付政府ノ爲シタル衛生
上調査ノ結果如何

三、右工場附近ヲ踏査スルニ家庭庭園ニ於ケル粉末ノ堆積甚シキモノハ一寸以上ニ
及ビ全面灰白色ヲ呈シ又其ノ粉末ハ屋上ニ固著シ雨水ノ流通ヲ停滯セシメ爲ニ
屋根瓦ヲシテ新築幾年ナラサルニ已ニ其ノ質ヲ變シ全ク瓦トシテノ效力ヲ失ハシメ
雨ヲ吸收シテ自然其ノ漏洩ニ依リテ建築材料ノ腐朽ヲ速カナラシメツアリ政府
ハ此ノ點ニ付充分ノ調査ヲ爲シタルコトアリヤ若シ之レアリトセハ其ノ調査ノ報告ハ
如何

四、抑深川區ハ我カ國ニ於ケル米穀、雜穀ハ勿論諸物貨ノ大集散市場ニシテ其ノ水
運ノ便アルト共ニ倉庫最多シ然ルニ各倉庫ハ塵煙等ニ對スル設備アルモ唯「セメ
ント」粉末ハ微細ナルヲ以テ常ニ空氣ト共ニ窓口其ノ他ノ間隙ヨリ侵入シテ貨物
ニ附著シ悉ク灰白色ヲ呈スルニ至ル彼ノ三井倉庫内ノ米俵ノ如キハ夫カ其ノ俵
ヲ動かス毎ニ粉末ヲ四散シテ爲ニ人ノ呼吸ヲ咽シム果シテ然ラハ之カ需用者
一般公衆ノ如キモ亦不知不識ノ間ニ其ノ健康ニ障害ヲ及ボスコト甚大ナリト認
ム此ノ點ニ付政府ノ所見如何

五、尙粉末ノ爲ニ住宅ニ及ボス損害ノ一端ヲ舉グレハ庭園ノ樹木ハ蒼色ヲ失ヒ殆ト
雪ノ降りタルカ如キノ觀ヲ呈シ又室内ニ於テ締切タル簾簾又ハ行李中ニモ「セメ
ント」粉末混入シテ衣類ノ變色若ハ褪色セルヲ見ルコトアリ其他牛乳飲料水等ノ
飲食物ノ粉末混入ノ害毒ニ思ヒ至レハ寒心スヘキモノアリ此點ニ付政府調査ノ
結果如何

六、政府ハ右工場附近ノ漸次繁昌ヲ加ヘ人口密集スルヲ以テ曩ニ公衆衛生ノ思想
乏シキ時代ニ許可シタル「セメント」工場(深川區以外ニ東京市中「セメント」工場
ナシ)ニ對シテハ豫メ嚴重ノ取締ヲ施スヘキ旨アルニ其措置爰ニ出テサルノミナラス
却テ該工場ニ非常ナル壓力アル汽罐ト十數本ノ煙突トノ増設ヲ許可シ加之其北
部ニ存スル獨逸式輪轉機石炭燒窯數臺ノ如キハ曾テ其本國タル柏林市中ニモ其
使用ヲ許可シタル先例ナキニ拘ラス漫然之カ使用ヲ許可シ僅カ四五分間ニ多
量ノ「セメント」ヲ製造スルカ如キ大々的設備ヲ爲サシメ以テ其ノ公衆衛生ノ危險
アルコトヲ闕却シタル理由如何

七、右工場附近ヲ實地踏査スルトキハ其ノ被害ノ程度ハ豫想以上激甚ナルコトヲ
確認ス平田內務大臣大浦農商務大臣龜井警視總監ハ親シク右加害會社ニ臨
マレ且其ノ附近ノ慘狀ヲ詳細調査セラレタルヤ否ヤ

八、農商務技師某ノ說ニ依レハ「セメント」工場ニ發生スル粉末ハ極メテ微細ナルヲ
以テ今回市民ノ反抗運動後淺野「セメント」合資會社カ計畫セシ吸塵裝置ニ依
リテ其ノ害ヲ除去スルカ如キハ到底不可能ニ屬シ又右裝置後ノ害毒ハ如何ナル
程度迄影響ヲ及スヘキヤ不明ナリト聽ク此點ニ付政府ノ調査ハ如何

九、尙其ノ煙突ノ高サヲ増ス出願ノ如キモ這ハ唯近距離(深川日本橋京橋本所)
ノ被害ヲ遠距離(麹町其他各區)ニ移スニ止マルニ非スヤ此ノ點ニ付政府ノ所見
如何

十、政府ハ歐米ニモ其ノ實驗ニ乏シキ除害工事出願ノ如キ「セメント」會社ノ姑息
的曠著策ニ對シテ斯ル工事ニ依リ果シテ市民ノ健康ヲ保持シ得ルト信スル乎如
何

十一、政府ハ貧民ノ微細ナル營業ニ向テハ嚴重ナル取締ヲ爲シ秋毫モ之ヲ假借セサ
官報號外 明治四十四年三月二十一日 衆議院議事速記錄第二十五號

リシニモ拘ラス(明治四十二年警察犯處罰令諸規則違反及監視廳即決被告十
一万八千四百五人)貴族富豪ノ經營スル前記工場ノ如キニ對シテハ殆ト三十有
餘年間ノ久シキ此等一目顯然タル加害的事業ヲ看過シ何分ノ處分ヲモ爲サザリ
シ理由如何

十二、政府ハ何故ニ右工場ノ如キ公益ニ害アル作業ニ對シテ速ニ其ノ營業禁止ヲ
命セサル乎

獨逸營業法ニ依レハ公益ノ爲メ損害アルトキハ一旦許可シタル營業ト雖之カ禁
止ヲ命スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ我カ國ニ於テハ此等明文ナシト雖行政法學者
ノ通說 法學博士織田萬氏著日本行政法論四六二頁ニ「一旦營業ノ認可ヲ與
ヘタル後公益上ノ理由ニ依リ職權ヲ以テ其ノ認可ヲ取消スコトヲ得」(參照)ハ營
業禁止處分ヲ爲シ得ルコトヲ認メリ此點ニ付政府ノ所見如何

十三、本員ノ信スル處ニ依レハ公害ニ依リ公衆カ損害ヲ蒙リタルトキハ一私人ト雖
政府ノ禁止處分如何ニ拘ラス民事裁判所ニ訴ヲ提起シ且假處分命令ニ依リ右
妨害禁止ノ命令申請ヲ爲シ得ヘキヤ論ヲ俟タスト信ス之ヲ英國私犯法學者中ノ
泰斗「アデソン」氏ノ意見ニ徵スルモ他人ノ生活上ノ愉快ヲ減縮シ且實質的ノ損害
ヲ與フル妨害物ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ申立ニ依リ其妨害ノ繼續ヲ禁止スル
ノ命令狀ヲ發スル事ヲ得例ヘハ濃厚ナル煤煙ヲ吐出スル煙突ノ存在ニ依リ附近ノ
植物建物等ニ損害ヲ與フル場合ノ如シ前項ノ場合ニ於テ妨害ヲ除去スルコトカ
非常ニ困難ナリシト云フカ如キハ被害ニ於テ何等ノ答辯ヲテラサズ即チ必要ノ場合
ニハ差押ニ依リ命令狀ノ實行ヲ強ユル事ヲ得若被害者カ其初メ斯ル妨害ヲ發生
ヲ豫期セシテ煙突ノ建設ヲ承諾シタル場合ト雖此承諾ハ決シテ其妨害ヲ承諾
シタルノ理由ニナラス從テ被害者ハ猶禁止命令ヲ發布ヲ申請スルノ權利ヲ失ハス
公衆ノ有害ニ傾カムトスル性質ノ不法行為ニ對シテハ即チ公衆ニ對スル實際上ノ
損害カ起ラサル以前ト雖檢察總長ハ之ニ對シ訴訟ヲ提起シ裁判所ハ之ニ據リ禁
止命令ヲ發スル事ヲ得一般ニ公衆ニ對スル妨害ハ公訴ニヨリテ之ヲ禁止シ若同シ
妨害ニ依リ一個人カ他人ヨリカ多クノ損害ヲ受ケタルトキハ損害賠償ノ訴ニヨリ
之ヲ回復スルコトヲ得

若又公衆ニ對スル妨害ノ場合ニ於テ被害者カ加害者ノ妨害ヲ除去スルノ言質ヲ
信シテ其ノ後何等ノ手段ヲ講セザリシト雖命令狀ヲ申請スル權利ヲ失ハスト
是等私犯ニ對スル法理ハ日英ノ間著シキ相違アルノ理ナシ此ノ點ニ對スル政府ノ
所見如何

十四、右深川工場ハ同會社ノ事業擴張上頗ル狹隘ヲ感シ豫テ移轉ノ内議アリト
聽キシノミナラス同社員モ粉末加害ノ甚大ナル事實ハ既ニ之ヲ明白シタル

然ラハ同工場カ明治十六年來「セメント」ヲ製造スルコト殆ト二十年其ノ當初政
府ハ官營事業ノ失敗ニ若シ非常ナル廉價ヲ以テ年賦拂下ヲナシタルモノニシテ爾
來營業者ノ收入ハ其ノ額何千萬圓ニ及ビ且每期ノ利益配當モ充分ナリシト聽ク
且其社員ハ我カ國第一流ノ貴族富豪ナルヲ以テ政府ハ速ニ之ト交渉シ禁殺ノ下
ニ於ケル公衆衛生上ノ保護ト多年工場附近ノ住民ニ加ヘタル迷惑損害ノ激甚ナ
ル事實ト鑑ミ彼等ニ向テ速ニ人家稠密ナル帝都ヲ離レ邊陲ノ地ニ移轉スルノ得
策ナルコトヲ說諭ヲ爲ササルカ當テ其工場ヲ拂下ケタル價格ト較近其ノ敷地ノ代
價トノ差額ノミヲ計算スルモ當營業者ハ優ニ四五十倍ノ利益ヲ占メ得ルニ非スヤ故
ニ此ノ點ニ對シ政府ノ調停の行政手段如何

十五、若淺野「セメント」合資會社ニシテ頃トシテ政府ノ說諭ニ應セストモ平元來
右工場敷地ハ東京市區改正設計ノ指定地ニ該リ之カ取拂命令スヘキモノナルヲ

以テ政府ハ速ニ同地ノ市區改正ヲ斷行シ其ノ一部ヲ改正道路三他ノ一部ヲ小公園ト爲ス必要アリト認ム此點ニ付政府ノ所見如何
右及質問候也

○議長(長谷場純孝君) 今報告ヲ致シマシテ答辯書ハ浩瀚デゴザイマスカラシテ、朗讀ヲ省イテ速記録ニ載セムルコトニ取計ヒタイト思ヒマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○佐々木安五郎君 議事ノ進行ニ付テ一言致シタイノデゴザイマス、午前ノ會議ニハ私ハ委員會方ニ出席シテ居リマシタ、コナラニ居リマセス、所ガ承リマスルモ質問ハ演說ヲシナイコトニナッタト云フコトヲ承リマシタ、質問ナルモノハ立憲政體ニ最モ重要ナル事項デアッデ、私共ハ是ニ依テ以テ十分ナル意見ヲ吐カウト實ハ考ヘテ居リマシタ、譯デアリマス、ソレガ院議ニ依テ出來ナクナッタ、斯ウ云フ以上ハ院議ニ對シテ不服ハ申シマセヌ、議シテ答辯書ヲ讀ムヤウ、外務省ナラ外務省ノ役人ガ自ラ答辯書ヲ讀ムヤウニ、此事ヲ交渉シテ貰ヒタイ、サモナケレバ今マデノヤウニ唯書記官ヲシテ之ヲ讀マシメラレト、押返シテ問フコトガ出來ナイ、押返シテ問フコトガ出來ナイト云フノハ、是マデノヤウニ演說十分意見ヲ述ベタトキハ、唯書記官ヲシテ讀マシメラレトモ宜シイコトデゴザイマス、其演說ヲスルコトガ出來ナクナッタ以上ハ、セメテ書記官ニ代ラシムルニ其省其省ノ役人ヲ以テシテ、押返シテ其質問ノ趣意ヲ明カニシテ、再度問フコト云フコトコロノ自由デケラ與ヘテ貰ヒタイ、是ハ立憲政體ノメニ、議長ハ定メテ御不同意ノナイコト、存ジマスカラ、此意味ヲ御交渉ヲ願ヒタイ一言申シテ置キマス

○遠藤良吉君 議長

○議長(長谷場純孝君) 遠藤君ハ何ノ發言デゴザイマス、敬ナコトガアッタカト存ジマス、其事ヲ發起人タル議長閣下ニ御質問申上ゲタイ

○議長(長谷場純孝君) ソレハ議院決議ノ上ニ起ッタコトデハゴザイマス、議員ノ有志者ガ集テナシタコトデゴザイマス、ソレニ付テ何カ御質問シタイコトガアリマスナラバ、此議場外ニ於テ詳シク承リマセウ、其事ニ付テハ發言ヲ許シマセヌ

○遠藤良吉君 議長

○議長(長谷場純孝君) 其事ニ付テナラバ發言ヲ許可致シマセヌ、今ノ佐々木君ノ御發言ニ付テハ唯今御諮リ致シマシタ如ク、答辯書ハ各其題目ヲ報告致シテ、答辯ノ全文ハ速記録ニ掲ゲルト云フコトニ御諮リ致シタ御異議ガナカッタデゴザイマス

○佐々木安五郎君 演說ヲサセナイト云フコトハ、質問者ヲシテ演說ヲ略サセルト云フコトハ、本人ノ任意ナラ宜シケレドモ之ヲ略スルコトガ變例デアアル、變例デアアル以上ハ是ハ特別ニ報ニ特例ヲ以テスルコトハ決シテ惡イコトデナイ、ソレハ十分意思ノ貫徹スルコトヲ、議長ニ於テ言論ノ自由ヲ重シラレルナラバ、其點ハ十分一ツ御交渉ヲ願イタイ、希望ヲ申述ヘマス

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○議長(長谷場純孝君) 分ッテ居リマスカラ今マデノ成行ヲ御知ラセシテ、今御述ベ

○高柳覺太郎君 私ハ此ノ場合日程追加ノ動議ヲ出シマス
○議長(長谷場純孝君) ソレハ日程ノ濟シタコトデ御出シニナルガ宜シイ、マデ日程ガ澤山アリマス、追加ナラバ後トデナサイ、日程第十ヨリ第五十二マデハ(高柳覺太郎君)ソレハ保留シテ置キマス、ト呼フ、請願委員長ノ報告デゴザイマス、前會ノ例ニ依リ一括シテ議題トナシ、委員長ヨリ御報告ヲ致スコトニシタイト思ヒマス
(異議ナシト呼フ者アリ)

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 請願委員長長福井三郎君

第十 (特別報告第百五十四號)郡域變更ノ請願 (委員長報告)

第十一 (特別報告第百五十五號)縣社御昇格ノ請願 (委員長報告)

第十二 (特別報告第百五十七號)登記所位置變更ニ關スル請願 (委員長報告)

第十三 (特別報告第百五十九號)故北白川宮殿下宮社創建ノ請願 (委員長報告)

第十四 (特別報告第百六十號)日清銀行設立ノ請願 (委員長報告)

第十五 (特別報告第百六十一號)汽船「トロール」漁業取締ノ請願 (委員長報告)

第十六 (特別報告第百六十二號)漁業基本調査機關特設ノ請願 (委員長報告)

第十七 (特別報告第百六十三號)水產獎勵法制定ノ請願 (委員長報告)

第十八 (特別報告第百六十四號)水產會法制定ノ請願 (委員長報告)

第十九 (特別報告第百六十五號)兒島灣養貝業解放ノ請願 (委員長報告)

第二十 (特別報告第百六十六號)薪炭原料用官林拂下價格低減ノ請願 (委員長報告)

第二十一 (特別報告第百六十七號)薪炭原料ノ殖林方ノ請願 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第百六十八號)郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第百六十九號)郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十四 (特別報告第百七十號)白石上山間鐵道速成ノ請願 (委員長報告)

第二十五 (特別報告第百七十二號)山陰山陽連絡線ノ請願 (委員長報告)

第二十六 (特別報告第百七十三號)出雲國田儀郵便局集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十七 (特別報告第百七十四號)漁港修築ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第百七十五號)舊琉球藩吏役俸處分法制定ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第百七十六號) 地租過剩金
下戻ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第百七十七號) 賣藥稅法改
正ノ請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第百七十八號) 贈從四位森
山新藏父子追録ノ請願 (委員長報告)

第三十二 (特別報告第百七十九號) 登記所増設
速成ノ請願 (委員長報告)

第三十三 (特別報告第百八十號) 登記取扱ノ請
願 (委員長報告)

第三十四 (特別報告第百八十一號) 七尾灣築港
ニ關スル請願 (委員長報告)

第三十五 (特別報告第百八十二號) 拙著平家音
樂史全國中學以上ノ學校及圖書館ニ
御配賦御供具ニ關スル請願 (委員長報告)

第三十六 (特別報告第百八十三號) 北海道帝國
大學設立ノ請願 (委員長報告)

第三十七 (特別報告第百八十四號) 三濱避難漁
港築堤ノ請願 (委員長報告)

第三十八 (特別報告第百八十五號) 島根縣四見
郵便局電信開始ノ請願 (委員長報告)

第三十九 (特別報告第百八十六號) 郵便局集配
事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十 (特別報告第百八十七號) 鐵道停車場
設置ノ請願 (委員長報告)

第四十一 (特別報告第百八十九號) 郵便局集配
事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十二 (特別報告第百九十號) 九州中央鐵道
敷設ノ請願 (委員長報告)

第四十三 (特別報告第百九十一號) 鐵道敷設ノ
請願 (委員長報告)

第四十四 (特別報告第百九十二號) 郵便局設置
ノ請願 (委員長報告)

第四十五 (特別報告第百九十三號) 按摩業ヲ官
人ノ專業ト爲スノ請願外十八件 (委員長報告)

第四十六 (特別報告第百九十四號) 民屬金下附
ノ請願 (委員長報告)

第四十七 (特別報告第百九十五號) 七尾築港ノ
請願 (委員長報告)

第四十八 (特別報告第百九十六號) 永代借地若
クハ其地上ニアル建造物ヲ本邦人ノ所
有ト爲シタル場合ニハ右物件ニ對スル免
稅ノ請願 (委員長報告)

第四十九 (特別報告第百九十七號) 府縣界變更
ノ請願 (委員長報告)

第五十 (特別報告第百九十八號) 地方裁判所
支部開廳ノ請願外十八件 (委員長報告)

第五十一 (特別報告第百九十九號) 郵便局設置
ノ請願 (委員長報告)

第五十二 (特別報告第百二十號) 電信架設ノ請願
(委員長報告)

第五十三 (特別報告第百二十一號) 朝鮮訴訟代理
業者ニ關スル請願 (委員長報告)

(福井三郎君登壇)
(「分ルヤウニ丁寧ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ)

○福井三郎君 是カラ請願委員會ノ結果ヲ御報告致シマスガ、澤山ナモノヲ一括シ
テ報告スルノデゴザイマスカラシテ、若シ御異議アルモノヤ、御意見アルモノガゴザイマス
ルト、後トデ伺ッテ居ルトドノ分デアッタヤラ錯雜スルデアラウト思ヒマスカラ、若シ御意見
ノアルモノハ其件ヲ報告ノ際ニ承ハルコトニ致シタイト思ヒマス、特別報告ノ第百五十
四號、是ハ郡縣變更ノ請願デ、埼玉縣北足立郡新郷村平民押田專藏外千三百二
十四名ノ呈出デ、岡崎邦輔君外三名ノ紹介ニ係カル件デアリマス、此趣意ハ埼玉縣
北足立郡草加、鳩ヶ谷ノ二町及谷塚、新郷、南平柳ノ三村ヲ南足立郡ニ組變ヘタ
イト云フ趣意アルノデゴザイマス、請願委員會ハ相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ト決
定致シマス、次ハ特別報告第百五十五號、縣社御昇格ノ請願、岡山縣英田郡河
會村平民中川太郎外四十六名ノ呈出ニシテ、福井三郎君ノ紹介ニ係ル件デアリマス、
是ハ前年モ請願委員會ニ現ハレテ採擇トナッテ居ル件デア、實行ヲ見ルノガ遅キタメニ又
出タ請願ニ過ギナイノデゴザイマス、ヤハリ相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ト決定致シ
マス、次ハ第百五十七號、登記所位置變更ニ關スル請願、熊本縣天草郡志岐村
平民森田正俊外五名ノ呈出ニシテ、高田露君外一名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、是
ハ天草區裁判所富岡出張所ヲ其所轄ノ中央ナル志岐村ニ移スベシト云フ趣意アル
ノデアリマス、是モ相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ト決定致シマス、(「大キナ聲デ明カ
ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ) 聽エマセスカ、次ハ第百五十九號、故北白川宮殿下官
社創建ノ請願、茨城縣多賀郡平潟町平民島越雄外十七名ノ呈出ニシテ、小久保
喜七君ノ紹介ニ係ル件デアリマス、相當ナル請願ト認メテ採擇ト決定致シマス、次ハ
第百六十號、日清銀行設立ノ請願、天津日本人商業會議所會頭中山晋ノ呈出ニ
シテ、松本君平君ノ紹介ニ係ル件デアリマス、相當ノ理由アルモノト認メテ委員會ハ
採擇ト決定致シマス、次ハ第百六十一號汽船「トロール」漁業取締ノ請願、愛媛
縣越智郡宮窪村平民村上紋四郎外三名ノ呈出ニシテ、武滿義雄君外三名ノ紹介
ニ係ル件デアリマス、相當ノ理由アルモノト認メテ委員會ハ採擇ト決定致シマス、次ハ
第百六十二號、漁業基本調査機關特設ノ請願、愛媛縣越智郡宮窪村平民村上
紋四郎外三名ノ呈出ニシテ、武滿義雄君外二名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、相當
ノ理由アルモノト認メテ採擇ト決定致シマス、次ハ第百六十三號、水產獎勵法制定
ノ請願、愛媛縣越智郡宮窪村平民村上紋四郎外三名ノ呈出ニシテ、武滿義雄君
外二名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ト決定致シマス、
次ハ第百六十四號、水產會法制定ノ請願、愛媛縣越智郡宮窪村平民村上紋四郎
外三名ノ呈出ニシテ、武滿義雄君外二名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、相當ノ理由アル
ト認メテ採擇ト決定致シマス、次ハ第百六十五號、兒島灣養貝業解放ノ請願、岡
山縣上道郡玉井村平民日下部虎治外十九名ノ呈出ニシテ、松田源治君外一名ノ

紹介ニ係ルモノアリマス、相當ナル請願ト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百六十
六號、薪炭原料用官林拂下價格低減ノ請願、東京市麻布區飯倉町五丁目五十
五番地平民山口健治郎外七十六名ノ呈出ニシテ、高橋光威君外一名ノ紹介ニ係ル
件アリマス、相當ノ請願ト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百六十七號、薪炭原料
ノ殖林方ノ請願、東京市麻布區飯倉町五丁目五十番地平民山口健治郎外七十
六名ノ呈出ニシテ、高橋光威君外一名ノ紹介ニ係ル件アリマス、相當ノ理由アルモ
ノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百六十八號、郵便局設置ノ請願、福島縣岩瀨
郡鏡石村大字成田字宿屋敷四番地平民圓谷治外六名ノ呈出ニシテ、河野廣中
君ノ紹介ニ係ル件アリマス、相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第
六百六十九號、郵便局設置ノ請願、岡山縣英田郡河會村大字瀧宮百三番地平民中
川佐太郎外二十九名ノ呈出ニシテ、福井三郎君ノ紹介ニ係ル件、是ハ岡山縣英田
郡河會村ニ郵便局ヲ設置セラレタシト云フ、相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ニ決
シマシタ、次ハ第六百七十號、白石上山間鐵道速成ノ請願、山形縣南村山郡上山町
鶴野町四百七十七番地平民高内源之助外四十六名ノ呈出ニシテ、齋藤二郎君ノ
紹介ニ係ル件アリマス、是ハ宮城縣刈田郡白石町同郡七ヶ宿村ヲ經テ山形縣南村
山郡上山町ニ達スル鐵道ヲ敷設シテ貫ヒタシト云フ趣意アリマス、相當ノ請願ト認
メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百七十二號、山陰山陽聯絡線ノ請願、是ハ鳥取縣西伯
郡米子町大字尾高町平民製網業阪口平兵衛外二名ノ呈出ニシテ、恆松隆慶君ノ
紹介ニ係ル件アリマス、是ハ至極尤ナル請願ト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第
百七十三號、出雲國田儀郵便局集配事務開始ノ請願、島根縣簸川郡田儀村大字口
田儀平民島屋尾美登外十六名ノ提出ニシテ、恆松隆慶君ノ紹介ニ係ル件、是ハ至
極相當ノ請願ト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百七十四號、漁港修築ノ請願、愛媛
縣越智郡宮窪村大字宮窪平民村上紋四郎外三名ノ提出ニシテ、武滿義雄君外二
名ノ紹介ニ係ル件、是モ相當ノ理由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第
百七十五號、舊琉球藩吏役俸處分法制定ノ請願、沖縄縣那覇區字泉崎士族屋
宜宣輔外三十四名ノ呈出ニシテ、戸狩權之助君外一名ノ紹介ニ係ル件、是モ相當
ノ理由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百七十六號、地租過剩金下戻ノ請
願、鹿兒島縣始良郡重富村平松士族重富村會議員正八位勳六等川俣直之外二
名ノ呈出ニシテ、武滿義雄君外一名ノ紹介ニ係ル件、本請願モ相當ノ理由アルモ
ノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百七十七號、賣藥稅法改正ノ請願、富山縣賣藥同
業組合組長阿部初太郎君ノ呈出ニシテ、上笠安太郎君ノ紹介ニ係ル件、相當ノ理
由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百七十八號、贈從四位森山新藏父子
追録ノ請願、東京市牛込區市ヶ谷藥主寺前町華族從二位伯爵大原重朝ノ呈出ニ
シテ、楠木慶二君外一名ノ紹介ニ係ル件、是モ至極尤ナル請願ト認メテ委員會ハ採
擇ニ決シマシタ、次ハ第六百七十九號、登記所増設速成ノ請願、長崎縣北松浦郡世
知原村長代理助役前田鼎藏ノ呈出ニシテ、辻川與一右衛門君ノ紹介ニ係ル件、是
モ相當ナル請願ト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十號、登記取扱ノ請願、岡山
縣笠岡郡芳野村大字吉原平民河田繁穗ノ呈出ニシテ、西村丹治郎君ノ紹介ニ係ル
件、是モ相當ナル理由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十一號、七尾
灣築港ニ關スル請願、石川縣鹿島郡七尾町字生駒町平民中島專一外二十九名ノ
呈出ニシテ、戸水寛八君外五名ノ紹介ニ係ル件、是モ相當ナル理由アルモノト認
メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十二號、拙著「家音樂史全國中學以上ノ
學校及圖書館ニ御配布御供具ニ關スル請願、東京市神田區西小川町二丁目

五番地士族館山漸之進ノ呈出ニシテ、武藤金吉君外一名ノ紹介ニ係ル件、至極
相當ナル理由アルモノト認メテ委員會ハ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十三號、
北海道帝國大學設立ノ請願、北海道札幌區大通西二丁目一番地士族公吏青木
定謙外八十九名ノ呈出ニシテ、淺羽靖君外一名ノ紹介ニ係ル件、是モ至極相當
ノ理由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十四號、三濱避難漁港築堤ノ請
願、靜岡縣賀茂郡三浦村長清水安太郎ノ呈出ニシテ、大野久次君ノ紹介ニ係ル件、
是モ理由アル請願ト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十五號、島根縣四見郵便
局電信開始ノ請願、島根縣美濃郡四見上村平民齊藤富作外百二十八名ノ呈出ニ
シテ、恆松隆慶君ノ紹介ニ係ル件、是モ相當ナル理由アルモノト認メテ採擇ニ決シマシ
タ、次ハ第六百八十六號、郵便局集配事務開始ノ請願、岐阜縣吉城郡國府村長岡
村利右衛門ノ呈出ニシテ、古井由之君ノ紹介ニ係ル件、是モ相當ナル理由アルモ
ノト認メテ採擇ニ決シマシタ、次ハ第六百八十七號、鐵道停車場設置ノ請願、靜岡縣濱名
郡新居町平民太田才一郎外二百四十五名ノ呈出ニシテ、伊東要藏君ノ紹介ニ係ル
件、是ハ東海道濱松縣豐橋間屈指ノ市街テ古新居番所ト云フ有名ナル土地アル
ニ今尙此處ニ停車場ガナイカラ此處ニ停車場ヲ設ケテ貫ヒタシト云フアリマス、殊
ニ同情ヲ表シテ尤モ認メテ委員會ハ滿場一致ヲ以テ採擇ニ決シマシタ、次ハ第
百八十九號、九州中央鐵道敷設ノ請願、大分縣日田郡日田町長廣瀬貞文外百二十
五名ノ呈出ニシテ、三浦覺一君外一名ノ紹介ニ係ル件、是ハ大分縣大分町ヨリ庄
川西及玖珠日田ノ諸町村ヲ經テ吉井田主丸ヨリ福岡縣久留米市ニ達スル鐵道ヲ敷
設シテ欲シト云フアリマス、至極尤ナル請願ト認メテ委員會ハ採擇ニ決定致シマ
シタ、次ハ第六百九十一號、鐵道敷設ノ請願、青森縣北津輕郡五所川原町長岡本
建夫ノ呈出ニシテ、阿部政太郎君ノ紹介、其次モ同様ナ件テ、青森縣西津輕郡鰺
澤町長吉村文藏ノ呈出テ、同ク阿部政太郎君外一名ノ紹介アリマス、是ハ同縣下
浪岡町ヨリ五所川原町木造町ヲ經テ鰺澤港ニ達スル鐵道ヲ敷設シテ欲シト趣
意アリマス、至極尤ナル請願ト認メテ委員會ハ採擇ニ決定致シマシタ、次ハ第
六百九十二號、郵便局設置ノ請願、三重縣度會郡中川村大字麻加江森見孫市外十七名ノ呈出テ、
濱田國松君ノ紹介ニ係ル件、是ハ現今其地ヲ管轄スル郵便局ノ管轄中七保、中川
兩村ノ中央ナル麻加江江ト云フ所ニ郵便局ヲ設置シテ欲シト云フノ趣意アリマス、
是モ委員會ハ至極尤ナル請願ト認メテ採擇ニ決定致シマシタ、次ハ第六百九十三號、按摩業ヲ
人ノ專業ト爲スノ請願、長野縣諏訪郡上諏訪町平民按摩業八木信祭外五十名ノ
呈出ニシテ、福井準三君外四名ノ紹介ニ係ル件、之ヲ主題ト致シマシタ、凡ソ十九件
其請願人ノ數ハ凡ソ六百有餘名アリマス、一括シテ審議致シマシタ、之ニ付テハ聊カ報
告ヲ丁寧ニ受ケタシト云フ申出ガアリマス、少シク丁寧ニ説明致シマセウ(謹聽)
ト呼フ者アリ、全國ニ於ケル盲人ノ數ハ殆ド九万人前後アルサウデアリマス、ソレモ兩
三年前ノ統計デアッテ、今日ニ於テ之ヲ再ビ調べマシタナラバ、十万人ヲ越スルデアラウ
ト云フ始末デ、其半バハ職業ニ就ケコトヲ得ズシテ行路ニ彷徨シテ居ルト云フ有様サウデ
アリマス、故ニ是ニ相當ノ職業ヲ授ケテ生活スル途ヲ講ゼシメテ社會政策上多大ナル
國家ノ利益デアラト云フコトハ、是ハ即チ委員會中ノ否ナ、紹介議員ノ大竹君ナド主ト
シテ唱道シタコロノ御意見デアリマス、而シテ請願ノ趣意ハ盲人ニ按摩業ヲ專業トサ

シテ欲シト云フノアリマス、尙是ニ附加ヘテ鑑治モ盲人ノ專業トシテ欲シト云フノアリマス、故ニ紹介議員ノ辯論ヲ承リ、委員ノ質疑討論ノ結果、重要ナル問題デア
ルカラ、諸君ニ付スベカラズシテ、委員會ハ更ニ特別委員ヲ選定致シマシテ、是ニ依
テ丁寧ナル調査ヲ遂ゲタノアリマス、其特別委員ハ政府ト屢々折衝ヲ致シマシタノ
イマスルガ、政府ノ意見ハ按摩ト云フコトヲ擧ゲテ、盲人ノ專業ニスルコトニ付テハ、絶
對ニ不同意アルト云フノアリマス、殊ニ鑑治ト云フコトニ至テハ、獨リ盲人ニ俟ツコト
ハ出来ナイ、目明キヲ殆ド主ニシナケレバナラズト云フ趣意アルノアリマス、而シテ按
摩ハ從來慰按摩ト稱シテ、アッデモナクモ宜イコト云フヤウナモノハ、盲人ガヤッデモ宜
シイガ、鑑治ハ醫術ノ一ツノ補助トシテ、大ニ望ヲ屬スベキ技術ニ屬スルコトヲ認メタ
ラシテ、獨リ盲人ニ之ヲ放任シテ置クコトハ出来ナイ、併ナガラ盲人ガ業ヲ失ツテ往ク
云フコトモ同情ヲ表サナケレバナラズ、同時ニ按摩ヲ盲人ニ獎勵スルコト云フコトモ宜イ
ラシテ、盲人ニ對シテハ特別ノ同情ヲ持タウ、其同情ヲ持タル趣意ヲ表示スルニ於テハ、
斯ウ云フコトニ致サウト云フ覺書ヲ提出セラレタノアリマス、此處ニ讀上ゲテ、之ヲ速
記ニ止メテ置クコトニ致シマス、政府ガ特別委員會ニ向テ提出セラレタル覺書ガハ箇
條アリマス

覺書

- 一 按摩術又ハマッサージュ術營業ヲサントスルモノハ、試驗合格證書又ハ地方長官
ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘ住所地方長官ニ願出テ免
許鑑札ヲ受クルコト
- 二 按摩術及ハマッサージュ術ノ試驗ハ地方長官之ヲ舉行ス、試驗ヲ分テ甲種及乙
種トナス事(乙種試驗ハ按摩術ノミニ限ルコト)
- 三 一箇年以上按摩術又ハマッサージュ術ヲ修業シタル者ニアラサレハ試驗ヲ受クル
コトヲ得サルコト
- 四 地方長官ニ於テ他ニ生業ヲ營ミ難シト認ムルモノニ非ラサレハ乙種試驗ヲ受ク
ルコトヲ得サルコト
- 五 本令施行前地方長官ニ於テ交付シタル免許鑑札ハ本令ニ依リ交付シタルモノ
ト看做スコト
- 六 地方ノ狀況ニヨリ必要ト認ムルトキハ地方長官ハ他ニ生業ヲ營ミ難シト認ムル
モノニ限り當分ノ内其履歷ヲ審查シ試驗ヲ要セス免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得ヘ
キコト

是ハ内務當局ハ衛生會ニ向テ目下諮問中ノモノサウデアリマス、未ダ公ケニハセザルモ
ノデアリケレドモ、委員會ニ之ヲ示スト云フコトヲ提出セラレタノアリマス、此ノ如クニ
致シマシタラバ盲人其者ガ普通ノ目明キヨリモ按摩ト云フコトヲ營ムニ於テ多大ナル
便利ヲ得、又營業イコトニナルノデアリカラシテ、政府ノ厚意トシテ是ガ譲ル、ソレ
以上ノコトニ付テハ今回直ニ御同意致シカネルト云フコトデアッタノデアリマス、故ニ委員
會ニ於テハ政府ノ答ニ満足セズシテ、進ンデ一ノ法律案ヲ以テ夥多ノ盲人ヲ救ヒ得ベキ
方法ヲ講ジヤウト云フ議論モ多クアッタノデアリマスガ、何分會期切迫ノ今日ニ於テ、其
處マデ進メテ行ク日モゴザイマセヌノデ、暫ク本年ハ願義ヲ採擇ト云フコトニ決定ヲ致シ
テ置イテ、此政府ノ提出シタル覺書ヲ併セテ此處ニ御報告申シテ置クコトニ止メタ次第
デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス(贊成ト呼フ者アリ)次ハ第九百九十四號、民屬
金下附ノ請願、大分縣直入郡久住村土族皆田仲喜外二名ノ呈出デ、元田肇君外
二名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、是ハ至極尤ト認メマシテ、委員會ハ採擇ニ決定致シ
マシタ、次ハ第九百九十五號、七尾樂港ノ請願、金澤商業會議所會頭齋藤彌久ノ呈
出デ、戸水寛八君外五名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、尤ナル理由アルモノト認メテ、委

員會ハ採擇ト決定致シマシタ、次ハ第九百九十六號、永代借地若ハ其ノ地上ニ在ル建設
物ヲ本邦人ノ所有ト爲シタル場合ニハ右物件ニ對スル免稅ノ請願、東京市京橋區木
挽町五丁目平民鑛業平田吉次郎呈出ニシテ、武滿義雄君ノ紹介ニ係ル件、是モ尤
ナル理由アルモノト認メテ、委員會ハ採擇ト決定致シマシタ、次ハ第九百九十七號、府
縣界變更ノ請願、埼玉縣北足立郡新田村平民農田口彌三郎外四百十二名ノ
呈出ニシテ、岡崎邦輔君外三名ノ紹介、是ハ埼玉縣北足立郡新田村神根村ノ二村
ハ地理治水水利交通上ノ便否利害及住民ノ生活狀態等ヨリシテ東京府南足立郡ニ
編入シテ、而シテ東京府ノ管轄ニ變ヘタイト云フ趣意デアリマス、丁寧ニ審查ヲ致シ
マシタル結果、爾カ致シマスル方ガ宜カラウト存シマシテ請願委員會ハ採擇ト決定致シ
マシタ、次ハ第九百九十八號、地方裁判所支部開闢ノ請願、静岡縣駿東郡高根村平
民瀧口源太郎外四名呈出ニシテ、清空太郎君外一名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、同様
ノ件數ガ八十八件アリマス、ソレハ總テ同一ノ請願デアリマス、唯今讀上
マシタノヲ主題トシテ一括シテ審查致シマシタノデアリマス、而シテ其趣意ハ静岡縣沼津
區裁判所ハ當テ地方裁判所支部デアッタモノガ、今ハ廢セラレテ支部ノ事務ヲ執ラナイ
デ居ル、實ニ不便ヲ極メテ居ルカラ、ヤハリ支部ノ事務ヲ取扱フヤウニシテ貴ヒタイ、支
部ヲ開闢シテ貴ヒタイト云フ趣意デアリマス、至極尤ナル理由アルモノト認メテ委員會ハ
採擇ト決定致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス、次ハ第九百九十九號、郵便局設置
ノ請願、東京市京橋區新島西町平民工高橋熊次外六名呈出ニシテ、加治壽衛
吉君ノ紹介ニ係ル件デアリマス、是ハ佃島ニ郵便局ヲ設置シテ貴ヒタイト云フ、至極
尤ナ請願ト認メテ請願委員會ハ採擇ト決定致シマシタ、次ハ第二百號、電信架設
ノ請願、神奈川縣高座郡有馬村平民佐藤平兵衛外六十三名ノ呈出ニシテ、神藤才
一君ノ紹介ニ係ル件デアリマス、是ハ有馬郵便局ニ電信事務取扱ヲ開始シテ欲シト
云フ趣意デ至極尤ナル請願ト認メテ採擇ト決定致シマシタ、次ハ第二百一號、朝鮮訴
訟代理業者ニ關スル請願、朝鮮京城本町平民中島安邦外十七名ノ呈出ニシテ、松
田源治君外二名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、是ニ付テハ少シシテ、此請願ハ朝鮮ニ於ケル
ヤウニト云フ申出ガアリマス、少シク説明シテ置キマス、又統監府令ヲ以テ急
其資格ヲ確保セラレタルニモ拘ラズ、近時總督府ニ於テハ全然其資格ヲ奪去ツテシマ
テ、元ノ無資格ニ歸セシメタト云フ次第ニナツタ、斯クテハ甚ダ困ルノミナラズ事實
上ニ差支モ出来ルニ依テ臺灣ノソレノ如ク、辯護士ノ資格ヲ認メテ貴ヒタイト云フ請
願デアリマス、故ニ請願委員會ニ於テハ人權ヲ尊重スル職分ヲ執ル人ヲ拒ヘルト云フ
ノデアリマスカラシテ、極メテ重大ナル問題ノ中ニ數入レマシテ、特別委員ヲ設ケテ調査致
シマシタノデアリマス、其末特別委員ハ即チ寺內總督ニ折衝致シマシテ、其結果寺內
總督ヨリハ近キ時期ヲ以テ願意ノ透徹スルヤウ致サウト云フ意味ヲ表明セラレマシタ、同
意ヲ表セラレタノデアリマス、故ニ請願委員會ハ政府ニ於テモ大ナル反對アルコトデ
ザイマセヌ、事實尤ナル請願ト認メマシタカラシテ、採擇ト決定シタ次第デアリマス、此
段御報告申シテ置キマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第十ヨリ第五十三マデハ唯今委員長ノ報告セラレタ
ル通採擇スルコト云フコトニ御異議アリマセヌカ

○三浦覺一君 質問ガアリマス

○議長(長谷場純孝君) 異議アリト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) ソレハ三浦君ニ許シマス

○三浦覺一君 請願委員會ガ此ノ如キ多數ノ案件ヲ慎重ニ審查サレマシテ、丁寧ニ
御報告ニナルコトハ、甚ダ感謝致シマスルガ、會期切迫ノ故ヲ以テ其報告ガ簡單ニ流レ

マシテ殆ど題目ヲ讀ム位ニ過ギマセヌ、請願ヲ致シタルモノハ事件ニ依リマシテハ一件デ何万人ト云フヤウニ調印致シテ請願致シテ居ルモノモアリマス、甚ダ此事柄ハ重大デゴザイマスガ、議院ハ請願ヲ輕ンズル傾キガアル、又報告ニ於テモ時間ノナイコトハ遺憾デアリマスガ、甚ダ報告ガ簡單ニ過ギテ居リマスガ、私ハ今日ノ場合詳シク御報告ヲ願フ譯ニハ至ラヌト思ヒマスカラ、是ハ議長ヨリ政府ノ御回シナルトコロノ意見書ナルモノヲ、速記録ニ載セテ貰ヒタイト云フ意見ヲ持ツテ居ルノデゴザイマス、委員長ハ其事ヲ御請求ニナツテ下サル譯ニイキマセヌデゴザイマスガ、現ニ貴族院ノ如キ其意見書ヲ悉ク速記録ニ載セラレテ能ク分ツテ居リマス、此方ハ題目バカリデアツテ、事件ノ内容ガアリマセヌ故ニ、委員長ヨリ議長ヘ御請求ニナツテ、意見書ヲ速記録ニ載セテ戴キタイト云フノデゴザイマス

○福井三郎君 御答致シマス、御質問ヨリ寧ろ御希望ノヤウデアリマス、其御希望ニ付テ本委員長モ御同感デゴザイマス、サリナガラ既ニ委員會ガ決定致シマシテ、意見ヲ付シテ、議長ノ手許ヘ報告致シマシタ以上ハ、委員長ハ之ヲ如何トモスルコトハ出來ナイノデゴザイマス、故ニ議場ニ於テ成ルベク許シ限リ詳シク説明ヲ致スコトニ勉メテ居ルニ過ギナイデアリマス、是トデモ御察シテ通り時間ガナクテ、サウ云フ譯ニ參ラナイデアリマスカラ、唯今ノ御希望ハ直ニ議長ニ御請求下サイマシタナラバ、イッレ職權ナリ或ハ議場ニ諮リテ相當ノ處置ヲセラレラデアラウト存ジマス

○三浦覺一君 ソレハ委員會長カラ請求ガ出來ヤウト思ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 議長カラ御答シテ置キマス、三浦君モ御承知デゴザイマセウガ、衆議院ノ慣例ハ請願委員長カラ例ニ依ツテ報告ヲサレル前ニ於テ、採擇セラレタルモノハ詳シイ文書表ガ出來マス、ソレハ各諸君ノ御手許ニ配付シテアル

○三浦覺一君 ソレハ分ツテ居ル

○議長(長谷場純孝君) 貴族院ノ方ハ此ノ如キ一々報告ガゴザイマセヌカラ、ソレヲ速記録ニ載セルト云フヤウニ承知シテ居リマス、前々ノ通デハ差支ハアルマイト議長ハ思ヒマス、併シ院議ニ於テ決定ニナツタナラバドウヤウニモ取計ヒマス

○三浦覺一君 ソレナラバ私ハ之ヲ載セルト云フ動議ヲ提出シマス

○議長(長谷場純孝君) 三浦君ノ動議ニ賛成ガアリマス

○議長(長谷場純孝君) 三浦君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立

○議長(長谷場純孝君) 起立者 少數

ヨリモ特別報告ノ第百八十二號、即チ請願文書表ノ一千四十七號ノ趣意ヲ御覽ヲ下サイマスレバ、蓋シ思ヒ半バニ過ギテ、滿腔ノ同情ヲ以テ此請願ヲ御贊同ナサルコトガ出來ヤウト考ヘマスカラシテ、別ニ詳シクハ申上ゲマセヌカラシテ、御手許ニ同ツテ居リマスル文書表ヲ報告ヲ——御覽ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第十ヨリ第五十三マデ總テ委員長ノ報告通り採擇スルト云フコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認マスカラ、日程第十ヨリ第五十三マデ請願ハ悉ク採擇スルコトニ決シマス

○議長(長谷場純孝君) 議長

○高柳覺太郎君 高柳君、何カ御發議ガアリマスガ

○議長(長谷場純孝君) 此場合ニ日程ニ追加ヲ致シタイ、ソレハ既ニ午前ニ於キマシテ決定致シタルコトデアリマスガ、私ハ今日既定ノ時間ニハ未ダ數時間ヲ餘シテ居ル此場合デゴザイマスカラ、直ニ散會スルノ甚ダ遺憾デアルコトヲ感ジマス、此僅ノ時間ナリトモ利用致シマシテ、吾々ノ意志ノアルコトヲ成ベク此議場ニ於テ發表シタイト思フデアリマス、即チ私ハ、私ノ豫テ提出シテアリマスルコトヲ質問趣意書デアリマス、此趣意ヲ辯明スルタメニ特ニ此時間ヲ與ヘラレンコトヲ諸君ニ希望スルデアリマス(「ウ」ト呼フ者アリ)既ニ御決定ニナリタリト雖モ、ソレハ時間ノナイト云フ理由ノ下デアリマス(「無用々々」ト呼フ者アリ)暫ク御聽ヲ願ヒマス、私ノ質問ノ趣旨ハ私一個ニ關スルコトコノ問題デアゴザイマセヌ、此議員全體ニ關シマスルコトコノ重大問題デアリマス、即チ此議員ノ……

○議長(長谷場純孝君) 高柳君、甚ダ御氣ノ毒デモゴザイマスケレドモ、既ニ先刻院議ヲ以テ其事ハ決定サレマシタカラ、其事ハ先ツ此場合御止メニナルガ宜カラウト思ヒマス

○高柳覺太郎君 議院ガ左様ニ御認メニナリマスレバ、已ムヲ得マセヌガ……

○議長(長谷場純孝君) モウ其事ナレバ此場合止メルコトニ……

○高柳覺太郎君 併シ是ハ動議デアリマシテ、既ニ議長ガ發言ヲ許サレマシタ以上ハ、一應其理由ダケヲ述ベマシテ是ガ——私ノ動議ガ違法デアルトカ、或ハ採擇スベカラザルコトデアルト云フナラバ已ムヲ得マセヌガ

○議長(長谷場純孝君) ソレナラバ採決ヲ致シマス、分ツテ居リマスカラ

○高柳覺太郎君 尙一言致シマス、願クハ此場合ニ於キマシテ此議院ノ體面ニ關シマスル問題デゴザイマスカラ、暫ク時間ノ割愛ヲ諸君ニ偏ニ願ツテ置キマス

○議長(長谷場純孝君) ドウデゴザイマスガ、議長ノ宣告ニ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス——明日ハ午前十時ヨリ會議ヲ開キマス、尙議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、今日ハ是ニテ散會

午後三時二十七分散會

(參照) 南滿洲鐵道經營ノ現狀ニ關スル質問主意書ニ對スル説明書(鈴木力君提出)

ヲ舉示シ細目三十一箇ハ說明演說ニ讓リシ所今同方法ヲ改メ說明演說ヲ止メ本文參考書ヲ以テ細目說明ノ上質問致シ之ヲ速記録ニ揭ケ政府ノ答辯ヲ請フ事ト爲ス質問事項三十一項目ハ以下逐次列舉シ必要毎ニ質問趣意ノ說明ヲ加フ

第一項 南滿洲鐵道株式會社ハ外國ヨリ募集セル社債ニ對シ二番抵當タルノ觀アリ政府ハ之ヲ減價方法ヲ講スルノ意無キ耶

第二項 募集未済株金八千萬圓ヲ内地ニ募集スルコトハ政府之ヲ到底絶望トナス耶

質問ノ趣旨說明左ノ如シ

抑モ南滿洲鐵道株式會社ハ公稱資本金二億圓ニシテ内日本政府ノ持株五十萬株即チ一億圓ハ鐵道礦山等ノ出資財産タリ而シテ民間ニ募集セル株數一萬株(株二百圓)ニ過キス餘ノ四萬株ハ未募集ニ附セリ蓋シ政府當初ノ意ハ日露戰役後ノ財界膨脹ニ乘シテ一億圓タケノ株金ヲ内外ニ募集スルニ在リシモ後未幾何ナラスシテ財界ノ泰否其ノ所ヲ換ヘシヨリ八千萬圓ハ未募集ノ名ノ下ニ募集不能ノ實ヲ呈セシ者ニシテ是レ經營冒頭ノ失敗タリ故ニ二千萬圓ノ募集株金スラモ拂込ハ僅々十分ノ一タルニ止メ乃チ二億圓ノ現金ヲ以テ一億圓ノ大會社事業ヲ運轉スル冒險ヲ敢テスルニ至リ轉シテ外國社債八千萬圓ヲ仰キテ全ク他力ノニ興業費ヲ辦シ僅カニ事ナキヲ得タルカ斯クテ尙資力ノ不足ニ耐ヘサリケレハ政府ハ昨年ノ議會ニ南滿社債ヲ更ニ四千萬圓増加スル事ノ協賛ヲ得之レヲ外國資本ニ仰カント企テ便チ四十二年五月十七日附ヲ以テ滿鐵會社ニ左ノ命令書ヲ交付セリ

明治四十三年五月十七日社債ニ關スル命令書

明治三十九年八月一日付命令書第十三條第一項ニ依リ政府ノ保證スヘキ社債ノ額面金額ハ資本ノ總額ヲ超過スルコト無シ但此際事業經營ノ爲メ發行スル社債ニ在リテハ現ニ政府ノ保證ヲ爲スモノ、外額面金額四千圓ヲ限度トス以上ノ命令書ハ外國資本家ガ滿鐵ノ株金輕少ナルニ借債ノ底止スル所ナカラムトスルヲ見テ漸ク不安ノ念ヲ生シタルニ因リ新規募集ノ行儀ミヲ結果シケレハ大藏省當局ノ爲メ大ニ困難シ百方陳疏十計周旋ノ末ニ資本家ノ心ヲ慰スル方法トシテ但此際以下ノ聲明ヲ行ヒシモノタルコト一日瞭然タリ即チ此ノ聲明ハ外國債權者ニ對シテ借債增加ノ制限ヲ暫約セル一ノ證文ニシテ譬ヘハ普通人民ニ在リテ債務ノ者ガ債權者ノ要求ニ應ジテ此度ノ二番抵當ヨリ外ニハ借金不仕候若シ違反アルニ於テハ何時ニテモ差押執行不苦候ト契約書ヲ呈スルニ似タリ是レ故ニ信用界ニ於ケル至大ノ耻辱タルト同時ニ政府ノ滿洲經營失敗ノ極印トモ解ス可シ殊ニ政府ハ該聲明ノ當時ニ於テ之ヲ機會トシテ四千萬圓社債募集ヲ了スヘク窮蹙坂ヲ擇ハサルノ態斯クノ如ク歷々タリシニ拘ラス其スラモ復タ意ノ如クナラス昨年五月六月ノ交ハ募集不能ノ醜態ニ終リ更ニ二年ヲ越エテ本年一月辛フシテ英京債權者及ヒ「ブローカー」ノ手ニ由リテ四千萬圓ト共ニ既募集八千萬圓中ノ二千萬圓ヲ借換償還スルヲ得タルカ條件ノ不利ハ中外ノ俱ニ識認スル所ニシテ且投資家ノ既往ノ主モナル債權者同一ノ人々ニ止マリ英京商業會議所ニテモ寧ロ白眼ヲ以テ之ヲ見一般英人ハ何等ノ同情ヲ之ニ寄スルナキ實況ナリシコトハ英米市場ニ於ケル當時ノ冷淡ニ徴シテ明白ナリトス

故ニ滿鐵ノ財政ハ歐洲債權者ノ眼底ニ於ケル信用程度ヲ以テ之ヲ測ル時ハ方ニ水浸サ、ルコト僅カニ三板ノ概アルヲ免カレ然リ而シテ信用ノ回復ハ自力ノ蓄積ヲ措イテ他ニ求ム可カラサレハ政府タル者滿鐵ノ借換償増シ借太リノ泡沫的虛張ヲ獎ムルコトナク宜シク本ニ復リテ滿鐵會社ノ實質ヲ固ムルニ銳意シ株金ト借債トノ權衡ヲ

得ル迄株金募集併セテ社債返還ノ方法ヲ講ス可キナリ政府果シテ其ノ意アリヤ將タ成算皆無ナリヤ前二項ノ質問有ル所以ハ是ニ存ス

第三項 事業界ノ信用基礎ハ資產ノ實價ニ在リ然ルニ南滿洲鐵道株式會社ハ營業開始後四箇年度ニ亙リテ精密嚴格ナル普通方式ノ財産目錄ヲ調製セス政府カ之ヲ是認スルノ理由如何

第四項 略式僅々二ページノ財産目錄ニ於テ滿鐵會社ガ發表セル資產金額ノ部別中四十二年度前半期(四十二年四月ヨリ四十二年九月ニ至ル)ニ於テ即チ昨年十月一日現在ニ於テ鐵道本支線(安奉線ヲ加ヘテ)及ヒ工場ノ加工、設備一切トシテ四千九百四十二萬餘圓ヲ計上セルカ該金額ノ内鐵道ノ加工設備ノ總金額ハ幾何ナリヤ又鐵道一哩當リノ平均金額幾何ナリヤ

第五項 同上目錄貯藏品ノ部ニ鐵道用品セメント類木石材料其他トシテ一千七十八萬六千餘圓ヲ計上セルカ此貯藏品中ニ軌條貨車客車機關車等ヲ包含スルヤ果シテ包含スレハ其ノ金額各幾何ナルヤ又雜品部ノ貯藏品ハ品目何ナリヤ概數ヲ示サレタシ

第六項 見込違イノ爲メ全部不用ニ歸セル手押車(トリリー俗ニプレート)ハ貯品ノ部ニ財産視セル可シ此二物ノ買入價格ハ幾何ナリヤ

以上四項ノ質問趣旨ヲ說明スレハ左ノ如シ

大凡會社事業ノ經營ノ要義ハ資產及ヒ損益上ノ會計ノ嚴正明劃ナル點ニ存ス故ニ財産目錄ノ如キハ一季以上ノ曖昧ノマ、經過スルコトハ世界ノ實業理法ニ於テ之ヲ容ルスコト莫シ曖昧ハ紊亂ノ因果相倚ルヲ世情ノ常トスルヲ以テ滿鐵會社カ如何ニ自社事業ノ經過ヲ自畫自贊ストモ財産目錄タモ調製セサル粗漫ノ會社ヲ爭カテ中外ノ具眼者カ信用スヘキヤ是ニ於テカ所謂貯藏品ノ目ニ計上セル一千万圓ノ資產ニ疑ヲ挾ムハ情勢必至ノ事ニシテ此莫大ノ財産額ヲ漠然「鐵道用品セメント類木石材料其他」ト掲表スル而已ニテ巨細ノ品類品量ヲ報告セサルハ宛然兒童戲餘ノ一筆畫ニ似タリ嚴正主義トスル事業會計ニハ一筆畫ヲ容ルサス開ハ必ス密畫ヲサル可カラス放膽文ヲ容ルサス必ス細心文タルヲ要ス

外形ニ現出セル文字ニ據リテ之ヲ推スニ貯品ノ一千餘萬圓ハ誇大ヲ極ムルコト條理是ヲ證示ス何トナレハ滿鐵會社ノ貯品トシテハ金高ノ大ナル品類ハ軌條機關車客貨車等ノ外ニ之レ有ルヘクモアラサズ地金類銀釘類等モ亦鐵道用品ニ屬スレトモ其高ハ數十萬圓以上ニ出ツヘカラス而シテ會社ハ常ニ貨車不足ヲ訴ヘツ、アレハ車輛ノ多數ヲ徒ラニ死藏スル道理ナク軌條ノ如キモ到達次第敷設ニ供スル現狀ナレハ也然レハ所謂セメント類ハト審料スルニ之レヲ充分ニ見積リ四萬樽ト假定スルモ一樽六圓トシテ二十四萬圓ニ過キス則チ主要品類ニ於テ一千万圓ニ達スル實質ヲ首肯スル能ハサル也惟フニ滿鐵會社ハ名ヲ物品買入用ニ託シテ社員輪次ノ洋行費支出ノ途ニ供シツ、不急或ハ不用ノ物品ヲ歐米ヨリ購入スル癖アリ從テ西洋掛ケ類或ハ帷帳ノ類ヲ貯藏品部ニ改メ其品傷ミヲ防クト稱シテ高級社員各自カ社宅ニ私用シテ輪轉掛替ヲ爲ス間々其等贅澤品ノ金額モ亦大ナル可シ現ニ會社ノ統計年報ニハ明治四十二年三月末日現在ニ於テ貯藏品器具類ニ合計二十九萬一千二百六十六圓ヲ計上スルカ爾後此ノ類ノ金額ハ益々増加セルハ實際ナリ然レトモ其トテモ一千万餘圓ノ貯品類數字ヲ釋明スルニハ過小ナリ斯ク考左量右スル末ニハ勢イ雜品部ニ誇大ノ金額ヲ記入スルニアラサズト睨マルヲ得乃チ本員敢テ邪推ヲ逞シクセスト雖モ議員常識トモ稱ス可キ常識ヲ以テ這回ノ情偽ヲ判スルニ彼ノ會社ノ違算ヨリ生セシ手押車及ヒ「タイ、プレート」等ノ廢物ヲ貯品金額ノ大部ニ計上シテ不實ノ價ヲ

財產ニ附スルナラト結局思料ス政府ハ此ノ思料ヲ本員ノ不明ヨリ出ツル疑惑ナリト爲シテ事實示シ據リテ此疑惑ヲ釋然タラシムルノ義務アリ

第七項 昨年ノ議會ニ於テ遞信大臣後藤男爵閣下ノ議員柏谷義三氏ノ質問ニ答ヘテ南滿鐵道ノ利益ハ逐年益増加ス可キ見込ノ旨確言セルカ果然四十二年後半期(自一昨十月至昨年三月)利益金ハ四百八萬餘圓ニ上リテ前年度後半期利益金一百二十四萬餘圓ニ比較シテ驚歎ニ堪ヘタリ二百七十四萬圓ヲ激増シタリ僅カニ一年ヲ隔テ、三倍餘ノ利益ニ一躍スル會社事業ハ世界流行ノ護謨投機事業ナトテ除キテ他ニ四傳ヲ見サル珍新傑異ノ成功沙汰ニシテ名譽有ル男爵閣下ノ先見の中ハ實ニ恐拜ニ値ス然リト雖モ該前年度ニ於テハ輸送貨物ノ王タル大豆ハ異常ノ大豐作ヲ告ケ爲メ貨車不足ヲ訴フルノ聲各線ニ響器タル程ナリシ該後年度即チ利益激増ノ四十二年度後半期(ニ於テ大豆劣作ニ加ヘテ東清鐵道ノ大競争起リ貨物吸收ノ東清手腕ハ長春以南四平街マテモ猿臂ヲ起シハシケレハ我主要輸出線タル長春線ノ如キハ前年ノ日々發車數八十臺ヨリ百臺ニ及ヒシニ引替ヘテ此年ハ三四十臺ニ過キサル不振至極ノ實況ナリシ事實ヲ引キテ酌量スルトキハ後年度ノ運賃收入激増ハ常人ノ常識ヲ以テ想像シ能ハシ況ンヤ會社ノ營業報告書ニ依レハ右兩年度ノ運送貨物中ノ主要ナル者ノ一タル社用品ヲ比較シテ前年度ノ此期十二萬六千噸後半年度ノ同期二十八萬二千噸ナルニ因リ後年度ノ社用品輸送増高ハ十五萬噸ノ多キニ及ブ是レ此巨額ハ會社自ラ自家ノ物ヲ運ヒテ自家ノ運賃ヲ自家收支スル者ナリ即チ收入ト損金ト相殺シ後ニ算出サル、利益金ノ激増ヲ結果スルニ足ラサルコト未ダ年者ト雖モ之ヲ看破スルニ難カラサルナリ但シ會社ハ此年度ノ此期ニ於テ大豆輸送高ノ前年度ノ此期ニ比シテ三萬七千噸ノ増加ヲ表揭セルカ假ニ此報告ヲ虛偽ナラストスルモ三萬噸ノ運賃タルヤ極メテ微々タル者トス又此年度ノ此期ハ撫順炭輪送増加シテ鐵業收入六十六萬圓ノ増加ヲ計上スルヲ以テ此點ハ利益金増加ノ一因ヲ證シ得ヘシト雖モ其ト同時ニ豆粕十三萬一千噸ノ此期激減ヲ見込スヘカラス之ヲ要スルニ會社營業報告書ノ範圍ニテハ損益數字ノ兩兩等一ニ見合フコト不思議ナラスト雖モ實際觀ノ常識ヲ持チ來リテ死セル數字ニ活ケル腦力ヲ參セシムルニ於テハ此期ノ利益金激増ノ實際ノ理由ヲ認ムルニ由キ也然リ而シテ世上ノ耳目ハ未ダ内地ノ外ニ及ハサルノ致ス所ニヤ將タ耳目ノ稍及フトモ口或ハ箴セラル、結果ニヤ政府ハ何ノ憚リ所モナク該期ノ利益金四百八萬圓中ヨリ政府配當金二百五十萬圓ノ巨額ヲ提供セシメ天下ニ揚言シテ滿鐵好況ナリ好望ナリ發展無限ナリ財本潤澤ナリト云フ本員之ヲ見テ政府ノ行動ヲ怪訝シテ已ム能ハス以爲ラク政治ハ或程度迄ノ曲折ヲ認容セサルヘカラス債務國ノ政府ニ於テ特ニ然リ故ニ鐵道相遞相等ノ苦衷ニ免シテ輕々之ヲ口ニスヘカラス而レトモ利益激増ノ裝飾ハ假令一時ノ權道ニセヨ營業費ノ充分ナル節減ト社員ノ勤儉ト實ヲ一方ニ行フテコソ始メテ善意ノ權宜トシテ之ヲ默過スル場合モアルヘケレ若シ夫ノ遞相カ滿鐵ノ虛談主義ニ對シテ一矢ヲ酬ニル者天下ニ空シト見縊リ或ハ外形ノ辻褄ヲ合セサヘスレハ以テ中外ヲ瞞過スヘシト爲ス歟ノ如ク國家自力ノ財本ヲ度外視シ他カ外債ノ借増借太リニ腐心シ乃チ幾億ト云フ財本ヲ一夜ニモ取出シ得ル如ク態度シテ滿鐵式ヲ内地ニ迄モ轉用セント欲シ乃チ輒ク廣軌案ヲ唱導シ或ハ鐵道網ノ餌ヲ布キ眼中復タ民間ノ識者經世家ノ無言ナル具眼者アルナキノ舉動犯ラ敢テスルニ至リテハ本員ハ竟ニ無言ニ忍フ能ハスト乃チ茲ニ本項ノ質問ヲ提出ス請フ此期利益金激増ノ實際上ノ理由ヲ細說シテ本員ヲシテ得心セシメヨ

參照 滿鐵輸送ノ盛季ハ例年後半期ニ在リ是レ貨物王大豆ノ輸送期タルニ依ル又滿鐵ノ興業費ハ年々一千四百五十萬圓内外ヲ要スルニ拘ハラス是ハ當然損益勘定ノ外ニ別立テト做スカ故ニ若シ滿鐵カ利益金ノ増加ヲ街ノ方便トシテ營業費ノ幾分ヲ興業費ノ目ニ入ル、時ハ實際ノ損益ヲ離レテ表面上ノ利益金激増ヲ手加減趣構シ得ヘキナリ

第八項 損害計算書中ノ利益收入ノ項ニ關シ明細表ヲ示サレタシ

第九項 清國借款即チ吉長線京奉線ノ投資額並ヒニ其償還金額ヲ問フ

第十項 滿鐵社用材料ノ運搬 即チ鐵道以外ノ船車等ヲ以テスル運搬ニ對シ滿鐵昨年ノ支拂高ハ三百萬圓内外ナリ此運搬ヲ一手ニ請負フ者ノ巨利ヲ以テ想フヘキナリ然レニ該請負者カ三井ナルコソ奇異ナレ三井ハ自身何等ノ運輸業ヲ營マサルナリ船持主其他運輸業者ハ滿鐵ノ何故ニ殊更三井ヲ仲介シテ運賃ヲ高メ且ツ運輸業者ノ利益ヲ殺シテ事ヲ怪シ不平ノ聲ヲ斷タス敢テ問フ運輸業ヲ爲ササル三井ニ運輸請負ヲ專占セシムル理由ハ如何

第十一項 滿鐵ノ終始需要員煉瓦ハ現ニ本員ノ知ル限リヲ以テスルモ供給者トシテ大連二箇所此資本金合セテ六萬圓奉天二箇所其資本金合セテ五萬圓安東縣二箇所此資本各四萬圓ナリ以上六箇ノ煉瓦製造所ヨリ皆橫濱著トシテ相當確定ノ力ヲ有シ實際亦滿鐵ヘ供給者タリ然レニ滿鐵ハ是等ノ製造所ヨリ一切直接ノ買上ヲ爲サス故ラ三井ニ賣込全權ヲ與ヘ一枚ノ煉瓦ヲスラ自ラ煉カサル三井ヲシテ座座カラ鉅萬ノ利ヲ貪ラシムル也其結果ハ製造業者ノ不利ヲ來シ工業ノ發達ヲ阻碍スルコト明白ナリ政府ハ滿鐵ヲ戒飭シテ斯カル不當ノ所爲ヲ改メシムル能ハサルヤ

第十二項 滿鐵會社ノ本業ハ鐵道及ヒ撫順炭業ノ二ニシテ彼ノ社ハ鐵業課出所若クハ賣炭部各地ニ置キ自社ノ石炭ヲ賣捌ク機關ヲ具備ス然レニ實際ニ於テ滿洲以外ハ勿論滿洲夫レ自身ノ地ニ於テモ撫順炭ノ全部委託販賣ヲ三井ニ契約シ滿鐵自身ノ賣炭部カ賣捌ク石炭ニ於テスラ相當ノ歩合ヲ三井ニ與フル契約ヲ爲セリ是レ不條理ノ甚シキモノニシテ國家ノ利益ヲ一私人ニ私シテ三井ヲシテ官力兼資本力ノ聯合トラストトモ稱スヘキ暴橫ヲ逞フセシムル言語同斷ノ處置タリ政府ハ無量ノ國財ト忠君愛國ノ人民ノ血ト肉トノ犧牲ヲソノ代償タル滿洲ノ利權實益ヲ擧ゲテ之ヲ一個ノ三井ニ蹂躪セシムルヲ本意ト爲スヤ如何夫レ或ハ三井ハ長州元老ノ一人ヲ分身ト爲スカ故ニ後藤遞相之ニ迎附シ内閣亦之ヲ制スルノ權威及ヒ其心ナキ致ス所タルニアラサルヤ

前數項ノ質問趣意ヲ尙明瞭ニ說明センニ實際滿洲ハ滿鐵ノ滿洲ニシテ國民發展ノ滿洲ニアラス轉シテ滿鐵ハ三井ノ滿鐵ニシテ滿鐵ニアラサルノ現狀ヲ孤致シレリ抑モ三井カ滿鐵ノ出資者タリトモ其額タルヤ僅ニ二百萬圓ノ其一部分タルニ過キサルナリ二百萬圓足ラスノ出資ヲ以テ二億圓ノ會社事業ノ利益全面ヲ壟斷ス而シテ會社ハ全クノ國家ノ出資ト出費ト保證トノ影像タル邊古今東西豈ニ復タ斯キ暴利暴權ノ自在ナル組織アラム耶紅燈千人ノ血緣酒萬民ノ膏是レ社會組織ノ一段ノ缺陷ナレハ特ニ此場合ヲ咎ムル理由トハ爲スヘカラスト雖モ日本帝國ノ國家ヲ自體ガ一私立商事會社ノ食物ト化セントスル點ハ政道ノ常法トシテ斷シテ之ヲ恕スヘカラス本員ハ三井其者ガ南滿ニ於テモ中清ニ於テモ終始利源及販路ヲ奪取者トシテ獨立格ノ邦人ヲ泣カシムルコトヲ多ク言ハサルヘシ又三井カ生絲買入ヲ左右シテ内地ノ蠶絲家ヲ泣カシムルコトヲ言ハサルヘシ更ニ三井ナル者カ現ニ橫濱ニ在テスラ大資本ノ力ニ任セテ細大雜多ノ商品ヲ取扱ヒ堅實ナル小資本商店主ヲ壓倒シ甚シキ

ハ米穀小賣業者ヲ迄モ泣カシムルコトヲ言ハサルヘシ然トモ三井カ國家ノ權力及利益ニ直接ノ交渉ヲ有シテ官力實力ノ聯合トラストの暴威ヲ揮フ點ハ固ヨリ之ヲ一私人格ノ三井ニ責メシテ之ヲ政府ニ責メサル能ハス蓋シ三井ハ米國前大統領ルージュエルト氏ノ所謂一切潰シノ商業組織即「オール、コンジューミシング、コムマーシアリズ」也人滿鐵對三井ノ現關係ハ彼ノ加奈太ニ般鑑ヲ止メタル「フアーミリー、コムバグト」類ナリ政府タル者之ヲ抑制スルニ盡瘁セシテ却テ之ヲ助長シ之ヲ庇護シ烈火ニ油ヲ注ギテ已ムナクハ則チ不義ノ富ニ對スル國民生活難ノ鬱憤ハ獨リ富家及ヒ元老ニ向ハス更ニ政府ニ向テ勃發スルノ日無キヲ保セザラム此ハ不祥事件ノ善後策ニ没々タル内閣諸公ノ必ス誠意ヲ以テ聽クヘキノ事ト思料ス前項ノ質問有ル所以ナリ

第十三項 最近ノ滿洲ベスト發生ニ際シ滿鐵會社ハ三井ヲ經テ九州炭ヲ買入レ滿洲其他ノ市場ニ對シ撫順炭代用ニ辨セリ滿鐵モ世人モ此舉ヲ解シテ以テ撫順炭坑ニ於ケルベスト發生ヲ探炭一部ヲ中止セシムルニ因ルト爲ス然トモ是レ恐ラク皮相ノ見タル所以ハ奈何ソ曰ク滿鐵カ九州炭ノ買入ニ著手シタルハ鼠疫カ未ダ哈良實以南ニ入ラス撫順ノ如キハ尙ホ安全ヲ保障サレシ昨年十二月ニ始マリタレハ也鼠疫カ撫順採炭作業上ニ故障ヲ與ヘシ事實ハ首肯スヘキモソレ以前ニ溯リテ撫順出炭ノ豫想顛倒ノ別ケ事實カ伏在スルニ非ラサル乎此點ニ關スル政府ノ調査如何

參照 撫順炭坑ノベスト發生ハ苦力ノ一二八ニ過キス

第十四項 撫順炭坑出炭高及採掘費ノ昨年一月ヨリ本年二月ニ至ル明細表ヲ要求ス

第十五項 昨年九月三十日現在ノ貯炭高十萬八千九百九十三噸ヲ報告セル滿鐵會社ハ昨年末ニ幾何ノ貯炭ヲ現有セシ耶

第十六項 昨四十二年十月滿鐵會社カ大阪鐵工場ヨリ引渡ヲナセル日本最大ノ淺瀬船隻島丸(價格約二十萬圓トカ)ハ引渡ノ當日船内祝宴終リテ間モ無ク即チ大連港内繫留中俄然轉覆セリ轉覆ノ原因如何保管不注意ノ責任如何第十七項 滿鐵會社ハ一萬圓ニ近キ巨額ノ資金ヲ投シテ大連ノ西方沙河河口ニ巨大ナル工場用建物十餘棟ト社員職工用ノ宿舍數百棟ヨリ成ル所ノ大工場ヲ建設シツ、アリ

抑南滿鐵道ハ安奉線ヲ加ヘテ本支線約七百哩ニ過キサル會社ノ鐵道線路タリ然リ而シテ斯ク巨大ノ製作物ヲ設クル必要安クニ在リヤ政府之ヲ必要トスル理由ヲ詳シク辯明アレ

第十八項 沙河河口工場敷地附近ナル海岸黑石礁(邦人先頃星ヶ浦ト命名セリ)ニ數千萬圓ヲ投シテ大遊園地ヲ築キ中ニ滿鐵直營ノ「ヤマトホテル」分店並ニ之ニ附屬スル數棟ノサママーヴィラ即チ夏季別荘ト一二軒ノ日本料理店ヲ設ケタルカ滿鐵高級社員等カ自ラ此ニ樂ムノ外ニ邦人居住者中此贅澤ナル設備ヲ利用シ得ル者乃至利用スル者甚少シ

夫レ元利支拂義務ノ背後ニ廻ル外國社債ニ依賴シテ纔カニ其日ヲ送ル滿鐵會社トシテハ這般ノ行爲ハ過分ノ至リナラスヤ若シ夫レ滿鐵會社ニテハ北滿地方ニ居住スル歐米人ノ遊樂地トシテ之ヲ吸集スルカ爲メナリト稱スルアラシク請フ目的物タル外人ノ頭數——滞在日數及費消金額ノ根據アル豫想ヲ滿鐵會社ヨリ提示セシメ該豫想ノ當否ヲ判斷スルノ材料ヲ吾等ニ獲セシメヨ

第十九項 滿鐵會社ハ明治四十二年中數十萬圓ノ資金ヲ以テ柞蠶絲工場ヲ經營セルカ僅ニ右昨年度ノ一期ヲ實驗シタル而已ニテ忽チ閉場シ了リス試驗料ノ數十萬圓ハ餘リニ不廉ニ過キス耶滿鐵會社ノ忽チ一業ヲ起シ忽チ一業ヲ廢スル此一事ニ止マラサルカ如シ政府ハ前述ノ輕舉ニ對シ何等ノ戒飭ヲ加ヘタリヤ夫ヲ聞カマホシ

第二十項 國家カ滿洲ノ保安及ヒ利權維持ニ要スル費用ハ軍隊費約六百十萬圓都督府經費約三百萬圓其他領事館費臨時費等ヲ合セテ年額九百四十萬圓ヲ下ラス而シテ其ノ利ヲ享クル者ハ專ラ滿鐵會社ト三井是有ル而已抑世界ノ普通殖民地ノ歲入ハ海關稅鐵道收入等ヲ以テ主要財源ト爲スコトヲ通則トス然レニ我邦ノ滿洲ニ於ケル場合ハ主權清國ニ存在シテ海關稅ハ我ノ自由ニ歸セサルカ故ニ行政費ノ財源ハ專ラ之ヲ滿鐵ノ鐵道收入ニ歸スラ至當トス然レ共滿鐵ノ現狀ヲ以テ將來ヲ推スニ彼カ財源供給ノ極メテ薄弱ナルヲ免カレザラム現ニ滿鐵ノ政府出資ニ對スル配當カ昨年ノ三月ニハ雖如トシテ二百五十萬圓ヲ致セシニ拘ラス同年九月ニハ忽チ五十萬圓ノ配當ニ激減セシ如キ不定不準ノ有様ナルヲ以テ行政費財源トシテ確信ヲ措キ得ヘカラス殊ニ最近ベスト防遏費ノ如キハ百萬圓中都督府支出三分ノ二ニシテ滿鐵ハ却テ三分ノ一ニ過キサル奇觀ヲ呈シタリ是滿鐵ノ特典餘リ有ッテ而シテ效果却テ不良ナル所以ヲ半面ヨリ證スル者ニシテ亦實ニ滿洲ノ維持費カ國家財政ノ累ヲ釀スコト前途益々加ハラムトスル事ヲ豫報スルニ等シ政府ハ滿鐵經營ノ方針ニ根本的革新ヲ英斷シ以テ其カ過大ノ費途ヲ緊縮シ國家ノ費用ニ轉補セシムル精神及ヒ用意無キ耶

第二十一項 滿鐵會社ハ本社ヲ大連街ニ置キ大連街ノ道路ヲ使用シテ電燈電車其他各種ノ事業ヲ經營シナカラ社員住宅ノ一廓及ヒ下級社員宿舍ノ一區ヲ無稅區域ト爲シ一般居住民三萬餘人カ諸稅公費等年額二十五萬圓ヲ負擔スルニ拘ラス滿鐵社範圍ノ者五千人以上ハ自己區域ノ掃除費ヲ納ムル外何等ノ負擔ニ任セサル也非道モ亦甚シ政府ハ永久之ヲ不問ニ附スルノ意ナリ耶

第二十二項 對國家ノ滿鐵位置ハ宛ナカラ彼ノ西洋諸國ニテ殖民地カ本國ト遙ニ懸隔スルタメ政府自ラ殖民事業ニ手ヲ下シ得サル場合ニ限リ應用スル變法タル「チャーター、コムパニー」ニ酷似シ其組織ニ行政權ノ一部ヲ運用スル特權ヲ收ムルカ租借地内ニハ關東都督府並ニ租借地外ノ開放地ニハ領事ヲ駐在セシムル滿洲内ノ我私設鐵道會社ニ對シ斯ル特權ヲ繼續セシムルハ百害アリテ一利ナシ政府ハ將來ト雖モ此有害ナル組織ヲ改メサルノ方針ナリ耶

第二十三項 滿鐵會社ハ附屬地内居住ノ一般邦人ニ對シ同一地區内ニ住スル自社員ニ對スルヨリモ二倍乃至三四倍ノ課金——課金ト云フハ教育費衛生費等ニテ畢竟租稅ナリ——三四倍ノ課金ヲ徵收シ又滿鐵會社カ沿道各地ニ有スル病院ニ於テハ藥價治療代共ニ一般居住者ニ對シ自社員ニ對スルヨリモ倍額ヲ徵收ス此ハ不當ノ處置ニ非ラサルカ

第二十四項 滿洲ノ生活程度ハ内地ニ比シテ左程ノ懸隔無キニ滿鐵會社カ社員ニ對シ給料同額ノ手當ヲ別途ニ給與シ益暮ノ實與モ亦大ナルハ浪費主義ノ發動ニ非サル乎

參照 直接監督者タル後藤遞相ノ部下ニ濫惠實思シテ國費ノ徒消ヲ顧ミサル事實ハ一ニシテ足ラス現ニ鐵道院中央教習所カ有給驛員ヲ在職ノママ收額教練スルニ生徒百名ニ對シテ經費年額五萬圓ヲ使用シ其寄留舍ノ如キハ費

澤ヲ極メ風呂場ナトハ一週二度ノ入浴ナルニ瓦斯代一箇月百四十圓ヲ支拂フ此ハ石炭ヲ代用スレハ十圓内外ニテ事足ルナリ、遞相ノ國財ヲ濫費シテ政治遣口ノ大風呂敷ヲ廣ゲルコト萬々此類ナリトス

第二十五項 滿鐵會社カ多數ノ清國人ヲ附屬地内ニ招致シ土地ノ繁榮ヲ策セントスルハ可ナルモ其手段トシテ特ハ邦人居住者ニ比シ一層輕キ課金率ヲ定メ地料ヲ廉ニシテ之ヲ誘ハントスルハ請負法ヲ以テ徵稅ニ從事シ居ル清國地方官憲ノ感情ヲ害シ延ヒテ國交上ニ累ヒスルコトナキカ奈何

第二十六項 滿鐵會社ノ工事請負法ハ請負業者ノ競争スルニ任セ自家所定ノ工費豫算ヲ無視シテ愈々其價格ヲ低下セシムルメニ事ハ一般ニ粗漏劣惡トナリ又竣工期限内ニ竣工スルモノナシ交通機關タル鐵道トシテ後來危險ヲ來スノ恐ナキカ幸ニ危險ノ恐ナシトスルモ鐵道會社トシテ將來永久ニ不利益ヲ遺スモノニ非ラサルカ目下進行中ナル安奉線改築工事ハ指名請負工事ナルモ前件ノ事情ニ基キ到底豫定ノ費額ト豫定ノ期限ヲ以テ竣工シ得ル見込ナキカ如シ工事竣工期ニ關スル政府ノ責任アル所見ヲ質サ

第二十七項 五十餘噸ノ大機關車ヲ始メ二、五十噸以上ノ大容貨車ヲ以テ組織スル重列車ヲ駛走セシムル廣軌鐵道ニハ少クモ七十封度以上八十五六封度位ノ重量軌條ヲ用ユルコト普通通ナルヘキニ滿鐵線路ニハ六十四五封度ノ輕量軌條ヲ使用シ居ルニ似タリ果シテ然リヤ否ヤ

第二十八項 滿鐵會社ノ使用シ居ル客、貨車ハ用材劣等即チ米國松(オレゴンパイン)竝ニアツシ樹ノ一種ノミヲ用ヒタルモノニテ亞米利加ニテハ、エミグラント、カー(移民用車)ト稱シ移民乘用ノ外ニハ用ヒサル劣等ノモノニシテ製作粗漏ヲ極メ使用時日三箇年ニ滿タサル昨夏中已ニ兩漏リスルモノサヘ數カラス又機關車ハ走行哩一千哩ニ對シ三日乃至四日間ノ修繕時間ヲ要スル如キ脆弱ノモノナルカ滿鐵會社ハ此上社債發行又ハ借入金等ヲ爲スコトナク營業上ノ益金ヲ以テ是等ノ車輛ヲ改造シ得ル見込アリヤ又何故ニ當初斯ク劣等ノモノヲ買入レタリ耶

是等ノ車輛モ亦悉ク三井ノ手ヲ通シテ米國ノ「アメリカン、カー、エント、フアウンドリ」會社「アメリカン、ロコモティブ」會社ヨリ買入レシメタルモノナルカ先頃廣軌改築問題喧傳スルヤ「アメリカ、カー、エント、フアウンドリ」會社ハ其支配人ムクニツク氏ヲ派遣シ來リシニ後藤遞相ハ東京ニ於テ三井ヲシテ之ヲ響應セシメタルハ去一月中ノ事ト記憶ス茲ニ附言ス

第二十九項 大連埠頭内ノ荷捌法ハ一定ノ數ヲ限レル專業荷役請負業者ノ自由競争ニ附スルコト最善ノ方法タルニ滿鐵會社カ之ヲ直營スルハ埠頭能力ノ發揮ヲ遮キルモノニ非サルカ如何

第三十項 滿鐵會社ハ去四十二年十月輸送直營ノ名ノ下ニ邦人二千ノ從業者ヲ有スル運送業ヲ一般ヨリ奪テ數人ヨリ成ル一團體ニ請負ハシ此輸送路ヲ改メサルカ如キ又長春地方ヨリ東清鐵道ニテ六百二十四哩ノ遠距離ニ輸送シタル大豆ハ同シク長春ヨリ滿鐵線ニテ四百三十五哩ナル大連ニ輸送シタルモノニ比シ每壹擔滿鐵會社ノ立噸ハ米國風ナルニ付約十五擔一噸ノ計算ニ付約銀二十五仙(金銀ノ差ハ約一割五分)乃至三十仙方ニ廉價ナルカ如キ又奉天竝ニ奉天以北各地ト營口間ニ輸送サル、貨物中滿鐵線ニ比シ約五十哩遠キ京奉線ニ據

ルモノ常ニ滿鐵線ニ據ルモノニ比シ五六倍スルヲ見ハ如何ニ滿鐵貨率ノ高キカラ知ルニ足ラム

以上ハ滿鐵線路全般ニ互リテ言ヘルモノナルカ其中尤モ甚シキモノハ滿洲唯一ノ不凍港トシテ別ニ人爲的助長法ヲ加ヘストモ充分繁榮スヘキ素地ヲ有スル大連ノ繁榮ヲ助長センカ爲メ設ケタル營口ト大石橋以北各地間ノ貨率率是ナリ此貨率ハ百五十哩許近距離ニ在ル營口ト夫丈遠キ大連ト是等各地間トノ運賃率同一若クハ同一ニ近カラシメタルモノニシテ甚タ不條理ナル、ハンディキャピン(手加減法)タルヲ免レス爲メ清國並ニ關係列國ノ感情ヲ害スルコト甚シク清國ニ對シテハ新法、錦愛兩鐵道並ニ遼河凌漢等ノ諸計畫ヲ激成セシムルノ動機トナリ又列國ニ對シテハ我對滿政策ノ公明ヲ疑ハシムルノ原因トナル米國中立提議、如キモ其動機ノ最大部分ヲ此ニ發シタルハ疑ナキ處ナルカ政府ハ滿鐵會社ヲシテ一般ノ貨率ヲ輕減シ且營口運賃ニ對スル不條理ナル手加減法ヲ又昨四十二年十月愈々會社ノ直營ヲ爲シタル以後ノ輸送成績ハ益々不良トナル有様ナルカ政府ハ之ヲ矯正スルノ意ナキカ交通不便ナル滿洲ノ如キ土地ニ於テ鐵道カ其主要補助機關タル運送業者ヲ廢止スルハ自ラ手足ヲ斷テテ不具ノ運輸機關ヲラシムルニ同シカラサルカ又直營若クハ國有ニ對スル理想ハ一般ニ貨率ヲ安クシ貨物ノ取扱ヲ正確ニシテ多數荷主ノ便利、利益ヲ計ルニ在ルニ滿鐵會社ハ直營實施後貨車並ニ馬車積卸料等ヲ引上ケタルハ如何ナル理由ニ據ルカ

第三十一項 滿鐵會社ノ運賃ハ旅客貨物ノ何レヲ問ハス甚タ高率ニ失シ東清鐵道、京奉鐵道何レノ運賃ニ比シテモ極メテ高シ是レ當然滿鐵線路ノ貨物タルヘキ物資カ常ニ東清、京奉二線ニ奪ハル、所以ナリ例セハ黑龍江省官鹽局ハ我租借地ニ接近セル復州產ノ鹽ヲ齊齊哈爾地方ニ輸送スルニ近距離ナル滿鐵線ニ據ルコトナク海路營口ニ送り一旦同所ニ陸揚シタル後更ニ汽船ニ積込ミ九百一二十哩ノ海路ヲ迂回シテ浦鹽港ニ送り夫ヨリ東清鐵道ニテ陸路約六百八十哩ノ距離ヲ齊齊哈爾ニ輸送スルナリ、若シ滿鐵線中復州ノ產鹽地ト最モ近距離ナル田家驛又ハ普蘭店ヨリ滿鐵線ニテ輸送スルトセハ此兩地點ヨリ齊齊哈爾迄ノ距離ハ約七百二十哩若クハ七百十五哩ニ過キサルヲ以テ營口浦鹽間ノ海路ハ全ク省クヲ得ヘキニ細微ノ計算ニ據目ナキ清國官鹽局カ遂ニ之ヲ廢絶セシムル意ナキカ以上十數項ハ讀ミテ文ノ如クナレハ意乃チ達スルニ付別ニ説明ヲ添ヘス

上來說述スル質問ノ内容ハ本員之ヲ數年ニ互リテ注意審查ノ上尙昨秋滿洲ノ實地ヲ踏査シ更ニ本年最近ノ事實ニ迄研到シタル末、到底疑惑難釋ニ付不得已質問ニ及ブ次第ニシテ國ノ爲ニ諱ムヘキ様ノ點ハ成ルヘク之ヲ避ケタリ本員ノ誠意ヲ酌取ノ上至急答辯アラムコトヲ切望ス

明治四十四年三月二十日

鈴木 力

衆議院議事速記錄第二十四號正誤

頁	段	行	誤	正
五六四	下	一三	意デアリマス次ハ	意デアリマス、次ハ第百三十一號鐵道建設ノ請願書縣南津輕郡源田村長谷川春次郎ノ呈出ニシテ武藏金吉君外一名ノ紹介ニ係ル件デアリマス、次ハ
五六六	上	一五	領事館	領事官